慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	知見孔子家語諸本提要(三)
Sub Title	
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1989
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.24 (1989.) ,p.1- 141
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000024-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

知見孔子家語諸本提要(三)

山城喜憲

○清人撰述注釈書類

本稿(一)(二)を承けて、中国清朝の経学者によって撰述された注釈書類四種を紹介する。所謂清朝考証学の隆昌に伴い、宋明の理学を退け、漢唐より更に先秦へと経典の真実が求められた一方で、古典の多くが後儒有意の偽撰であることが暴かれていった。閻若璩（明崇禎九〈一六三六〉年生、清康熙四三〈一七〇四〉年歿）の『尚書古文疏証』がかかる実証的批判的研究の端を開いた論著として周知されている。ほぼ同じ頃、姚際恒（順治四〈一六四七〉年生、康熙五四〈一七一五〉年歿）は『古今偽書考』経類の内に『孔子家語』を列ねている。『孔子家語』の研究も大筋ではこの経典の実証的批判という学問の潮流に沿って為されたと言える。今回採り上げる四著のうち、姜兆錫の著書は、猶旧来の学風を存して講章的注釈に止まっているが、他は現行今本家語本文に対する懐疑より発した著述である。殊に范家相、孫志祖の両著は精権且つ該備な分析検討を加えて、家語本文偽撰の事実を考証闡明したもので、文献学上、或は思想史の面からも看過し得ない業績であろう。今日ほぼ定説となっている王肅偽撰説は此の両著の研究成果に負うところが大きい。現在に及ぶまでなおこれを凌駕する研究はなされておらず、今後の家語研究の基盤となる遺業として、充分に評価されるべきであり、また慎重な検討を必要ともする。本稿に於て、

解題提要の体例をやや乱して細述する所以である。

尚、家語注釈の専著は数種が遺存するに過ぎないが、実はその外に文集雑書等に収録された解題序跋・考証論文の類の小篇があって、それらを蒐めれば相当の分量に昇り、清朝家語学の水準を窺う為には必須の文献群となろう。ただ、本稿は著書を対象として著録するものであって、それら小篇の論文解題等に就いては叙述の過程で必要に応じて言及するに止めた。

清代に於て注釈考論の対象となり、考証論述の根拠ともなった家語本文のテキストは、前代に刊刻された明嘉靖三三年黄魯曾翻南宋刊本、明隆慶中陸治校刊本、明萬暦一七年序刊呉嘉謨集校本、銭受益校明末刊本、金蟠・葛鼐校明末永懐堂刊本、或は何孟春編注本、そして毛晋汲古閣刊本等であろう。しかし、汲古閣刊本を除いては、一部に重印或は修印されたものの、清朝に入って更に重刻されて流布するに至った形迹は無い。明末清初に於て、毛晋が顕彰した宋版二種及び、その一方に拠れる翻刻である汲古閣刊本の出現は、清朝学人の家語研究に多大の刺激と便宜を供したものと推察される。四庫全書に収入写定され、重印翻刻が相継いだ事実に照して明らかであろう。これら旧刊諸本の伝流に就いては本稿㈠に於て既述した如くである。もとより遺漏もあろうが、㈠諸言等合せて参照されたい。

家語〔正義〕 一〇巻 清姜兆錫撰 姜允重・姜允遠校 清雍正一一(一七三三)年刊(寅清楼) 先聖遺書之一

封面有り、「丹陽姜上均正義／先聖遺書／一家語 一孔叢本衙蔵板」と題され、上辺上右から左へ「雍正十一年鐫」と刻さる。首に「家語正義序」(「雍正二年甲辰孟夏 丹陽姜兆錫恭序」)、「至聖年表正譌」及び「家語目録」を冠す。本文巻頭「家語巻之一」、次行低一二格「姜兆錫正義 男允重 允遠校」、第三行低二格「相魯第一(小字双行注あり)」と題し本文に入る。四周単辺(一八・一×一二・五糎)、有界、九行行廿五字、注小字双行行廿五字。版心白口双黒魚尾、「家語(篇名) 巻幾 (丁付)」、各巻首葉下象鼻に「寅清楼」と刻さる。句点・圏点付刻。封面題の如く、「先聖遺書」と題して「孔叢〔正義〕五巻」と合刊。

四庫存目著録。「兆錫乃從葛鼐之本、竄亂舊次、殊爲勇於變古。其訓釈亦似俗下。講章之體、不足以資考證。」と。

〈内閣文庫蔵〉 四冊(子1 2)

淡茶色表紙（二三・一×一六・二糎）、書題簽「合刻孔子家語正義元（一貞）」と墨書。各冊表紙ほぼ中央に、「趙子昂云。吁聚書蔵書良匪易事。善観書者。滌／手焚香。拂塵浄几。毋捲脳。毋折角。毋以瓜侵字。／毋以唾掲幅。毋以夾刺。毋以作枕。隨損隨修。隨／開隨掩。後之得吾書者。并奉贈此法。予亦云爾。／（低九格）大阪府　臨照堂収蔵」なる朱大長方印が捺さる。「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書畫之印」（朱方）の印記。松井羅州（耕讀園、文政五〈一八二二〉年没）、毛利高標遞蔵。

〈同蔵〉　四冊（298 22）

淡茶色表紙（二三×一六・一糎）、「孔子家語正義　年表正譌　一之三　一」等と墨書。第四冊は「孔叢子正義　一之五　全」。封面を欠く。「兼葭堂／蔵書印」（朱長方）、「昌平坂／学問所」（墨長方）、「文化甲子」（朱無郭）、「浅草文庫」（朱長方）の印記あり。

〈同蔵〉　三冊（298 25）

茶色表紙（二四・四×一六・二糎）、「孔子家語正義　幾」と墨書。第三冊は「孔叢子正義　一之五　全」。封面無し。「家語目録」を欠き、「至聖年表正譌」の次に孔叢首にあるべき「至聖像記」を配す。孔叢の一部に朱句点圏点の書入があり、末に「二月旬五一讀了」と墨識語あり。「昌平坂／学問所」（墨長方）、「天保壬辰」（朱無郭）、「浅草文庫」（朱長方）、「大学校／図書／之印」（朱方）、「日本／政府／図書」（朱方）、「大日本／帝国　／図書印」（朱方）の印記。

〈無窮会図書館蔵〉　孔叢欠　二冊（真軒477）　三宅真軒旧蔵書

淡茶色表紙（二四・一×一六糎）。序目順次は、「家語正義序」の次に目録、次に「至聖年表正譌」を配す。本帙は「九経補注」の附冊として架蔵され、孔叢〔正義〕を欠く。「真軒／蔵書」（朱方）の印記あり。

〈東京大学文学部蔵〉　孔叢欠　二冊

後補紺色表紙（二三・三×一五・九糎）、外題無し。封面を欠く。改装の為欠落せるか。「家語正義序」の次に「至聖像記」を配す。「東京帝／国大学／図書印」（朱方）の印記。

本書の巻立は、従前通行の王肅注本に従って、四十四篇を十巻と成す。但、首の「家語目録」巻九の巻数下に「此下二巻、汲古閣本、以七十二弟子本姓終記正論四篇為巻九、以三曲礼篇為巻十、今按葛鼐本正之」との施注がある如く、巻九・十両巻の篇次は、汲古閣本、本邦古活字版、翻南宋刊本等とは異なり、明葛鼐等校〔明末〕永懐堂刊本の順次に倣っている（本稿(一)232

頁参照)。しかし、その永懐堂刊本の篇次を正しいと看做すべき論拠の提言は無く、「正之」との言辞には直ちに承服は出来かねる。四庫提要の「従葛鼎(ママ)之本竄亂舊次」との批判はこの篇次に対しての言及であろう。

また目録の巻一「王言第三」下の注に、「王言舊目作王言解.此下大婚儒行五儀本命五刑冠頌廟制辨樂屈節正論本姓終記七十二弟子諸篇.皆有解字.今按諸解字.頗無義.且如冠頌正論終記之属加一解字.如何可通.疑俗本率標之也.今並節之」と述べ、例えば永懐堂刊本では王言解第三・大昏解第四・儒行解第五・五儀解第七・本命解第二十六・五刑解第三十・冠頌解第三十三・廟制解第三十四・屈節解第三十七・正論解第三十八・本姓解第四十二・終記解第四十三・七十二弟子解第四十四とある篇名の「解」字を悉く削除している。(但し、本文中の篇題では、五刑解、廟制解の両解字は存す、失刻であろう)。諸本を対讐校勘する手続を経ず、「按諸解字頗無義」或は「疑俗本率標之也」とのむしろ印象的論断に依る字句の改易は武断のそしりを免れない。提要が「殊為勇於変古」と批斥する所以であろう。

本書の正文は、巻立から察て汲古閣刊本を始めとする王肅注諸本に近接したテキストであると推察される。しかしながら、著者拠用の直接の底本が何本であるかは今一つ明確ではない。此の底本を推定する為には、本書注釈中の校勘注記を検証しておく必要がある。以下、此の注記を列記するが、先ず注文の対象とする正文数句を掲出して次に「(正義)」を冠して姜氏校勘注記の全文を示す。またその姜注に次して当該校注事項に就き諸本との同異を私に補述した。対校諸本は本書が成立した清雍正年間を考慮に入れれば、次の王肅注本四本を以ってして不足はないはずである。

孔氏家語一〇巻　魏王肅注　明毛晋校　〔明末〕〔常熟〕毛氏汲古閣刊本

孔子家語一〇巻　魏王肅注　民国初上海商務印書館影印江南図書館蔵明黄魯曾翻南宋刊本

孔子家語一〇巻　魏王肅注　明金蟠・葛鼎校　〔明末〕永懐堂刊本

孔聖家語図一一巻　〔魏王肅〕注　明呉嘉謨集校　明万暦一七年序刊本

此の王注四本の外に、明末に刊行され清代前期に流布したと思われる次の通俗本四本を参照付記する。

新鍥台閣清譌補注孔子家語五巻首一巻　題明鄒德溥補注　劉

元卿校正　〔明万暦〕〔建陽〕喬山堂劉竜田刊本

鼎鋟二翰林校正句解評釈孔子家語正印三巻首一巻　題明顧錫疇注釈　孔貞運評林　明天啓三年序怡慶堂余完初刊本

新刻張天如太史評釈孔聖家語五巻　題明張溥注　〔明末〕熊氏刊本

孔子家語八巻　明何孟春注　明永明書院刊本

以上八本、毛本、黄本、永本、呉本、鄒本、顧本、張本、何本の略号を用いる。尚、掲出正文下（　）内に本版の巻数、丁数、行数、篇名を示した。

1 行之一年而四方之諸侯則焉（一1a7相魯第二）

（正義）四一作西非

毛本・黄本・永本・呉本並作「西」、鄒本・顧本・張本・何本並作「四」

2 不以其道治之不可以覇王（一6b4王言第三）

（正義）覇王之上俗本有致字大戴礼無

毛本・黄本・永本・呉本並有「致」字、鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

3 **天下之至知者能用天下之至和也**（一9b1同前）

（正義）俗本脱天下之至和二句今従大戴礼定之

毛本・黄本・永本・呉本・張本並無此二句、鄒本・顧本・何本闕此段

4 今孔子在衛請以重幣迎之（一12a9儒行第五）

（正義）俗本今孔子在衛之下有衛将用之・已有才而以貲鄰国難以言智也・二句非

毛本・黄本・永本・呉本・鄒本・顧本・張本・何本並有此二句

5 子路問于孔子曰管仲之為人何如云云不死束縛而立功名未可非也（二4b5～5a6致思第八）

（正義）俗本節末有召忽雖死過于取仁未足多也三句非

毛本・黄本・永本・呉本並有此三句、鄒本・顧本・張本・何本並闕此章

6 **孔子語子貢曰鄉者君問丘曰子従父命孝臣従君命貞乎賜以為何如**云云之謂孝之謂貞矣（二12a3～8三恕第九）

（正義）一本章首有魯哀公問于孔子曰子従父命孝乎臣従君命貞乎三問孔子不答孔子趨出以語子貢七句

正義云一本、与永本・呉本・何本符合、但並「答」作「対」、毛本・黄本無此七句及本章首二十八字

7 如此二者則道不可以**委**也（三3b4観周第十二）

（正義）委俗誤作忘今從説苑改正

毛本・黄本・永本・呉本並作「忘」、鄒本・顧本・張本・何本並闕此章

8孔子対曰衛霊公公曰吾聞其閨門之内無別也孔子曰臣観其朝廷行事未観其私家之際也（三a9 9～b9 2賢君第十三）

（正義）旧本稍異從説苑本定之

毛本・黄本・永本・呉本並作「孔子対曰丘未之見也抑有衛霊公乎公曰吾聞其閨門之内無別而子次之賢何也孔子曰臣語其朝廷行事不論其私家之際也公曰其事何如」

9若夫有道下人**何哉**（三b11 1同前）

（正義）何哉俗本作又誰下哉非今從永懐堂本

永本・呉本・鄒本・顧本・張本・何本並「何哉」、毛本・黄本作「又誰下哉」

10故天殃所宜加其廟焉是以占之為然（四a2 6六本第十五）

（正義）坊本占之為然以下有公曰天何不殃其身而加罰其廟也孔子曰蓋以文武故也若殃其身則文武之嗣無乃殄乎故殃廟以彰其過適我園遺本無此七句今從之

毛本・黄本・永本・呉本有此七句、但「故殃廟」四本並作「故当殃其廟」。鄒本・顧本・張本・何本並闕此章

11親親之殺尊賢之等礼所生也礼者政之本也（四a13 3哀公問政第十七）

（正義）俗本所下有以字非永懐堂無以字与中庸合今從之

永本・呉本・鄒本・顧本・張本並無「以」字、毛本・黄本有「以」字

12叔孫武叔**問**未仕於顔回回曰賓之（五a4 7顔回第十八）

（正義）問俗本誤作見

毛本・黄本・永本・呉本並作「見」、何本此二句作「叔孫武叔見於顔回」八字、鄒本・顧本・張本並闕本章

13君子修道立徳不為困而改節故居下而無憂者則思不遠（五b8 8在厄第二十）

（正義）俗本衍詞太勝所称小白霸心生於莒重耳霸心生於曹衛勾践霸心生於会稽等語意尤未瑩而諸本亦互有同異殆伝之者過也王父静宜先生適我園本刊削此文今從之

「改節」下、毛本・黄本・永本・呉本・鄒本・顧本・張本並有「為之者人也生死者命也是以晋重耳之有霸心生於曹衛越王勾践之有霸心生於会稽」三五字、但鄒本「勾践之有霸心」「霸」字作「伯」、何本「晋」下有「公子」二字、「会稽」下更有「斉桓公小白之有霸心生於莒」一二字

14子貢問曰賜倦于学云云察其從則隔如也此其所以息也（五14a～14b 7困誓第二十二）

（正義）俗本末尚有子貢曰大哉乎死也君子息焉小人休焉大哉乎死也五句適我園本刪之

毛本・黄本・永本・呉本並有此五句、何本無此末一句五字、「大哉乎死也」作「大哉死乎」、張本無此五句、鄒本・顧本闕此章後半

15六官在手以為轡司会均弐以為納（六4b 9執轡第二十五）

（正義）弐俗本作仁蓋弐二字通而訛二為仁也

毛本・黄本・永本・呉本・鄒本・顧本・張本・何本並作「仁」

16夫徳盛則法修徳不盛則**政**飭法与政咸徳而不衰故曰王者（六6a 8同前）

（正義）俗本飭上無政字按大戴礼徳盛則修法徳不盛則飭政法政而徳不衰則此飭字之上当有政字而彼飭字亦当為飭故定之

毛本・黄本・永本・呉本並無「政」字、鄒本・顧本・張本・何本闕此段

17五声**六律**十二管還相為宮（七11b 9礼運第三十二）

（正義）六律俗誤作五律今依礼記正之

黄本・永本作「五律」、毛本・呉本・顧本・張本並作「六律」与本版同、鄒本・何本闕此段

18先王秉蓍龜列祭祀瘞絵宣祝嘏**辞説**設制度故国有礼（七12b 2礼運第三十二）

（正義）俗本宣祝嘏之下脱辞説二字而羨祝嘏辞説四字於設制度之下今依礼記正之

黄本・永本・呉本与正義云俗本同「宣祝嘏」之下無「辞説」二字、「制度」之下有「祝嘏辞説」四字、毛本与本版同、鄒本・顧本・張本・何本闕此段

19其所以異皆降自西階玄端与皮弁**皆韠**朝服素**韠**（八2b 4冠頌第三十三）

（正義）皆韠二字俗誤作異今按大戴礼公符篇云公玄端与皮弁皆韠朝服素韠蓋脱皆字而誤韠為異也

毛本・黄本・永本・呉本並作「異」、素韠之韠毛本・黄本作「畢」、呉本作「韠」、鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

20況祖宗其功徳而**何**以不尊奉其廟焉（八5a 3廟制第三十四）

（正義）何俗誤作可

毛本・黄本・永本・呉本並作「可」、鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

21三数叔魚之罪不為末減**咸**曰義可謂直矣（九5a4正論三十八）

（正義）咸俗訛作或從左伝作咸

永本作「或」、毛本・黄本無「減」字、咸作「或」、黄本・永本王注「或左伝作咸也」、毛本王注「或左伝作義」、呉本脱「咸」字並王注、鄒本・顧本・張本・何本闕此段

22人之於冉求信之矣将大用之**乃行**（九9a1同前）

（正義）俗本末脱乃行二字

毛本・黄本・永本・呉本並無「乃行」二字、鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

23君子之行必度於礼施取其厚事挙其中斂從其薄若是其**以**丘亦足矣不度於礼而貪冒無厭則雖**以田賦**将**又**不足且**季**孫若**欲行**而取法則有周公之典在若欲犯法則苟行之又何訪焉（九11b3同前）

（正義）此節俗本多誤文從葛鼐本定之

永本・呉本共同文、毛本・黄本「其以」之以作「已」、無「難以」之「以」字、「田賦」作「賦田」、「将又」作「将有」、「季孫」作「子孫」、「欲行」作「以行之」。鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

24八十則不**俟**朝君問則就之而悌達乎朝廷矣（九12a9同前）

（正義）俟俗作仕非從祭義作俟

毛本・黄本・永本・呉本・顧本・張本並作「仕」、鄒本・何本闕此段

25孔子在衛司徒**敬子**卒夫子弔焉（九16a3曲礼子貢問第三十九）

（正義）敬子旧誤作敬之

毛本・黄本・永本・呉本並作「敬之」、鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

26原思言於曾子曰夏后氏之送葬也用**明**器示民無知也（略）夫**明**器鬼器也祭器人器也古之人胡為而死其親也（九29a5～7曲礼公西赤問第四十一）

（正義）明俗本作盟依檀弓作明

黄本・永本・呉本・顧本・張本並作「盟」、毛本与此本同作「明」、鄒本・何本闕此段

27反饋楽成進**其**燕俎序其礼楽備其百官（九30a5同前）

（正義）進其燕俎俗本作進則燕俎今参祭義定之

毛本・永本・呉本並作「進則燕俎」、黄本・鄒本・顧本・張本・何本並闕此段

28伯夏生叔梁紇雖有九女而無子其妾生孟皮有足疾於是乃求婚於

顔氏（十a 2 2本姓第四十二）

（正義）旧称孟皮一字伯尼非孔子以禱于尼丘而生故名丘字仲尼若其兄本字孟皮安得又以伯尼附会之耶

毛本・黄本・永本・呉本「其妾生孟皮」下並有「孟皮一字伯尼」六字、鄒本・顧本・張本此段節略多、但有「字伯尼」一句、何本与諸本有異同、無「字伯尼」句

29寛冲博接従容自務（十a 7 2七十二弟子第四十四）

（正義）接旧註捷同

永本・呉本・鄒本・顧本並有此注文、毛本・黄本無、何本闕此文、張本闕此七十二弟子篇

30其妻藜蒸不熟因出之（十a 7 8同前）

（正義）藜葛本作梨

永本・呉本・鄒本・顧本並作「梨」、毛本・黄本与此本同作「藜」、何本闕此文

以上の姜氏校勘注記のうちで、具体的に示された対校テキストとしては、9 11の永懐堂本、23の葛鼐本、30の葛本、10 13 14の適我園本である。永懐堂本・葛鼐本・葛本は同一本であり、先に指摘した目録注記の汲古閣本とこの永懐堂本、適我園本の三本が参照されていることが明らかである。適我園本は姜氏注中「適我園遺本」（10）或は「王父静宜先生適我園本」（13）とも見え、丹陽姜氏の伝承家本と思われるが、10 13 14の各項とも、今私に採用した対校八本のいずれにも合致せず、未だ管見の及ばない別本と見做される。また13項の姜氏が言う俗本衍詞のうち、重耳、勾践の覇心については毛本以下の八本に見えるが、小白覇心の記載は何本のみに見えて他の七本には無い。従って、上記三本のほか何孟春注本系の一本をも俗本として参照されているようである。姜氏の校注で具体的にテキストを示しているのは上記の数個処に過ぎず、諸本を俗本と凡称しその旧文を非として正文を改更する場合がほとんどである。そして、9 11 23各項のごとく永懐堂本を俗本と区別している個処もあるが、上述30項を仔細にみれば、その永懐堂本もまた俗本の範疇に含まれることがむしろ多く、汲古閣刊本以下の諸本もまた俗本と見做されていることが明らかであろう。本書はこれら俗本の本文を非として、礼記・大戴礼・左伝・史記・国語・説苑・新序等に互見の同事類文に従って旧文を改変する処が少なくない。このこともまた「殊為勇於変古」との批判が生じる一因であろう。

此の姜氏校勘注記から本書の底本を確定することは困難であ

る。しかしながら、正文改易に際して示された所拠のテキストが9 11 23 30に見られる永懐堂本及び10 13 14の適我園本の外に無いことから、著者は此の両本を最も遵用したとの推察は容認されるであろう。適我園本は未だ管見に入らず今その存否も知れず検証の手だてがない。

次に、本書即ち正義本と永懐堂本・毛本・呉本及び黄本の王粛注諸本との同異を巻一、七篇に即いて表示してみる。

正義本（相魯第一）	永本（永懐堂刊本）	毛本（汲古閣刊本）	黄本（明翻南宋刊本）	呉本（呉嘉謨集校本）
1 而**四**方之諸侯則焉	○西○○○○○○	○西○○○○○○	○西○○○○○○	○西○○○○○○
2 季氏葬昭公**於**墓道之南	○○○○○于○○○○	○○○○○于○○○○	○○○○○于○○○○	○○○○○于○○○○
3 由司空為**魯**大司寇	○○○○○○○○	○○○○×○○○	○○○○○○○○	○○○○×○○○
4 定公与斉侯会**於**夾谷	○○○○○○于○○	○○○○○于○○	○○○○○○于○○	○○○○○○○○
5 古者諸侯**並**出疆	○○○○○○○○	○○○○×○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
6 俘不**于**盟	○○干○	○○干○	○○干○	○○干○
7 於神為不祥於徳為**僭**義	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○徳○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
8 **匹**夫**熒侮**諸侯**者**罪**応**誅	○○○○○○○○○○	疋○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○惑○○×○当○
9 請右司馬速×刑焉	○○○○○×○○	○○○○○加○○	○○○○○×○○	○○○○○加○○
10 手足異処	○○○○	○○○○	○○○○	××××
11 孔子使茲無**還**対曰	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○選○○
12 吾**以**供命者	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○所○○○

13 斉**人**将設享礼　○侯○○○○　○侯○○○○　○侯○○○○

14 孔子**謂**梁丘拠曰　○○○○○○○○　○○以○○○○○　○○○○○○○

15 是用粃**粺**　○○○○　○○○○　○○○糠

16 用粃**粺**君辱　○○○○○　○○○○○　○○糠○○

17 魯以君子**之**道輔其君　○○○○○×○○○○　○○○○○×○○○○　○○○○○○○○○

18 而子独以戎狄×道　○○○○○夷○×○　○○○○○夷○×○　○○○○○夷○之○

19 **於**是乃帰所侵魯之四邑　于○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

20 入**於**費×之宮　○于○氏○○　○于○氏○○　○于○氏○○

21 孔子命申句須楽**頎**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○傾　○○○○○○○○○

22 有慎潰氏×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○○×

23 売**羊**豚者不加飾　○○○○○○○○　○羔○○○○○○　○○○○○○○○　○羔○○○○○

24 四方客至於邑×　○○○○○○○者　○○○○○○○者　○○○○○○○者　○○○○○○○者

（始誅第二）

25 戮之**於**両観之下　○○于○○○○○　○○于○○○○○　○○于○○○○○　○○于○○○○○

26 魯之聞人**也**　○○○○○○　○○○○○×　○○○○○○　○○○○○○

27 今夫子為政**而**始誅之　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

28 吾語汝**以其故**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

29 二曰行**僻**而堅　○○○○○○○　○○○辟○○　○○○○○○○　○○○○○○○

30 五曰順非而**沢**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○飭

No.	本文				
31	其居処足以**撮**徒成党	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○椒○○○
32	其談説足以**飾褒**桀衆	○○○○○○○○○	○○○○○飾褒○○	○○○○○○○○○	○○○○○飾○○○
33	其強禦足以**反**是独立	○○○○○○○○○	○○○○○返○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○
34	此乃人之姦雄**者也**	○○○○○○○○	○○○○○○有×	○○○○○○○○	○○○○○○○○
35	×此七子皆異世	是○○○○○○	凡○○○○○○	是○○○○○○	凡○○○○○○
36	以七子異世而同悪故不可赦也	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××
37	其父請**正**	○○○○	○○○止	○○○止	○○○○
38	而又**何赦**哉	○○赦何○	○○赦何○	○○赦何○	○○赦何○
39	**孔**子喟然**嘆**曰	×○○○歎○	×○○○歎○	×○○○歎○	×○○○○○
40	**而**後以威憚之	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	然○○○○○
41	重載**渉**焉	○○陟○	○○陟○	○○陟○	○○陟○
42	(王言×第三)	○○解○○	○○解○○	○○解○○	○○解○○
43	**孔**子**閒**居	○○○○	○○閑○	曽○○○	○○○○
44	曽**参**侍	○○○	○○○	○○○	○子○
45	**唯**士与大夫之言**可**聞也	○○○○○○○○○○	惟○○○○○○×○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○×○○
46	至**于**君子之言者希**也**	○於○○○○○○○	○於○○○○○○○	○於○○○○○○○	○於○○○○○○×
47	曽子**起**下席而対曰	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○×○○○○○
48	敢問何謂王**之**言	○○○○○○○	○○○○○者○	○○○○○○○	○○○○○者○

49曾子曰侍夫子之**閒**也難　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○閑○○　○○○○○○○○○○○○○　×××××××××××
50**参**是以敢問　対○○○○　対○○○○　対○○○○○　×××××
51孔子又不応　○○○○○　○○○○○　○○○○○　×××××
52××××負序而立　摳衣而退○席○○　摳衣而退○席○○　摳衣而退○席○○　摳衣而退○席○○
53有頃孔子**歎息**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○××
54顧謂××曰　○○曾子○　○○曾子○　○○曾子○　○○××○
55居吾語汝　○○○○　○○○○　○○○○　××××
56雖有××良馬　○○国之○○　○○国之○○　○○国之○○　○○国之○○
57不可以×道**里**　○○○×○○　○○○取○理　○○○×○○　○○○趣○○
58不可以×覇王　○○○致○○　○○○致○○　○○○致○○　○○○致○○
59則必折衝×千里之外　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○乎○○○○
60其征**也**則　○○×○　○○○○　○○×○　○○○○
61必還師**衽**席之上　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○
62夫如**是**何上之労乎　○○此○○○○○○　○○此○○○○○　○○此○○○○○　○○此○○○○○
63政之不**平**　○○○○　○○○中　○○○○　○○○中
64則本正**也**　○○○○　○○○矣　○○○○　○○○矣
65**仁**君先立仁於己　人○○○○○○○　人○○○○○○○　人○○○○○○○　人○○○○○○○
66民敦×俗**璞**　○○×○○　○○而○樸　○○×○○　○○×○樸
67六者教之**致**也　○○○○○○○　○○○○○至○　○○○○○○○　○○○○○○○

68 布諸天下四方而不**窕**
○○○○○○○○怨　○○○○○○○○怨　○○○○○○○○怨　○○○○○○○○

69 **然後**賢者**悅**而不肖者懼
○則○○○○○○○○○　×則○○○○○○○○○　○則○○○○○○○○○　×則○○説○○○○○

70 如手足之**于**腹心×
○○○○○於○○×　○○○○於○○矣　○○○○於○○×　○○○○於○○×

71 如幼子之**于**慈母矣
○○○○於○○○　○○○○於○○○　○○○○於○○○　○○○○於○○○

72 千歩**為**井
○○○○　○○而○　○○○○　○○○○

73 三井**為**埒
○○而○　○○而○　○○而○　○○而○

74 埒三**為**矩
○○而○　○○而○　○○而○　○○而○

75 乃為**稿**積**貲聚**焉
○○○○○資求○　○○福○資裘○　○○福○資求○　○○○○資○○

76 恤行者×有**亡**
○○○×○○　○○○之○○　○○○×○○　○○○×○無

77 非以盈宮室**也**
○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○×

78 **慘**怛以補不足
○○○○○○○　懆○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

79 其言可**覆**
○○○復　○○○復　○○○○　○○○復

80 如**饑**而食
○飢○○　××××　○飢○○　○○○○

81 見**德明**也
○明德○　○明德○　○明德○　○明德○

82 万民懐其恵
○○○○○　○○○○○　○○○○○　×××××

83 又知其数及其所在焉
○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　×××××××××

84 則天下之×名誉興焉
○○○○民○○○○　○○○○明○○○○　○○○○民○○○○　○○○○×○○○○

85 所謂天下之至知者能用天下之至和也
×××××××××××××××　×××××××××××××××　×××××××××××××××　×××××××××××××××

86 所謂天下之至**政**者	○○○○○○明○	○○○○○○明○	○○○○○○明○	○○○○○○明○
87 能挙天下之至賢**者**也	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○×○
88 ×政者莫大乎官能	賢○○○○○○○	賢○○○○○○○	賢○○○○○○○	賢○○○○○○○
89 此之謂還師**衽**席之上	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○衽○○○
90 （大**昏**×第四）	○婚解○○	○婚解○○	○婚解○○	○婚解○○
91 公**問**曰	○○○	○○○	○○○	○×○
92 敢問人道**孰**為大	○○○○○○○	○○○○誰○○	○○○○○○○	○○○○誰○○
93 孔子愀然作色而対曰	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○×××××○○
94 君×及此言也	○×○○○○	○×○○○○	○×○○○○	○之○○○○
95 **固**臣敢無辞而対	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	×○○○○○○
96 君為**政**則百姓従而正矣	○○正○○○○○○○	○○正○○○○○○○	○○正○○○○○○○	○○正○○○○○○○
97 君之所為百姓之所従君 不為正百姓何所従乎	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○	×××××××××× ×××××××××
89 可得聞乎	○○○○	○○○○	○○○○	××××
99 古之×政	○○×○	○○×○	○○×○	○○為○
100 大**昏**至矣×××××	○婚○○×××××	○婚○○×××××	○婚○○×××××	○婚○○大婚既至
101 冕而**親迎**	○○○○	○○××	○○○○	○○○○
102 親迎者敬之×也	○○○○○×○	○○○○○×○	○○○○○×○	○○○○○至○
103 愛与敬其政之本**與**	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○歟

104	君何謂已重**焉**公曰	○○○○○○○○	○○○○○乎○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
105	君何謂已重**焉**孔子遂言	○○○○○○○○○○	○○○○○乎○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○
106	出以**治**直言之礼	○○○○○○○	○○×○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○
107	**足**以立上下之敬	×○○○○○○	○○○○○○○	×○○○○○○	○○○○○○○
108	国恥**則**足以興之	○○×○○○○	○○×○○○○	○○×○○○○	○○×○○○○
109	孔子遂言曰	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×××××
110	昔**者**三代明王必敬妻子	○×○○○○○○○○	○×○○○○○○○○	○×○○○○○○○○	○×○○○○○○○○
111	身也者親之**支**也	○○○○○○○	○○○○○枝○	○○○○○○○	○○○○○○○
112	**傷其親**是傷本也	○○○○○○○	×××○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○
113	傷其本則**支**從之而亡	○○○○○○○○○	○○○○枝○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○
114	昔**太**王之道也	○○○○○○	○大○○○○	○○○○○○	○○○○○○
115	×××則能成其親矣	×××○○○○○○	敬其身○○○○○○	×××○○○○○○	×××○○○○○○
116	君子**也者**人之成名也	○○者也○○○○○	○○者乃○○○○○	○○者也○○○○○	○○者也○○○○○
117	**為**政而不能愛人	愛○○○○○○	愛○○○○○○	愛○○○○○○	愛○○○○○○
118	××××××××××	××××××××××	不能楽天則不能成其身	××××××××××	××××××××××
119	敢問何**謂**能成身	○○○×○○○	○○○×○○○	○○○×○○○	○○○×○○○
120	不過乎**物**合天道也	○○○×○○○○	○○○×○○○○	○○○×○○○○	○○○○○○○○
121	無為而**成物**	○○○物成	○○○物成	○○○物成	○○○物成
122	幸煩子**志于**心	○○○之於○	○○○之於○	○○○之於○	○○○之於○

123 寡人既聞×此言　○○○○○如○○　○○○○○如○○　○○○○○如○○　○○○○○如○○

124 君**之**及此言是臣之福也　○子○○○○○○○○　○子○○○○○○○○　○子○○○○○○○○　○子○○○○○○○○

125 （儒行×第五）　○○解○○　○○解○○　○○解○○　○○解○○

126 冉**求**言於季孫曰　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○有○○○○○○

127 是猶却歩而×求×前人　○○○○○○欲○及○○　○○○○○○欲○及○○　○○○○○○欲○及○○　○○○○○○欲○及○○

128 ×××××××××××××××　衛将用之已有才而以資鄰国難以言智也　衛将用之已有才而以資鄰国難以言智也　衛将用之已有才而以資鄰国難以言智也　衛将用之已有才而以資鄰国難以言智也

129 請以重幣**迎**之　○○○○○○○　○○○○言○　○○○○○○　×××××

130 丘少居魯衣**縫**掖之衣　○○○○○○逢○○○　○○○○○○逢○○○　○○○○○○逢○○○　○○○○○○逢○○○

131 其服以鄉×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○俗

132 則留×僕未可以対　○○×○○○○○　○○更○○○○○　○○×○○○○○　○○更○○○○○

133 孔子侍坐**曰**　○○○○○　○○○○×　○○○○○　○○○○○

134 儒有衣冠中動作**慎**　○○○○○○○順　○○○○○○○順　○○○○○○○順　○○○○○○○

135 ×大讓如慢　其○○○○　其○○○○　其○○○○　×○○○○

136 難進而易退×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○○也

137 行必**忠**正　○○中○　○○○○　○○○○　○○中○

138 其備**預**有如此**者**　○○○○○○○　○○豫○○○也　○○○○○○○　○○○○○○○

139 不求多積×多文以為富　○○○○×○○○○○　○○○○×○○○○○　○○○○×○○○○○　○○○○而○○○○○

140 先労而後禄**不亦易禄**乎　○○○○○○○○○○○　○○○○○○×××○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

No.	本文	1	2	3	4
141	其近人情**有**如此者	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○×○○○
142	儒有委之以**財貨**而不貪	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○貨財○○○
143	**阻**之以兵而不**慴**	○○○○○○○	沮○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○攝
144	**鷙虫**攫**博**不程其勇引重鼎不程其力	×××××××××× / ×××××	×××××××××× / ×××××	×××××××××× / ×××××	○蟲○搏○○○○○○ / ○○○○○
145	過言不**再**	○○○○	○○○○	○○○○	○○○甫
146	**戴**仁而行	○○○○	載○○○	○○○○	○○○○
147	抱**徳**而処	○○○○	○○○○	○○○○	○義○○
148	其自**立**有如此者	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○守○○○○○
149	其為**士**有如此者	○○○○○○○	○×仕○○○○	○○○○○○○	○○仕○○○○
150	儒有**令**人以居古人以**稽**	○○今○○○○○○耆	○○今○○○○○○耆	○○今○○○○○○耆	○○今○○○○○○耆
151	若不逢世上所不**援**	○○○○○○○受	○○○○○○○受	○○○○○○○受	○○○○○○○○
152	**詭**諂之民	○○○○	譏○○○	○○○○	○○○○
153	有比党而危之**者**	○○○○○○×	○○○○○○×	○○○○○○×	○○○○○○○
154	雖危**起居猶**竟**信**其志	○○○○○○○○○	○○猶起居○身○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○
155	**幽**居而不淫上通而不困	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	××××××××××
156	内称**不避親外**挙不**避**怨	○○○○○○○○○○	○○×××××○○○	○○○○○○○○○○	○○○辟○○○○辟○
157	推賢**譲**能	○○達○	○○達○	○○達○	○○達○
158	儒**有**澡身浴徳	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○×○○○○

159 **静**言而正之　○○○○○　○○○○○　×○○○○

160 **而上下**不知也　○○○○○○　○○○○○○　×○×○○○

161 又不**急為**也　○○○○○　○○○○○　○○為急○

162 **底厲廉隅**　○○○○　○○○○　砥礪○○

163 博学以知服×××　○○○○○×××　○○○○○×××　○○○○○近文章

164 視**之**如錙銖　○○○○○　○○○○○　○○○○○　○×○○○

165 義同**而**進不同**而**退　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○則○○○則○

166 其交×有如此者　○○×○○○○　○○×○○○○　○○×○○○○　○○友○○○○

167 儒皆兼×而有之　○○○此○○○　○○○此○○○　○○○此○○○　○○○×○○○

168 儒有不隕穫**于**貧賤　○○○○○○於○○　○○○○○○於○○　○○○○○○於○○　○○○○○○於○○

169 不充詘**于**富貴　○○○於○○　○○○於○○　○○○於○○　○○○於○○

170 今人之名儒也**妄**　○○○○○○○　○○○○○○○忘　○○○○○○○忘　○○○○○○○

171 哀公既**得**聞此言也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○×○○○○○

（問礼第六）

172 哀公問**于**孔子曰　○○○於○○○　○○○於○○○　○○○於○○○　○○○於○○○

173 子之言礼何其尊**也**　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○×

174 不足以知大礼**也**　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○×

175 事天地之神**焉**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○×

176 君子×此**之為**尊敬　○○×○○○○○　○○×○為之○○　○○×○○○○○　○○以○為之○○

177 ××不廃其会節　××○○○○○○

178 **而**後治其××文章黼黻　○○○○××○○○○

179 以敬**其**祭祀別其親**疎**　○○○○○○○○○

180 而後宗**廟**会讌　○○○族○醼

181 器不**形**鏤　○○○○

182 以与**萬**民同利　○○○○○○○

183 **以**忤其衆　×○○○

184 是**以**今之君子莫能為礼　○即○○○○○○○○

185 孔子**曰**我欲観夏**道**　○○言○○○○×

186 吾得**坤乾**焉**坤乾**之義　○○乾坤○乾坤○○

187 ×燔黍擘豚　×○○○○

188 汙罇×**抔**飲蕢**桴**×**土鼓**　○○×杯○○○×○○

189 猶可以致敬×鬼神　○○○○○○×○○

190 升屋而号**告**曰高某復　○○○○○○○○○

191 然後**飲**腥苴熟　○○○○○○○

192 是**謂**天望而地蔵也　○○○○○○○○○

193 冬則居**営屈**　○○○○窟

194 夏則居**橧**巣　○○○○○

195 以為××宮室戸牖　○○××○○○○

所能○○○○○○

○○○○××○○○○

○○×○○○○○疎

○○○族○醼

○○刻○

○○×○○○

○○○○

○即○○○○○○○○

○○言○○○○○

○○乾坤○乾坤○○

×○○○○

○○×○○○×××

○○○○×○○

○○○○○○○○○

○○飯○○○

○○○○○○○○○

○○○○窟

○○○○檜○

○○×××○○○○

××○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○族○醼

○○○○

○○○○○○○

×○○○○

○○×杯○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○言○○○○○

○○乾坤○乾坤○○

×○○○○

○○×杯○○○×○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○○○窟

○○○○○

○○××○○○○○

××○○○○○○

然○○○○彫鏤○○○○

○○×○○○○○○疏

○○○族○宴

○○○○

○○○○○○○

○○○○○○○○○

○○言○○○○○

○○乾坤○乾坤○○

其○○○○

○○而杯○○○而○○

○○○○○○於○○

○○○○○○○○○

○○○○○○○○○

○為○○○○○○

○○○○窟

○○○○檜○

○臺榭○○○○

196 ××××以降×上神　×××××○○×○○　×××××○○×○○　×××××○○×○○　以其祝嘏○○其○○

197 是謂承天之**祐**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○祜

198 熟其**餚**　○○殽　○○殽　○○殽　○○殽

199 **越**席以坐　○○○○　○○○○　○○○○　趙○○○

200 疏布以**冪**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○罩

201 衣其浣**帛**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○布

202 以嘉魂魄×××× ○○○○○×××× ○○○○○×××× ○○○○○×××× ○○○○○是謂合莫

203（五儀×第七）　○○解○○　○○解○○　○○解○○　○○解○○

204 然則章甫絇×履　○○○○○○×○　○○○○○○衢○　○○○○○○×○　○○○○○○×○

205 紳帶縉笏者　○○○○○　○○搢○○　○○○○○　○○搢○○

206 **皆**賢人也　○○○○　○○○○　○○○○　×○○○

207 夫端衣玄裳冕而**乘**軒者　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○垂○○

208 則志不在**於**酒肉　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○×○○

209 敢問何如斯**可**謂之庸人　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○×○○○○

210 不択**言**以**託**其身　○○賢○托○○　○○賢○○○○　○○賢○○○○　○○賢○托○○

211 見小闇大**而**不知所務　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○×○○○○

212 ××××××××× ××××××××× ××××××××× ×××××××××　五鑿為正心從而懐

213 雖不能尽×道術之本　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○通○○○○

214 必審其所由**智**既知之　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○知○○○

215 則若性命之**形骸之**　○○○○○○○○○　○○○○○○○於形骸　○○○○○○○○○

216 ×則士人也　此○○○○　此○○○○○　此○○○○○

217 **此則**君子也　○○○○○　×××○○○　○○○○○○

218 道足**以**化於百姓　○○○○○○○　○○×○○○○○　○○○○○○○○

219 此**則**賢者也　○○○○○　○×○○○○　○×○○○○

220 所謂聖×者　○○○人○　○○○×○　○○○人○

221 窮万事之**始終**　○○○○終始　○○○○終始　○○○○終始

222 敷其大道而遂成**性情**　○○○○○○○情性　○○○○○○○情性　○○○○○○○情性

223 未嘗**知**労　○○○○　○○○○　○○○○

224 **則**丘亦無所聞焉　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

225 日出聴政至**於**中冥　○○○○○○○　○○○○○于○○　○○○○○于○○

226 諸侯子孫往来**為**賓　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

227 則労**亦**可知矣　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

228 周章遠望**覩**亡国之墟　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

229 君**既**明此五者　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

230 又**少**留意　○○○○　○○○○　○○○○

231 **于**五儀之事　於○○○○　於○○○○　於○○○○

232 則**於**政治何有失矣　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

233 哀公問於孔子**曰**請問　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○

234	無取**錞錞**	○○啍啍	○○啍啍	○○啍啍	○○啍啍
235	**錞錞**誕也	啍啍○○	啍啍○○	啍啍○○	啍啍○○
236	士必慤而後求智能**者焉**	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○×	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○×○
237	大則**能**攻	○○×○	○○無○	○○×○	○○×○
238	其道**何如**	○○如何	○○如何	○○如何	○○如何
239	**孔子**対曰使君朝廷有礼	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	××○○○○○○○○
240	上下**相**親	○○○○	○○和○	○○○○	○○○○
241	苟**違**此道	○○○○	○○○○	○為○○	○○○○
242	民畔如帰皆君之**仇**也	○○○○○○○雔○	○○○○○○○雔○	○○○○○○○雔○	○○○○○○○雔○
243	将**誰與**守	○與誰○	○與誰○	○與誰○	○與誰○
244	於是廃**山澤**之禁	○○○○○○○	○○○澤梁○○	○○○○○○○	○○○○○○○
245	為其×二乗	○○×○○	○○有○○	○○×○○	○○有○○
246	若是×君**子之**悪	○○平○○×○	○○平○×○○	○○平○×○○	○○平○○○○
247	詩之好善道×也如此	○○○○○甚○○○	○○○○○甚○○○	○○○○○甚○○○	○○○○○甚○○○
248	善吾子**之言**	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○言之
249	則国家必王而名**必**昌	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○益○
250	以致**天**蘖桑穀×**於**朝	○○妖○○○×于○	○○○○○○生于○	○○○○○○×于○	○○妖○○○×于○
251	**太**戊恐駭	○○○○	○○○○	大○○○	○○○○
252	重**譯**至者十有六国	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○鐸○○○○○○

253 所以儆人臣**者**也　○○○○○○○　○○○○○×○　○○○○○○○　○○○○○○○

254 能**知**此者至治之極也　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○如○○○○○○○○

255 **行己**自取也　○○○○○　○○○○○　○○○○○　×○○○○

256 **居**下位而上干其君　○○○○○○○○○　吾○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

257 動不量力**者**兵共殺之　○○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○○

258 雖得寿焉不亦**可**乎　○○○○○○○○○○　○○○○○○○宜○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○宜○

掲出五本間の異同は以上の二五八項が認められる（但、略体字、俗字、別字等一般に通用されている文字の異同は原則として採り上げていない）。このうち、正義本即ち本書と一致する個所の総数は、永本が一六九、黄本が一六七、毛本が一〇一、呉本が五八であり、此の数値からも永懐堂本が最も本書に近接せるテキストであることが判然とする。従って、本書の底本としては第一に此の永懐堂刊本を考えて相違ないであろう。四庫提要が「従葛鼐之本竄乱旧次」と記すのは篇次のみではなく本文に就いても言い得ることである。尚、黄本が永本と同じく高い数値を示しているのは、本稿(一)に於て指摘した如く（二十一輯235頁）、永本の底本が黄本である為と解される。

姜氏の注釈は、字義音釈のほか、各篇首題下に於て、篇内分章の総数を示し、篇題を釈して該篇の要旨を叙し、各章段末に於てはその章の大義を要述し、処々文義の訓解を為して本書の義理を講説する。但、大昏第四、儒行第五、問礼第六、哀公問政第十七、論礼第二十七、観郷射第二十八、郊問第二十九、刑政第三十一、礼運第三十二、冠頌第三十三、廟制第三十四、弁楽第三十五、問玉第三十六、屈節第三十七及び巻九の三問礼諸篇の如き『礼記』に重見する諸文には篇首に「義詳礼記章義今注其文小異者于左」等と姜氏著述の『礼記章義』を参照す可き旨付記して、『礼記』との同異正譌のみを注記して文義は略す。『礼記』のほかに、易、書、詩、周礼、大戴礼、春秋伝、孝経、論語、史記、孔叢等諸経籍に互見する同事類文、異文類事に拠っての勘覈弁証がみられ、或はまた屢々旧文を改易すること上述

した如くであるが、徴引旁証に乏しく推求粗略の憾がある。また前人注説の引用考証は尠く、希に王肅注を「王氏曰」「旧注云」と標記して要略敷衍して引載するに過ぎない。四庫提要が「其訓釈亦似俗下、講章之体、不足以資考証」と批斥する所以である。本書成立にやや遅れて隆昌する考証学の見地からすれば当然の批判と言えよう。しかし、当時流布した家語注釈書は明末清初累増の通俗坊本類が大勢を占めていたはずで、かかる時情にあって、王肅注全本である永懐堂刊本に拠り且つ汲古閣刊本を参考し、更に充全ならずも諸経籍の類文を考覈して家語全文に亘る注釈を試みたことに対しては相応の評価がなされてよい。本書はまた、清人による家語注釈書の嚆矢として、注釈史の上から注視されて然るべきであろう。

姜氏は自序に於て、『家語』に就き次の如き見解及び本書撰述の趣旨を叙べている。「左家語十巻四十四篇、先聖二十七世孫猛所出其家蔵之編、而魏常侍領秘書監王肅、発之以逮於今者也。(略)此書者、則易・詩・書・礼・春秋・論語而外、其後裔次其論説之緒餘与行蹟之本末、為一家言、是又与先聖所自定之六籍・門弟子所紀次之論語、相輔而不可廃者也。然其書成於先聖之歿後、自秦歴魏年世久遠、其沢之不滅以泯者、固足以羽翼至訓・表章懿躅、而其伝之稍過、或参於世儒詞章之餘習与外氏雌黙之流風、而稍失聖人之真者、蓋亦有矣。今綜四十四篇之文、聖裔自叙述其聞識者十之三四、而餘多与二戴礼及内外伝・史記・説苑之属小異而大同。伝曰、所見異詞、所聞異詞、所伝聞又異詞。竊不揣固陋、承聖道大明之会、輯為義説、用加闡発」と。即ち、『家語』は六経・論語と相輔して廃すべからざる聖籍であり、至訓を羽翼し、懿躅を表章するに足るものとの認識に立ち、その義理を闡明昭然たらしめることを意図したものである。

尚、本書が刊行された雍正一一年は我国の享保一八年に当り、その後十年を経ずして太宰春台及び岡白駒の注解が出ている。今、彼の清儒と此の邦儒との雌雄を論じ、その影響如何を弁証する用意は無いが、時下って文政中の成立書写とみられる『読孔子家語』(撰者未詳)に姜注が参校引証され、また文政八年亀井昭陽撰述の「答蒲元凱問家語」(『小天地閣叢書』乾集所収)に於て姜注に即いての論義がみえ、更に西島睡庵撰『読家語』には姜本との校合注、或は姜注の援引注記が屢々見えること本稿(二)に於て指摘した如くである。本邦近世末儒者への影響の少くなかったことを特に添言しておきたい。

兆錫、字は上均、素清学者と号した。寅清楼は別号であろう。

江蘇鎮江府丹陽の人。康熙五（一六六六）年生。王掞撰「周礼輯義序」に「溯姜氏世有聞人、如宮保姜鳳阿公、暨参政養沖、奉常同節諸公」と、即ち、明南京礼部尚書姜宝、江西参政姜士昌、太常少卿姜志礼の裔孫である。また、本書の校合注記の中に「王父静宜先生適我園本」或は「適我園遺本」との対校個処があることは前に述べた。光緒十一年重修『丹陽県志』巻三十五「書籍」に、姜志珏の著述として『適我園詩稿』を掲げる。此の姜志珏が静宜先生、即ち兆錫の祖父であろう。明崇禎癸酉（六〈一六三三〉年）の副榜挙人、順治丁酉（一四〈一六五七〉年）の廷試に中り（『丹陽県志』巻一九仕進）、康熙辛亥（一〇年）江蘇海州沭陽県訓導を授けらると（『丹陽県志補遺』巻十文苑）。

兆錫は康熙庚午（二九年）の挙人、経魁に入る。「官中書」（『丹陽県志』巻二十）と言うがその時期は明らかでない。丙戌（四五年）の会試に下第し、中年以後は挙業を罷め（姜允重「寅清楼譔述書目」）、後に、湖北蒲圻県知県を授るが病を以って辞し帰を告ぐ。郷里白鶴渓の藤村に住し、理学に潜心、著述に精励した。康熙末年より雍正年間に亘り、書経・周礼・儀礼・礼記・春秋・孝経・爾雅等の注釈を為し、朱注未だ備わらざるところを補うの意を以て自ら『九経補注』と称して時々刊行を果した。凡そ経義に於て程朱学を嗣承補翼するもので、尤も三礼に於て研思精微を尽し世誉を得た。乾隆元（一七三六）年六月己卯、三礼義疏編纂の命あり、同七月辛丑、大学士鄂爾泰・張廷玉等を総裁、礼部尚書楊名時・内閣学士方苞等を副総裁として三礼館が開設され、兆錫は鄂爾泰の薦に因り纂修官に充てられる。館中にては勤博を以て称せられ、一方で解経に於て方苞と合わざりしこと吉夢熊が「郷賢録序」（『国朝耆献類徴初編』巻四一八）に記すところである。乾隆一〇年、家に卒す。年八十。郷賢祠に従祀せらる。乾隆二二年、遺著は孫の爽によって朝に献ぜられ、四庫存目に著録をみるもの全て十五部一三〇巻にのぼる。男に允重・允遠（或は鳴遠）・允毅あり。允重は遺著の編次校刊に勤め、また『与蘭居詩鈔』の著あり（『丹陽県志補遺』巻二十）。孫に爽、衡あり。爽は『伝経堂集』を著す（『丹陽県志』巻三十五）。

「著書等身、芸林の矜式為り」（「郷賢録序」）と。次に、管見の及ぶところをほぼ書成の年次に順って載げておく。

周礼輯義一二巻首目一巻　清雍正九（一七三一）年刊（寅清楼）　九経補注之一

康熙五十七（一七一八）年戊戌文淵閣大学士王掞序・康熙戊戌十月既望張大受序・康熙己亥立春後五日王澍序・康熙戊戌十二月二十六日儲大文後序

礼記章義一〇巻首目一巻　清雍正一〇（一七三二）年刊（寅清楼）　九経補注之一

康熙五十二年秋九月壬戌張大受序・康熙己亥立春後五日王澍序

孝経本義　清雍正一〇（一七三二）年刊（寅清楼）　九経補注之一

康熙五十九年庚子春二月己巳自序

春秋胡伝参義一二巻　宋胡安国伝　姜兆錫参義　清雍正元（一七二三）年刊（寅清楼）　九経補注之一

孔叢正義五巻　清姜允重・姜允遠校　清雍正一一（一七三三）年刊（寅清楼）　先聖遺書之一

雍正二年甲辰孟夏自序

爾雅註疏参義六巻　清雍正一一（一七三三）年序刊（寅清楼）　九経補注之一

雍正三年季春下澣侍生西林鄂爾泰序・雍正十一年孟秋素清学者自序

儀礼経伝註疏参義内編一三巻外編五巻首一巻　清姜允重・姜允毅校　清乾隆元（一七三六）年刊（寅清楼）　九経補注之一

雍正癸丑（一一年）七月既望王歩青序・雍正乙卯（一三年）孟夏自序

書経蔡伝参義六巻首目一巻　清雍正一二（一七三四）年刊（寅清楼）　九経補注之一

雍正甲寅（一二年）春三月自序

春秋公羊穀梁二伝附左氏伝彙義一二巻　清乾隆五（一七四〇）年刊（寅清楼）　九経補注之一

乾隆五年季春既望自序

詩伝述蘊三巻　清乾隆九（一七四四）年序刊（寅清楼）

乾隆甲子（九年）秋九月朔自序

周易本義述蘊四巻　宋朱熹本義　清姜兆錫述　乾隆一四（一七四九）年刊（寅清楼）

乾隆甲子季冬自序・乾隆十四年孟夏姜允重撰刻周易述蘊始末録

尚、恐らくは乾隆五年、書経蔡伝参義・周礼輯義・儀礼経伝註疏参義内外編・礼記章義・春秋公羊穀梁二伝附左氏伝彙義・春秋胡伝参義・孝経正義・爾雅註疏参義の八書を彙輯し、乾隆四年己未

秋八月既望張廷璐序・任啓運序・乾隆三年仲冬自序を冠して『九経補注』と題して印行された。後印本には、周易本義述蘊・詩伝述蘊の両書を追印する。

四庫存目には外に、周易蘊義図考二巻、大戴礼刪翼四巻、春秋事義慎考一四巻を著録、『清儒学案』（巻一九七）は方音集六巻、周礼類考、群経本末考、汲冢周書刪翼、列女伝訂義、新序訂義、説苑訂義、朱子楚辞参義、志（或は忘カ）学斎永言、春風亭倡和詩、寅清楼文集を載す。また、『九経補注』に付印された「寅清楼譔述書目」（男允重撰）には更に、「已刻七種」として、寅清楼方音初集、寅清楼小題制義、寅清楼詩経稿、寅清楼直省考巻選を、「即刻三十一種」として、適我園遺編、寅清楼方音二集、寅清楼方音三集、方岳採風録、徽国文公世沢彙編、寅清楼世沢録、寅清楼大題制義、寅清楼歴試草、寅清楼詩経存稿、古文載道編、国朝五十大家選、国朝墨巻選、国朝考巻選の諸書名が挙げてある。今流伝するものは少数ではあるが、畢生の遺業睹るべきであろう。

家語証偽　一一巻　清范家相撰　清光緒一五（一八八九）年刊（会稽徐氏鋳学斎）　会稽徐氏述史楼叢書所収

首に「序」（「乾隆三十二〈一七六七〉年丁亥三月清明後一日吉水羅暹春拝手」）を冠す。本文巻頭、「家語証偽巻第一」、次行低一一格、「会稽范家相著」、第三行「相魯第一」と題し本文に入る。尾題は「家語証偽一（―十一）」、終尾題下方該行末格に「終」字有り。左右双辺（一六・一×一一・五糎）、有界、十一行行廿一字、注大字単行低一格、正文注文共割注あり。版心粗黒口双黒魚尾、「証偽幾　（丁付）」。各巻尾題後に、「光緒十有五年会稽徐氏鋳学斎栞梨本」と直行刊記を有す。

『会稽徐氏述史楼叢書』は徐友蘭輯。首の扉裏に、「叢書之刻／自光緒壬／午始卦変／図説一種／外大父沈輔／之先生見貽／遂列諸首」との刊語があり、光緒八（一八八二）年より順次刊行された。本書の外、易卦変図説一巻、説文繫伝考異四巻附録一巻、退庵賸稿一巻、退庵随筆一巻を収める。尚『叢書綜録』には、徐維則輯の『会稽徐氏鋳学斎叢書』を著録し、それに依れば、此の五書のほかに切音蒙引二巻等八書を合せ計十三種の書名が挙がっている。『鋳学斎叢書』の本邦に於ける所在を聞かず、両叢書の関繫を詳らかにしないが、『鋳学斎叢書』が『述史楼叢書』の増補であるか、或は『述史楼叢書』は『鋳学斎

叢書』の抽印であるか、いずれにせよ、両叢書収録の本書に関しては、各巻末の刊記から推して、同板本とみて相違なかろう。

〈国立国会図書館蔵〉 三冊（222合318） 会稽徐氏述史楼叢書第四―六冊

後補淡橙色覆表紙（二三・二×一五・二糎）、「帝国図書館蔵」と空押さる。書題簽、「述史楼叢書 一、二（三四、五六止）」。原表紙は淡茶色。易卦変図説不分巻、説文繫伝考異四巻附録一巻、退庵賸稿・退庵随筆各一巻と原六冊を三冊に合綴。

〈京都大学人文科学研究所蔵〉 四冊（叢Ⅰ534） 会稽徐氏述史楼叢書第四―七冊

茶色表紙（二三・六×一五・四糎）。「東方文化学院京都研究所」（朱長方）の印記。

次の両帙は、叢書零本か或は単行本か、詳らかにしない。

〈大阪大学附属図書館蔵〉 三冊（3-02-01 語家孔子 KEG 懐徳堂）

淡茶色表紙（二四×一五・三糎）、外題無し。一部に朱句点圏点、標注の書入あり。「碩園珍蔵」（朱長方）、「碩園記念文庫」（朱長方）、「懐徳堂／図書記」（朱方）の印記あり。

〈東洋文庫蔵〉 三冊（Ⅲ249） 藤田剣峰旧蔵書

淡茶色表紙（二五×一五・三糎）、外題なし。

同 〔民国〕江杏渓校 〔民国一三（一九二四）年〕刊（蘇州 文学山房） 木活字印本 〔江氏聚珍版叢書四集所収〕

書扉あり、「家語証／譌／文学山房主人属題／ 瓢廬潘宝沂」と題され、裏に「蘇州護竜街中／文学山房印行」なる刊記を有す。首に乾隆三二年羅暹春の序を冠し、本文巻頭、「家語証偽巻第一」、次行低二格、「会稽范家相著（隔四格）呉県江杏渓重校」、第三行、「相魯第一」と題す。尾題は、「家語証偽幾」、最終尾題下方該行末格に「終」字有り。四周双辺（一八・四×一二・七糎）、有界、十一行行廿一字、注大字単行低一格、正文注文共割注あり。版心上部小黒口単黒魚尾、「証偽幾（丁付）」、下象鼻に「文学山房／聚珍板印」と印さる。本版は前掲、会稽徐氏鋳学斎刊本と行款を同じくし、本活字を使用した其の翻印で、「叔孫」を「孫叔」に（一ウ3）、「其時」を「甚時」に（二ウ3）作り、或は「以其所能」の所字を脱する（二ウ16）等の重刊に伴う誤脱は免がれないが、其の個所は比較的少い。

『江氏聚珍版叢書』は『叢書綜録』に拠れば、一名、『文学山房叢書』、民国江杏渓輯、民国一三（一九二四）年の刊行とする。

未だその全帙を架蔵するところを聞かず、管見に入れる以下の諸帙はいずれも、単行本として架蔵されている。叢書の零本か単行本かの別を詳かにしない。

〈斯道文庫蔵〉 六冊（ホ124 7 6） 細川家寄託本

藍色表紙（二九・九×一八糎）、外題無し。一部に朱句点書入あり。「古城文庫」（朱長方）の印記。古城坦堂旧蔵本。

〈大阪大学附属図書館蔵〉 六冊（3-02・01 孔子家語 北 KEG） 吉田北山旧蔵書

藍色表紙（二九・八×一八・一糎）、外題無し。「北山／文庫」（朱方）、「北山珎蔵」（白長方）、「北山於／燕京／所購」（朱方）の印記あり。

〈東北大学附属図書館蔵〉 六冊 （乙A 1-4,1 76）

藍色表紙（二九・九×一八・一糎）、外題無し。

〈無窮会図書館蔵〉 六冊（平沼2467） 河合槃山旧蔵書

藍色表紙（二九・七×一八・一糎）、外題なし。「槃山／蔵書」（朱方）、「機外文庫」（朱長方）、「平沼氏／蔵書記」（朱方）、「無窮会／神習文庫」（朱長方）の印記あり。

〈同蔵〉 六冊（真軒880） 三宅真軒旧蔵書

藍色表紙（三〇×一八・一糎）、外題なし。「真軒／蔵書」（朱長方）、「無窮会／神習文庫」（朱長方）の印記あり。

〈東京大学文学部蔵〉 六冊

藍色表紙（二九・九×一八糎）、外題無し。「東京帝／国大学／図書印」の印記。

本書は首十巻を家語正文及び其の注釈に充て、巻十一は「王肅序」「孔安国序」「王肅後序」、〔家語目録〕（目録は「後序」末行に直接して標題を掲げない）及び「読家語雑記」からなる。首十巻は、汲古閣刊本等の篇次巻立に従い、先ず正文を各篇章段に区切って掲出し、各章段或は篇末に一格を低して考証注解を付す。また正文中処々割注があり、主として、原本、即ち王肅が本書偽撰の為に依用した底本と看做す礼記・大戴礼・説苑等に見える同類文との異同を注記する。

本書は王肅注本正文（著者はこれを王肅の偽撰と見做す）の全文を収載している。此の正文の藍本は、巻十一「王肅後序」後の目録末に付された注解の「近世虞山毛氏自謂得北宋本凡十巻校而刻之云不失王氏本註、其書与旧本多所同異、今之盛行者惟此而已」との一文を考慮すれば、汲古閣刊本であると一応推定することが許されよう。本書撰述当時即ち乾隆朝前半期に於て通行せる王肅注十巻本としては、汲古閣刊本のほかには永懐堂刊本（本稿㈠231頁参照）、姜兆錫正義本（即ち前掲書）、及び

明呉嘉謨集校本（本稿㈠238頁参照）が挙げられる。従って著者が依用したテキストを考察するに当っては此の四本を考慮の対象に入れる必要があろう。次に本書を含めた五本間の異同を掲して（巻一の七篇に限る）少しく検討を加えておきたい。

	証偽本	毛本	永本	正義本	呉本
	（相魯第一）				
1	而**西**方之諸侯則焉	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○四○○○○○○	○○○○○○○○
2	孔子対曰雖天下可**也**	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎	○○○○○○○○乎
3	季氏葬昭公**於**墓道之南	○○○○○○于○○○○	○○○○○○于○○○○	○○○○○○○○于○○○○	○○○○○○○○于○○○○
4	由司空為×大司寇	○○○○×○○○	○○○○魯○○○	○○○○魯○○○	○○○○×○○○
5	定公与斉侯会**於**夾谷	○○○○○○于○○	○○○○○○于○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
6	古者諸侯×出疆	○○○○×○○	○○○○並○○	○○○○並○○	○○○○並○○
7	請具左右司馬×公従之	○○○○○○定○○○	○○○○○○定○○○	○○○○○○定○○○	○○○○○○定○○○
8	揖讓而登献**酬**既畢	○○○○○○酢○○	○○○○○○酢○○	○○○○○○酢○○	○○○○○○酢○○
9	斉使萊人以兵**鼓譟**	○○○○○○○○謬	○○○○○○○○謬	○○○○○○○○謬	○○○○○○○○皷謬
10	俘不**干**盟	○○○○	○○○○	○○于○	○○○○
11	於神為不祥於徳為**愆**義	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○愆○	○○○○○○○○愆○	○○○○○○○○○○借○
12	**景公**心怍麾而避之	斉侯○○○○○○	斉侯○○○○○○	斉侯○○○○○○	斉侯○○○○○○
13	**匹**夫熒**侮**諸侯**者**	疋○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○惑○○×
14	罪**當**誅	○応○	○応○	○応○	○○○

15 請右司馬速**加**刑焉　○○○○○○○○○　○○○○○○×○○　○○○○○○○○○

16 手足異処　○○○○　○○○○　×××××

17 孔子使茲無**還**対曰　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○選○○

18 **爾**不返我汶陽之田　而○○○○○○○○○　而○○○○○○○○○　而○○○○○○○○○

19 吾**以**供命者　○○○○○　○○○○○　○所○○○

20 斉**侯**将設享礼　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

21 孔子**以**梁丘揭曰　○○○○○○○○○　○○謂○○○○○　○○謂○○○○○

22 是用粃**稗**　○○○粺　○○○粺　○○○糠

23 用粃**稗**君辱　○○粺○○　○○粺○○　○○粺○○

24 魯以君子×道輔其君　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○之○○○○○

25 而子独以**夷**狄×道　○○○○○○○×○　○○○○○○○×○　○○○○戎○×○

26 **於**是乃帰所侵魯之四邑　○○○○○○○○○○○　于○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

27 今三家**踰**制　○○○過○　○○○過○　○○○過○

28 乃使季氏宰仲由**墮**三都　○○○○○○○○隳○○　○○○○○○○○隳○○　○○○○○○○○隳○○

29 入**於費氏**之宮　○于○○○○　○于○○○○　○○○×○○

30 孔子命申句須樂**頎**　○○○○○○○○傾　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

31 遂**墮**三都之城　○隳○○○○　○隳○○○○　○隳○○○○

32 有慎潰氏**者**　○○○○×　○○○○×　○○○○×

33 売**羔**豚者不加飾　○○○○○○○○　○羊○○○○○○　○羊○○○○○○　○○○○○○○○

34 四方客至於邑**者**	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○×	○○○○○○○
（始誅第二）				
35 戮之**於**両観之下	○○于○○○○	○○于○○○○	○○○○○○○	○○于○○○○
36 魯之聞人×	○○○○×	○○○○也	○○○○也	○○○○也
37 今夫子為**政而**始誅之	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○×○○○
38 吾語**女以其故**	○○汝○○○	○○汝○○○	○○汝○○○	○○汝×××
39 而**盗竊**不与焉	○竊盗○○○	○竊盗○○○	○窃盗○○○	○竊盗○○○
40 二曰行**僻**而堅	○○○辟○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
41 五曰順非而**澤**	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○飭
42 其居処足以**聚**徒成党	○○○○○撮○○○	○○○○○撮○○○	○○○○○撮○○○	○○○○○椒○○○
43 其談説足以**飾褎**榮衆	○○○○○飭褎○○	○○○○○○褒○○	○○○○○○褒○○	○○○○○飭褒○○
44 其**彊**禦足以**返**是独立	○○○○○○○○○	○強○○○反○○○	○強○○○反○○○	○強○○○反○○○
45 此乃人之**姧**雄**者**×	○○○○○○有×	○○○○姦○○也	○○○○姦○○也	○○○○○○○也
46 文王誅潘**止**	○○○○正	○○○○正	○○○○正	○○○○正
47 太公誅華**仕**	○○○○士	○○○○士	○○○○士	○○○○士
48 **凡**此七子皆異世	○○○○○○○	是○○○○○○	×○○○○○○	○○○○○○○
49 以七子異世而同悪故不可赦也	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××
50 其父請**正**	○○○止	○○○○	○○○○	○○○○

51 而又**赦何**哉　○○○○○　○○○○○　○○何赦○　○○○○○

52 **孔**子喟然**歎**曰　×○○○○○　×○○○○○　○○○○嘆○　×○○○○嘆○

53 獄**犴**不治不可刑也何**也**　○○○○○○○○○者　○○○○○○○○○者　○○○○○○○○○者　○行○○○○○○○○者

54 罪不在民×也　○○○○故○　○○○○故○　○○○○故○　○○○○故○

55 義刑義殺**弗**庸以即汝心　○○○○○勿○○○○○　○○○○○勿○○○○○　○○○○○勿○○○○○　○○○○○勿○○○○○

56 **唯**曰未有慎事　惟○○○○○○　惟○○○○○○　惟○○○○○○　惟○○○○○○

57 不可**則**廃之　○○即○○　○○即○○　○○即○○　○○即○○

58 **而**後以威憚之　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　然○○○○○○

59 則民×知罪矣　○○咸○○○　○○咸○○○　○○咸○○○　○○咸○○○

60 威厲而不試刑**措**而不用　○○○○○○○錯○○○　○○○○○○○錯○○○　○○○○○○○錯○○○　○○○○○○○錯○○○

61 重載**陟**焉　○○○○　○○○○　○○涉○　○○○○

62 雖有刑法民能**弗**踰乎　○○○○○○勿○○　○○○○○○勿○○　○○○○○○勿○○　○○○○○○勿○○

63 （王言**解**第三）　○○○○○○　○○○○○○　○○×○○　○○○○○○

64 孔子**閑**居　○○○○　○○間○　○○間○　○○間○

65 曾**子**侍　○参○　○参○　○参○　○○○

66 **惟**士与大夫之言×聞也　○○○○○○○○×○○　唯○○○○○○○可○○　唯○○○○○○○可○○　唯○○○○○○○×○○

67 至**於**君子之言者希**也**　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○于○○○○○○○○　○○○○○○○○○×

68 曾子**起**下席而対曰　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○×○○○○○○

69 敢問何謂王**者**言　○○○○○○○○○○　○○○○○○○之○　○○○○○○○之○　○○○○○○○○○○

70曾子曰侍夫子之**間**也難　○○○○○○○○閑○○　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　×××××××××××
71×是以敢問　対○○○○　対○○○○　参○○○○　×××××
72孔子又不応　○○○○○　○○○○○　○○○○○　×××××
73**摳衣而退**負**席**而立　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　×××××○序○○　○○○○○○○○○
74有頃孔子**歎息**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○××
75顧謂**曾子**曰　○○○○○○　○○○○○○　○○×××○　○○××○
76参汝可語明王之道**歟**　○○○○○○○○○○與　○○○○○○○○○○與　○○○○○○○○○○與　○○○○○○○○○○與
77**願**因所聞而学焉　請○○○○○○○　請○○○○○○○　請○○○○○○○　請○○○○○○○
78居吾語汝　○○○○　○○○○　○○○○　○○○○○
79雖有**国之**良馬　○○○○○○　○○○○○○　○○××○○　○○○○○○
80不**可**以**取**道**里**　○○○○○○理　○○○×○○　○○○×○○　○○○趣○○
81不可以**致**霸王　○○○○○○　○○○○○○　○○○×○○　○○○○○○
82××××其守也　明王之道○○○　明王之道○○○　明王之道○○○　明王之道○○○
83則必折衝×千里之外　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○乎○○○○
84其**攻也**則　○征○○　○征×○　○征○○　○征○○
85必還師**袵**席之上　○○○袵○○○　○○○袵○○○　○○○袵○○○　○○○○○○○
86夫如**此**何上之労乎　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○是○○○○○○　○○○○○○○○○
87政之不**中**　○○○○　○○○平　○○○平　○○○○
88而明**主**節之何財之費乎　○○王○○○○○○○　○○王○○○○○○○　○○王○○○○○○○　○○王○○○○○○○

89 政教正　○○定　○○定　○○定　○○定

90 則本正矣　○○○○　○○○也　○○○也　○○○○

91 人君先立仁於己　○○○○○○○○　○○○○○○○○　仁○○○○○○○　○○○○○○○○

92 民敦而俗樸　○○○○○　○○×○璞　○○×○璞　○○×○○

93 七者　六○　六○　六○　六○

94 教之至也　○○○○　○○致○　○○致○　○○致○

95 布諸天下四方而不怨　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○寃　○○○○○○○○○寃

96 棄惡也如湯之灌雪焉　○○×○○○○○○○　○○×○○○○○○○　○○×○○○○○○○　○○×○○○○○○○

97 ×則賢者悅　×○○○○　然○○○○　然後○○○　×○○○說

98 而不肖×懼　○○○者○　○○○者○　○○○者○　○○○者○

99 如手足之於腹心矣　○○○○○○○○○　○○○○○○○○×　○○○○○于○○×　○○○○○○○○×

100 如幼子之於慈母矣　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○于○○○　○○○○○○○○○

101 此不遠之效也　斯○○○則○　斯○○○則○　斯○○○則○　斯○○○則○

102 千歩而井　○○○○　○○為○　○○為○　○○為○

103 三歩而埒　○井○○　○井○○　○井為○　○井○○

104 埒三而矩　○○○○　○○○○　○○為○　○○○○

105 乃為××資裘焉　○○福積○○○　○○稽積○求○　○○稽積貨聚○　○○稽積○聚○

106 恤行者之有亡　○○○○○○　○○○×○○　○○○×○○　○○○×○無

107 非以盈宮室也　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○×

108 **慘**怛以補不足　　慄○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○

109 其言可**復**　　○○○○　○○○○　○○○覆　○○○○

110 ××××如渴而飲　　×××××○○○○　如飢而食○○○○　如飢而食○○○○

111 見**明德**也　　○○○○　○○○○　○徳明○　○○○○

112 万民懐其恵　　○○○○○　○○○○○　○○○○○　×××××

113 又知其数及其所在焉　　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　×××××××××

114 則天下之×名誉興焉　　○○○○明○○○○　○○○○民○○○○　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○

115 ×××××××　　×××××××　　×××××××　　×××××××

116 所謂天下之至**明**者　　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○政○　○○○○○○○○

117 能挙天下之至賢**者**也　　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○×○

118 **賢**政者莫大乎官能　　○○○○○○○○　○○○○○○○○　×○○○○○○○　○○○○○○○○

119 明王之**征**猶時雨之降　　○○○政○○○○○　○○○政○○○○○　○○○政○○○○○　○○○政○○○○○

120 此之謂還師**袵**席之上　　○○○○○○袵○○○　○○○○○○袵○○○　○○○○○○袵○○○　○○○○○○○○○

121 （大**婚解**第四）　　○○○○○○　○○○○○○　○昏×○○　○○○○○○

122 公**問**曰　　○○○　○○○　○○○　○×○

123 敢問人道**誰**為大　　○○○○○○○○　○○○○○○○熟○○　○○○○○○○熟○○　○○○○○○○○

124 孔子**愀然作色而**対曰　　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○×××××○○

125 君×及此言也　　○×○○○○　○×○○○○　○×○○○○　○之○○○○

126 固臣敢無辞而対　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　×○○○○○○

127 君為正則百姓従而正矣　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○政○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

128 君之所為百姓之所従　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　×××××××××××

129 君所不為×　○×○○正　○×○○正　○×○○正　×××××

130 百姓何×従乎　○○○所○○　○○○所○○　○○○所○○　×××××

131 可得聞乎　○○○○　○○○○　○○○○　××××

132 古之×政愛人為大　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○為○○○○○

133 大婚至矣××××　○○○○×××××　○○○○×××××　○昏○○×××××　○○○○大婚既至

134 冕而××　○○××　○○親迎　○○親迎　○○親迎

135 親迎者敬之×也　○○○○○○×○　○○○○○○×○　○○○○○○×○　○○○○○○至○

136 舎敬則是遺親也　捨○○○○○○○　捨○○○○○○○　捨○○○○○○○　捨○○○○○○○

137 愛与敬其政之本與　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○敗

138 然而冕而親迎不已重乎　○×○○○○○○○○○　○×○○○○○○○○○　○×○○○○○○○○○　○×○○○○○○○○○

139 君何謂已重乎公曰　○○○○○○○○○　○○○○○○焉○○　○○○○○○焉○○　○○○○○○焉○○

140 君何謂已重乎孔子遂言　○○○○○○○○○○○　○○○○○○焉○○○○　○○○○○○焉○○○○　○○○○○○焉○○○○

141 出以治直言之礼　○○×○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

142 足以立上下之敬　○○○○○○○○　×○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

143 国恥×足以興之　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○則○○○○○　○○×○○○○○

144 礼其政之本歟　○○○○○○與　○○○○○○與　○○○○○○與　○○○○○○與

145 孔子遂言曰
○○○○○
○○○○○

146 昔×三代明王必敬妻子
○×○○○○○○○○
○×○○○○○○○○
○者○○○○○○○○
×××××
○×○○○○○○○○

147 敢不敬**歟**是故君子
○○○與○○○○
○○○與○○○○
○○○與○○○○
○○○與○○○○

148 身也者親之**枝**也
○○○○○○○
○○○○○支○
○○○○○支○
○○○○○支○

149 敢不敬**歟**不敬其身
○○○與○○○○
○○○與○○○○
○○○與○○○○
○○○與○○○○

150 **傷其親**是傷本也
×××○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○

151 傷其本則**枝**從之而亡
○○○○○○○○○
○○○○支○○○○
○○○○支○○○○
○○○○支○○○○

152 昔**太**王之道也
○大○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○

153 如此**則**国家順矣
○○×○○○○
○○×○○○○
○○×○○○○
○○×○○○○

154 過**動**則民作則
○行○○○○
○行○○○○
○行○○○○
○行○○○○

155 若**此**則可謂能敬其身
○是○○○○○○○
○是○○○○○○○
○是○○○○○○○
○是○○○○○○○

156 **敬其身**則能成其親矣
○○○○○○○○○○
×××○○○○○○○
×××○○○○○○○
×××○○○○○○○

157 君子**者乃**人之成名也
○○○○○○○○○○
○○○也○○○○○
○也者○○○○○○
○○也○○○○○○

158 **愛**政而不能愛人
○○○○○○○○
○○○○○○○○
為○○○○○○○
○○○○○○○○

159 ×××××××××××
×××××××××××
×××××××××××
×
不能成其身則不能安其土不能安其土則不能樂天不能樂天則不能成其身
不能成其身則不能安其土不能安其土則不能樂天×××××××××
不能成其身則不能安其土不能安其土則不能樂天×××××××××
不能成其身則不能安其土不能安其土則不能樂天×××××××××

160 敢問何**謂**×成身
○○○×能○○
○○○×能○○
○○○○能○○
○○○×能○○

161 不過乎×合天道也
○○○×○○○○
○○○×○○○○
○○○物○○○○
○○○物○○○○

162 貴其不已×	○○○○也	○○○○也	○○○○也	○○○○也
163 ××××××××	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也	不閉而能久是天道也
164 無為而×**成**	○○物○	○○物○	○○成物	○○物○
165 幸煩子**之於**心	○○○○○○	○○○○○○	○○○志于○	○○○○○○
166 孔子**愀**然避席而対曰	○○蹴○○○○○○	○○蹴○○○○○○	○○蹴○○○○○○	○○蹴○○○○○○
167 寡人既聞**如**此言	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○×○○	○○○○○○○
168 君**之**及此言是臣之福也	○子○○○○○○○○	○子○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○子○○○○○○○○
169 (儒行**解**第五)	○○○○○	○○○○○	○○×○○	○○○○○
170 冉**求**言於季孫曰	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○有○○○○○
171 是猶郤歩而**欲**求**及**前人	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○×○×○○	○○○○○○○○○○
172 衛将用之已有才而以資 鄰国難以言智也	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○	×××××××××× ×××××××	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○
173 請以重幣**言**之	○○○○○○	○○○○迎○	○○○○迎○	××××××
174 ××××	升堂立侍	升堂立侍	升堂立侍	升堂立侍
175 夫子之服其儒服**歟**	○○○○○○○與	○○○○○與	○○○○○○○與	○○○○○○○與
176 丘少居魯衣**逢**掖之衣	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○縫○○○	○○○○○○○○○
177 其服以郷×	○○○○×	○○○○×	○○○○×	○○○○俗
178 則留**更**僕未可以対	○○○○○○○○	○○×○○○○○	○○×○○○○○	○○○○○○○○
179 孔子侍坐**曰**	○○○○×	○○○○○	○○○○○	○○○○○

180	儒有衣冠中動作**慎**	○○○○○○○順	○○○○○○○順	○○○○○○○○	○○○○○○○○
181	**其**大讓如慢	○○○○○	○○○○○	×○○○○	×○○○○
182	難進而易退×	○○○○○×	○○○○○×	○○○○○×	○○○○○也
183	其**坐起**恭敬	○起坐○○	○起坐○○	○起坐○○	○起坐○○
184	行必**中**正	○○忠○	○○○○	○○忠○	○○○○
185	其備**豫**有如此**者**	○○○○○○也	○預○○○○○	○預○○○○○	○預○○○○○
186	不求多積×多文以為富	○○○○×○○○○○	○○○○×○○○○○	○○○○×○○○○○	○○○○而○○○○○
187	先労而後**畜**××××乎	○○○○禄××××○	○○○○禄不亦易禄○	○○○○禄不亦易禄○	○○○○禄不亦易禄○
188	其近人情**有**如此者	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○×○○○
189	儒有委之以**財貨**而不貪	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○貨財○○○
190	淹之以**好楽**而不淫	○○○楽好○○○	○○○楽好○○○	○○○楽好○○○	○○○楽好○○○
191	**沮**之以兵而不**攝**	○○○○○○懾	阻○○○○○懾	阻○○○○○懾	阻○○○○○○
192	×××××××××× ×××××	×××××××××× ×××××	×××××××××× ×××××	鷙虫攫搏不程其勇引重 鼎不程其力	鷙虫攫搏不程其勇引重 鼎不程其力
193	過言不**再**	○○○○	○○○○	○○○○	○○○甫
194	**戴**仁而行	載○○○	○○○○	○○○○	○○○○
195	抱**徳**而処	○○○○	○○○○	○○○○	○義○○
196	其自**立**有如此者	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○守○○○○
197	上不答×不敢以諂	○○○之○○○○○	○○○之○○○○○	○○○之○○○○○	○○○之○○○○

198 其×仕有如此者　○×○○○○　○為士○○○○　○為士○○○○　○為○○○○○

199 儒有今人以居古人以耆　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　○○令○○○○○○○○稽　○○○○○○○○○○○○

200 若不逢世上所不受　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○援　○○○○○○○○○○○○援

201 讒諂之人　○○○民　詭○○民　詭○○民　詭○○民

202 有比党而危之×　○○○○○○○○×　○○○○○○○○×　○○○○○○○○者　○○○○○○○○者

203 雖危×起居×竟身其志　○○猶○○×○○○○　○○×○○猶○信○○　○○×○○猶○信○○　○○×○○猶○信○○

204 幽居而不淫上通而不困　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　×××××××××

205 内挙不避親外挙不避怨　○称×××××○○○　○称○○○○○○○○○○　○称○○○○○○○○○○　○称○辟○○○○辟○

206 推賢達能　○○○○　○○○○　○○讓○　○○○○

207 儒有澡身浴徳　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○×○○○○○

208 静言而正之　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　×○○○○○

209 而上下不知也　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　×○×○○○○

210 又不急為也　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○為急○

211 砥礪廉隅　○厲○愚　底厲○○　底厲○○　○○○○

212 ×××××　博学以知服　博学以知服　博学以知服　博学以知服

213 ×××　×××　×××　×××　近文章

214 視×如錙銖　○之○○○　○之○○○　○之○○○　○×○○○

215 ×同而進不同而退　義○○○○○○○○　義○○○○○○○○　義○○○○○○○○　義○則○○○則○

216 其交×有如此者　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○友○○○○○

217 **敬慎**者仁之地也　慎敬○○○○○　慎敬○○○○○　慎敬○○○○○　慎敬○○○○○

218 **孫**接者仁之能也　遜○○○○○○　遜○○○○○○　遜○○○○○○　遜○○○○○○

219 儒皆兼**此**而有之　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○×○○○　○○○×○○○

220 儒有不隕穫**於**貧賤　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○于○○　○○○○○○○○

221 不充詘**於**富貴　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○于○○　○○○○○○○

222 不**愿**君王　○○○○○　○溷○○　○溷○○　○溷○○

223 今人之名儒也**妄**　○○○○○○○忘　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

224 哀公既**得**聞**斯**言也　○○○○○○此○○　○○○○○○此○○　○○○○○○此○○　○○○×○此○○

225 終**没**吾世　○○○○　○歿○○　○歿○○　○歿○○

226 弗敢×以儒為戲矣　○○復○○○○○　○○復○○○○○　○○復○○○○○　○○復○○○○○

（問礼第六）

227 哀公問**於**孔子曰　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○于○○○　○○○○○○○○

228 子之言礼何其尊**也**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○×

229 不足以知大礼×　○○○○○○○也　○○○○○○○也　○○○○○○○也　○○○○○○○×

230 孔子曰丘**也**聞之　○○○○○×○○　○○○○○×○○　○○○○○×○○　○○○○○×○○

231 事天地之神**焉**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○×

232 君子×此**為之**尊敬　○○×○○○○○　○○×○之為○○　○○×○之為○○　○○以○○○○○

233 **所不能**不廃其会節　○×○○○○○○　×××○○○○○　×××○○○○○　×××○○○○○

234 **而**後治其××文章黼黻　○○○○××○○○○　○○○○××○○○○　○○○○××○○○○　然○○○彫鏤○○○○

235 以敬×祭祀別其親**疎**　○○×○○○○○○　○○其○○○○○○疎　○○×○○○○○○疏

236 而後宗**族**会讌　○○○○○○醼　○○○○○○醼　○○○○○○宴

237 器不**刻**鏤　○○○○　○○形○　○○形○

238 以与×民同利　○○×○○○○　○○萬○○○　○○萬○○○

239 **以**忤其衆　○○○○　×○○○　○○○○

240 以伐**其**道　○○有○　○○有○　○○有○

241 是**以**××君子莫能為礼　○即今之○○○○○○○　○即今之○○○○○○○　○即今之○○○○○○○

242 可得而聞乎孔子言**曰**　○○○○○○○○○×　○○○○○○○○○×　○○○○○○○○○×

243 我欲観夏**道**　○○○○○　○○○○○×　○○○○○

244 吾得**乾坤**焉**乾坤**之義　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○坤乾○坤乾○○

245 ×燔黍擘豚　×○○○○　×○○○○　×○○○○

246 汚**尊**×**抔**飲×××××　○罇×○○×××××　○罇×杯○蕢桴×土鼓　○罇×○○蕢桴×土鼓

247 猶可以致敬×鬼神　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○

248 升屋而号**告**曰高某復　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○

249 然後**飯**腥苴熟　○○○○○○○　○○飲○○○　○○飲○○○

250 是**謂**天望而地蔵也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

251 冬則居**営窟**　○○○○○○　○○○○○○　○○○○屈

252 夏則居**橧**巣　○○○○○○　○○○橧○　○○○橧○

253 以為××宮室戸牖　○○×××○○○○　○○×××○○○○　○○×××○○○○　○○臺榭○○○○

254 ××××以降×上神　××××○○×○○　××××○○×○○　××××○○×○○　以其祝嘏○○其○○
255 是謂承天之祐　○○○○○祐　○○○○○祐　○○○○○祐　○○○○○○
256 薦其毛血腥其俎　○○血毛○○○　○○血毛○○○　○○血毛○○○　○○血毛○○○
257 熟其殺　○○○　○○○　○○餚　○○○
258 越席以座　○○○○　○○○○　○○○○　趙○○○
259 疏布以羃　○○○○　○○○○　○○○○　○○○罩
260 衣其浣帛　○○○○　○○○○　○○○○　○○○布
261 ××××　××××　××××　××××　是謂合莫
262 是謂大祥　○為○○　○為○○　○為○○　○為○○
263 （五儀解第七）　○○○○○　○○○○○　○○×○○　○○○○○
264 然則章甫絇×履　○○○○○衝履　○○○○○×履　○○○○○×履　○○○○○×履
265 紳帶搢笏者　○○○○○　○○縉○○　○○縉○○　○○○○○
266 皆賢人也　○○○○　○○○○　○○○○　×○○○
267 夫端衣玄裳冕而乘軒×　○○○○○○○○○者　○○○○○○○○○者　○○○○○○○○○者　○○○○○○○○○○○○者
268 斬衰菅屨　○○○非　○○○非　○○○非　○○○非
269 杖而啜粥者　○○歠○○　○○歠○○　○○歠○○　○○歠○○
270 則志不在於酒肉　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○×○○
271 敢問何如斯可謂之庸人　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○
272 所謂庸人者　○○○○○　○○○○○　○○○○○　××○○○

273 不択賢以託其身
○○○○○○○○
○○○○托○○

274 見小闇大而不知所務
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○
○○言○○○○○

275 ×××××××××
×××××××××
×××××××××

276 此×庸人也
○則○○○

277 雖不能尽×道術之本
○○○○×○○○○
○○○○×○○○○
○○○○×○○○○

278 必審其所由智既知之
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○

279 則若性命之於形骸
○○○○○○○○○○
○○○○○形骸之
○○○○○形骸之

280 ××××
不可易也
不可易也
不可易也

281 此則士人也
○○○○○
○○○○○
○○○○○

282 仁義在身而色不伐
○○○○○○○○無○
○○○○○○○○無○
○○○○○○○○無○

283 ×××××××××
×××××××
思慮通明而辞不専篤行
信道自強不息
思慮通明而辞不専篤行
信道自強不息
思慮通明而辞不専篤行
信道自強不息

284 而×不可及者
○終○○○○
○終○○○○
○終○○○○

285 ××君子也
××○○○
此則○○○

286 道足×化於百姓
○○×○○○○
○○以○○○○
○○以○○○○

287 此×賢者也
○×○○○
○則○○○
○則○○○

288 所謂聖×者
○○○×○
○○○人○
○○○×○

289 窮万事之終始
○○○○○○
○○○○○○
○○○○○始終

290 敷其大道而遂成情性
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○
○○○○○○○性情

291 未嘗**知懼**未嘗知**労**
292 **則**丘亦無所聞焉
293 吾子言**焉**
294 君子入廟**而**右
295 俯察几筵
296 平**明**視朝慮其危難
297 日出聽政至**於**中冥
298 諸侯子孫往来**為**賓
299 則労×可知矣
300 緬然長思出於**國**門
301 周章遠望**覩**亡国之墟
302 君**既**明此五者
303 又**少**留意
304 **於**五儀之事
305 則**於**政治何有失矣
306 哀公問於孔子**曰**
307 無取啍啍
308 啍啍誕也
309 士必慤而後求智能××

○○○労○○○懼
○○○○○○○
○○○也
○○○○如○
○○○○
○旦○○○○○
○○○○○○于○○
○○○○○○○○○
○○亦○○○
○○○○○○○四○
○○○○○○○○○
○○○○○
○○○○
○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○者×

○○○労○○○懼
○○○○○○○
○○○也
○○○○如○
○○○○
○旦○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○亦○○○
○○○○○○○四○
○○○○○○○○○
○○○○○
○○○○
○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○者焉

○○○労○○○懼
○○○○○○○
○○○也
○○○○如○
○○○○
○旦○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○亦○○○
○○○○○○○四○
○○○○○○○○○
○○○○○
○○○○
○○○○○○
于○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○者焉

○○×労○○○懼
×○○○○○○
○○○也
○○○○如○
○○机○
○旦○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○×○○○
○○○○○○○四○
○○○○○○○○○
○○○○○
○○○○
○×○○
○○○○○
○×○○○○○○
○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○×焉

310 大則**無**攻	○○○○	○○×○	○○能○	○○×○
311 其道**如何**	○○○○	○○○○	○○何如	○○○○
312 **孔子**対曰使君朝廷有礼	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	××○○○○○○○○
313 上下**和**親	○○○○	○○相○	○○相○	○○相○
314 民畔如帰皆君之**仇**也	○○○○○○○讎○	○○○○○○○讎○	○○○○○○○○○	○○○○○○○讎○
315 将**誰與**守	○與誰○	○與誰○	○○○○	○與誰○
316 於是廃**澤梁**之禁	○○○○○○○	○○○山澤○○	○○○山澤○○	○○○山澤○○
317 孔子**對**曰有之	○○×○○○	○○×○○○	○○×○○○	○○×○○○
318 為其**有**二乗	○○○○○	○○×○○	○○×○○	○○○○○
319 若是**乎**君**子之**悪	○○○○×○○	○○○○○×○	○○×○○○○	○○○○○○○
320 詩之好善道**甚**也如此	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○×○○○	○○○○○○○○○
321 公曰**善**哉夫君子	○○美○○○○	○○美○○○○	○○美○○○○	○○美○○○○
322 信有天命非**惟**人也	○○○○○唯○○	○○○○○唯○○	○○○○○唯○○	○○○○○唯○○
323 善吾子**之言**	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○言之
324 有**雀**生大鳥於城**之隅**	○○○○○○○隅焉	○○○○○○○隅焉	○○○○○隅焉	○○○○○○○隅焉
325 則国家必王而名**必**昌	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○益○
326 詭福反為禍**至**者也	○○○○○×○○	○○○○○×○○	○○○○○×○○	○○○○○×○○
327 ×其先世	又○○○	又○○○	又○○○	又○○○
328 殷王**大**戊之時	○○太○○○	○○太○○○	○○太○○○	○○太○○○

329	以致**天孽**	○○夭蘖	○○妖蘖	○○夭蘖	○○妖蘖
330	**桑穀生於**朝	○○○于○	○○×于○	○○×○○	○○×于○
331	**大**戊恐駭	太○○○	太○○○	太○○○	太○○○
332	重**譯**至者十有六国	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○鐸○○○○○○
333	所以**警**人臣×也	○○儆○○×○	○○儆○○者○	○○儆○○者○	○○儆○○者○
334	×**知**此者至治之極也	能○○○○○○○○	能○○○○○○○○	能○○○○○○○○	能如○○○○○○○
335	**行**已自取也	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×○○○○
336	**佚**労過度者	逸○○○○	逸○○○○	逸○○○○	逸○○○○
337	**居**下位	吾○○	○○○	○○○	○○○
338	而上**忤**其君	○○干○○	○○干○○	○○干○○	○○干○○
339	動不量力**者**兵共殺之	○○○○×○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○×○○○○
340	雖得寿焉不亦**宜**乎	○○○○○○○○	○○○○○○○可○	○○○○○○○可○	○○○○○○○○

五本間の異同総数三四〇項のうち、証偽本即ち本書と一致するものは毛本が一九三項（その内本書が此本即ち毛本とのみ一致するもの三二項）、永本が一五一項（同じく〇項）、正義本が一〇九項（同じく九項）、呉本が九四項（同じく一二項）である。此の数字からも、毛本即ち汲古閣刊本が他の三本に比し、本書正文に密接近似せるテキストであることが明らかであろう。一方で、異同総数三三九項のうち、一四八項が汲古閣刊本とは異なり、また対校四本のいずれとも合致しないものが九八項にも升っている。このことは即ち汲古閣刊本を必ずしも底本とは定めていないことを物語るものでもあろう。次に、此の事実を補証する事例を二三示しておく。巻一始誅第二「執之三月不別其父請正」句下の注に「荀子作請止当依荀子」とみえるが、汲古

閣刊本は荀子に同じく「請止」に作り、「請正」に作るのは、永本、正義本、呉本で（異同表第五〇項参照）此の范氏の校注は汲古閣刊本を無視している。又、巻一大婚解第四「足以立上下之敬」句下に「夫婦正則始可以治正言礼」なる王肅注を引くが、此の王注の「始」字を汲古閣刊本は「汝」に作る（永本、呉本は「始」に作る）。

范氏証注の内、まれではあるが、何孟春或は呉嘉謨の注説を引証とし、また、「従何本改正」（巻二観周篇第八第二章末の割注）、或は「旧本云云」との校記が処々に見えることからも、諸本参照取捨した形跡が明らかで、特定の一本を藍本と定めて校勘されたものとは見做し難い。本文整定に関して言えば、やや恣意に流れた嫌いを免れない。

本注釈は、『証偽』という書名から直ちに明らかなように、王肅家語偽撰を弁証することを以て主眼としている。十巻四十四篇の各篇各章各文に即き、「事本云云」、「其文襲云云」「見云云」「此取云云」等と一々その源委即ち所拠の原本を解明し、原本との同異を示して刪削改鼠、増出添出、聯貫補湊の跡を解析し、更に行文の破綻、王註造文の矛盾を指摘する。源委不明の文節には「右未知所本」「余未知所本」と記して猶本ずく所有る可きを暗示している。范氏は本書巻末の「読家語雑記」に於て王肅家語の「取書之原」を記し、所拠の原本として、大戴礼、礼記、説苑、史記孔子世家及弟子伝、荀子法行・子道・哀公問三篇、左伝・国語、新序、韓詩外伝・淮南子・尸子、荘子・列子・韓非子・呂氏春秋・戦国策、毛萇詩伝を挙げ、一々其の取書に即き当然の理あるを説く。更に「改書之弊」を記して、「家語所採之書多従刪改。或一事参合両事以成文、或一篇離為両処以見異、或首尾加以問答、或中間加以聯貫、或刪削其字句、或潤色其聱牙。凡所変易痕迹宛然、但以原書校之、無不悉見。今就其可見者、平心論之、詳於各条之下。」（句読点は筆者）と。王肅の加増潤色の痕迹を指摘し、猶又、「家語所収間有失考者、疑即説苑之脱佚未可知也」と、「未知所本」即ち所拠不明の文は、現行の宋曽鞏校録説苑の不全に依るもので、その佚文であろうという。

巻十一は、先ず「王肅序」を掲し、その誕妄矛盾を指斥して、殆ど信ずべからずと論じ、次に「孔安国序」（即ち旧本「後序」の前半）を掲げ、何孟春の所論を承けて王肅の贋作と見做し、序するところ悉く無拠妄説悠謬無稽の説と為す。更に「王肅後序」（即ち旧本「後序」の後半）は、前半の孔安国に至る孔氏の世系を史記世家に合わずとして疑い、後半の博士孔衍の上書も内

容上史乗に乖するとして全て王肅の捏造と断ずる。「読家語雑記」は総論的な性格を有し、家相の家語論の言わば薈粋で家語偽書論の要述である。「名義出処」「家語非出孔壁」「伝習」「家記之亡」「今家語之出」「篇数不同」「取書之原」「改書之弊」「諸家評論」「書行之由」「偽誣之尤」「王肅原本之訛」と論旨を分ち、既撰の劄録を彙輯し、加筆整序したもののようである。次の一文は家相の本書撰述の意図を最も良く示している。「王氏所註家語、先儒或信或疑。信者亦譏其雑而不純、疑者但知其増加旧説。未有全指其偽者、一以魏晋以来流伝之旧或有所本、一以孔門之書存之為幸、且託於孔猛之所出、当非全誣也。不知是書之源委自王肅以前従未見諸儒言及、而肅言孔壁所蔵博士所奏。独如此、了了非即肅之供牒耶」(「書行之由」)と。

尚、宋の史繩祖、沈約、朱熹、陳振孫、王応麟、明の何孟春、呉嘉謨、劉宗周、清の顧炎武(絳)(日知録)、朱彝尊(孔門弟子考)、毛奇齢(四書改錯)等先儒の議論の引用がみられ或は参考引証となし、或は批判弁斥する。

家語四十四篇の全文を王肅の偽撰と論断したのは夙に宋王柏(宋慶元三〈一一九七〉年生、咸淳一〇〈一二七四〉年歿)があり、其の論義は「家語考」(『魯斎王文憲公文集』巻九所収)に詳らかである。降って明郎瑛(明成化二三〈一四八七〉年生)は王柏の所論を承けて「家語非孔安国所為」(『七修類稿』巻二四)の小文を貽している。しかしながら、唐より以来宋元明を経、清初に到るまで、孔子家語は論語・孝経と共に孔子並に弟子の言行事績を伝えた先秦の古籍とみるのが猶一般であった。しかるに、清代中葉以来、家語偽撰説が主流を占め、殆ど定論となった趣がある。それはとりもなおさず考証学隆盛に伴って生じた学術の成果の一端であろうが、その先鞭を着けたのが范家相の本書である。家相は朱彝尊の『経義考』に拠って王柏の所論は承知していたであろう。しかしながら、全文に亘って本文批判を試み、逐一基く所の原典を比定し王肅偽撰の手法を指斥した綿密精緻なる考証は家相を待ってはじめて成就したことであって、その功業は甚大である。

尚、本書は羅遏春序の年紀から察するに、書成後百二十年余り経てはじめて刊行されていることに、注意を要しよう。此の間の伝承の経緯は明らかでなく、伝鈔本も現存しないようである。また、校刊の顚末も未だ詳らかにしない。

范家相、字は左南、又蘅洲或は雪舟と号す。浙江会稽の人。乾隆一九(一七五四)年の進士にして、刑部主事を授けられ、郎

中に陞る。同三三（一七六八）年、広西柳州府知府となるが、歳余にして疾を以て告帰し、ほどなく卒した。生卒年は詳らかにしないが歿年は乾隆三四・五年と推定される。家相の学は毛奇齢の学統を引くとされる。但、奇齢が詰駁攻撃を喜み、反ってまた攻撃を蒙ったのに鑑み、持論和平、放言高論は謹しんだ（『四庫全書提要巻』一六）。生平最も服膺したのは黄宗羲で、孝友直諒、古誼に敦く、栄達利欲には淡懐泊如であった。著作は多く、特に考証に秀で、詩学に尤もその蘊蓄を示している。ただ多くは今伝わらず、管見に入れる著書は本書を除けば次の三書に過ぎない。

三家詩拾遺一〇巻首目一巻　〔清〕刊光緒一三（一八八七）年修（墨潤堂）〔范氏三種〕所収本

自序（乾隆甲戌〈一九年〉四月長至後十日会稽范家相序）、序（乾隆丁亥〈三二年〉三月清明後一日吉水弟羅遹春撰）

尚、四庫全書本は自序の年紀を庚辰、即ち乾隆二五年とする。本書には次の葉鈞による重訂本がある。

重訂三家詩拾遺一〇巻　清葉鈞重訂　譚瑩校　清道光三〇（一八五〇）年刊（南海伍氏）　嶺南遺書所収本

此本、自序年紀を、庚戌に誤る。

詩瀋二〇巻　〔清〕刊光緒一三（一八八七）年修（墨潤堂）〔范氏三種〕所収本

序（乾隆甲戌〈一九年〉九月望後二日年通家侍生秀水諸錦序）、序（乾隆二十八年歳次癸未二月虞山同学年愚弟顧鎮頓首拝題）、序（大興翁方綱頓首序）、自序（乾隆二十五年歳次庚辰正月上元会稽范家相序）

以上二書は欽定四庫全書経部三詩類に収録されている。

夏小正輯註四巻　〔清〕刊光緒一三（一八八七）年修（墨潤堂）〔范氏三種〕所収本

序（乾隆三十二年正月上元范家相自序）、（乙亥〈嘉慶二〇年〉夏日改庭再侄芝跋）

以上三書並に〔范氏三種〕に収める。各書首、扉裏の木記に「会稽范氏蔵板光緒丁亥年墨潤堂重脩」とある。開板の年月を詳らかにせず、また未修原本の現存するところを聞かない。

此のほか、易説二巻、書義拾遺七巻、四書貫約一〇巻、韻学攷原二巻、今韻律五巻、史漢義法一〇巻、史記蒙拾三巻、廟制問答二巻、刑法表四巻、南中日札四巻、文集二〇巻（以上、清同治刊紹興府志巻五三人物志一三儒林に拠る）、及び古趣亭詩

一冊（諸錦撰詩瀋序に拠る）環渌軒詩草（『国朝詩人徵略』巻三六）の著述がある。略伝は、清史列伝巻六八儒林伝下、国朝学案小識巻一三に見えている。尚、清儒学案には、目録の巻二六毛奇齢西河学案下の末に名のみ見え、本文該処には記述が無い。

孔子家語疏証　一〇巻　清陳士珂輯　清嘉慶二三（一八一八）年刊

未見。『販書偶記』巻九子部儒家類議論経済之属に著録さる。本書が嘉慶二三年に初めて刊行された事実に就いては、次掲、『湖北叢書』所収本首にみえる、同年春三月陳詩撰「孔子家語疏証序」末の一文が旁証となろう。曰く「已而先生（即ち陳士珂）帰道山、哲嗣金門就官南楚、相晤于鄂城、以兄事余、命其二子沆澐師余為老馬。未幾二子聯翩官京師、会以仮帰。而今歳之春、金門于長沙官署、一日検旧篋、得二書稿本。亟命二子攜以来鄂、取其書示余、而蜀為之序、以次版行焉」と。金門とは士珂の子光詔の字、乾隆四四（一七七九）年の挙人で、大挑に由り湖南省長沙・湘陰・永定・平江等の知県を歴仕し、恵政を称せられた人物である（光緒六〈一八八〇〉年修『蘄水県志』巻一〇人物志宦蹟、光緒一〇年修『黄州府志』巻二一人物志宦蹟下）。また、此の序文を撰じた陳詩は、蘄州の人、乾隆四三年の進士で工部主事を授けられ、後に江漢書院院長を勤めた（咸豊二〈一八五二〉年修同治二〈一八六三〉年補『蘄州志』巻一一人物志儒林）。蘄水陳氏とは同族であり、士珂を先生と称し、光詔とは兄弟を称する間柄にあって、光詔の子沆・澐は詩を師としている。詩序に拠れば「今歳」、即ち嘉慶二三年の春、光詔は、長沙官署において、旧篋の中より士珂の遺稿を見出した。「二書」とは、本書及び『韓詩外伝疏証』を云う。光詔はすぐさまたまたま仮帰していた二子沆・澐を、此書を携えて詩のもと鄂城へ遣り、序を求めて版行に及んだものと記す。

更に今一つ、嘉慶二三年刊行を旁証するものとして、同年季夏月撫楚使者海豊張映漢撰の「韓詩外伝疏証序」がある。『韓詩外伝疏証』の原刊本は未だ管見に入らぬが、『増訂四庫簡明目録標注』邵章続録、或は『続修四庫全書提要』に嘉慶二三年刊本が著録され、同年の刊行にかかることは疑を入れぬ。今、『文淵楼叢書』所収本に従って、映漢の序文を抄録する。「退食之暇、偶取所蔵韓詩外伝諦観之、竊憾其字句多脱誤、而未有以正也。一日挙以語陳虞部愚谷、虞部遂言曰（略）琢軒諱士珂、蘄水宿儒、由歳貢生挙乾隆丁酉郷試。戊寅之夏、其文孫国録沆

庶常澐以仮帰、挙是書付剞劂氏、且来請序余因述其書之梗概」と。愚谷は陳詩の号。戊寅は即ち嘉慶二三年。また、その本の首には、

蘄水琢軒陳士珂輯　男光詔金門孫沆秋舫同校
治際安
沢蘭階
澐大雲

と題署されている。本書もまた此の『韓詩外伝疏証』と同様、光詔・沆・澐等父子の校訂刊行になるものと看做して相違ないであろう。

ちなみに、陳沆は原名を学廉、字は大初、秋舫と号した。嘉慶一八(一八一三)年の挙人で、陳詩序に「官京師」と、張映漢序に「国録」とあるのは、国子監某堂の学録に任じたのであろう。澐はその弟で、嘉慶二一年、相継いで郷試に中り、翌二二年、兄に先だって進士となって「庶常」即ち翰林院庶吉士に任ぜられている。本書が刊行されたのはその翌年に当る。更にまたその翌年即ち嘉慶二四年の恩科に於て、沆も続いて進士に挙げられ、廷試第一名状元の栄誉を得、翰林院修撰の官に就いている。両人の伝は光緒六(一八八〇)年修『蘄水県志』巻九人物志文苑或は、光緒一〇年修『黄州府志』巻一九人物志文苑に見える。

同　清光緒一七(一八九一)年刊(三餘艸堂)　湖北叢書所収本

書扉「陳氏孔子／家語疏証／十巻」と題し、裏に「光緒辛卯三／餘艸堂蔵板」なる木記あり。首に「孔子家語疏証序」(「嘉慶二十有三年戊寅春三月族人詩撰」)及び「孔子家語疏証目録」を冠す。本文巻頭「孔子家語疏証巻一(隔二格半)湖北叢書用蘄水陳氏家蔵本／(低一二格)蘄水陳士珂輯／相魯第一」と題し本文に入る。尾題は首題に同じ。但、巻数下に「終」字があり、題次行低一三格に校字・覆校者名(各巻異なる)あり。四周単辺(一五・八×一一・一糎)、有界、十一行行廿字、疏証文大字単行低一格行十九字。版心上大黒口、下小黒口、双黒魚尾、「孔子家語疏証幾(丁付)」、毎葉下象鼻左に字数あり。章節毎に改葉さる。

『湖北叢書』は清趙尚輔編、経部一三種、史部八種、子部七種、集部一種の計二十九種を収録するが、本書の如く、書前の封面に「光緒辛卯／三餘艸堂蔵板」等と題署する外には、前後並に刊書序跋の類は無く刊行の経緯顚末を詳らかにしない。編者、字は翼之、四川万県の人、光緒中の進士で、湖北学政となる。従って本編は、尚輔学政時の編刊にかかる(『続修四庫全

書提要』子部雑叢郡邑類参照)。本書は首題下に「湖北叢書用**靳**水陳氏家蔵本」と題され、恐らくは前述の嘉慶二三年原刻本に拠れる翻刻であろう。原刻本罕伝の為か再刊弘通を企ったものと推則される。此の湖北叢書本は、次に掲げる如く、民国以後再三影印或は翻印され、家語の清人撰述注釈書類の内で最も流布通行するに至っている。

同　民国五七(一九六八)年刊(台北　文海出版社)
影印清光緒一七年刊湖北叢書本　国学集要三編十種所収本　A5二冊

同　民国五八(一九六九)年刊(台北　芸文印書館)
影印国立台湾大学図書館蔵清(光緒一七年)刊湖北叢書本　百部叢書集成所収本　唐中八冊

同　民国二六(一九三七)年刊(上海　商務印書館)
鉛印　翻湖北叢書本　万有文庫第二集所収　断句本
未見『中国近代現代叢書目録』に拠る

又　民国二八(一九三九)年印(長沙　商務印書館)
叢書集成初編所収　B6四冊

又　民国三〇(一九四一)年印(上海　商務印書館)
国学基本叢書所収　未見『中国近代現代叢書目録』に拠る

同　民国五七(一九六八)年刊(台北　台湾商務印書館)　影印国学基本叢書四百種所収

同　民国六〇(一九七一)年刊(台北　台湾商務印書館)　影印　人人文庫新書一冊

同　一九八七年刊(上海　上海書店)　影印国学基本叢書所収本　B6一冊

本書四十四篇の巻立篇次は、永懐堂刊本、姜兆錫正義本とは異なり、汲古閣刊本、明翻南宋刊本等に一致する。即ち、巻九に、七十二弟子解第三十八、本姓解第三十九、終記解第四十、正論解第四十一を、巻十に、曲礼子貢問第四十二、曲礼子夏問第四十三、曲礼公西赤問(本書篇題「公」字を脱す)第四十四を収める。

本書には所拠の底本に就いては、一切触れられていない。従って藍本を推定するには正文に即いて諸本との同異の検討を要する。書成当時即ち乾隆嘉慶の交に於て伝存し、著者が参見依用した可能性の強い王肅注本四本、明翻南宋刊本(黄本と略す、四部叢刊本に拠る)、永懐堂刊本(永本)、汲古閣刊本(毛本)及び明呉嘉謨集校本(呉本)を採りあげ、巻一、七篇に即いてその間の異同を表示すれば次の如くである。

疏証本（字句下に（正）とあるのは姜氏正義本とのみ一致することを示す）	黄本（明翻南宋刊本）	永本（永懐堂刊本）	毛本（汲古閣刊本）	呉本（呉嘉謨集校本）
（相魯第一）				
1 器不**雕**偽	○○○○	○○○○	○○彫○	○○彫○
2 五寸之**椁**	○○○○	○○○○	○○○槨	○○○槨
3 因**邱**陵為墳	○丘○○○	○丘○○○	○丘○○○	○丘○○○
4 **于**是二年定公以為司空	於○○○○○○○○○	於○○○○○○○○○	於○○○○○○○○○	於○○○○○○○○○
5 由司空為**魯**大司寇	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○×○○○	○○○○×○○○
6 無**姦**民	○○○	○○○	○姧○	○奸○
7 定公与斉侯会**于**夾谷	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○於○○
8 古者諸侯**並**出疆	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○×○○	○○○○○○○
9 斉使萊人以兵**鼓譟**	○○○○○○○○諺	○○○○○○○○諺	○○○○○○○○諺	○○○○○○○皷諺
10 **于**神為不祥	於○○○○○	於○○○○○	於○○○○○	於○○○○○
11 **于**徳	於○	於○	於○	於○
12 為**僭**義	○僭○	○僭○	○愆○	○○○
13 **于**人為失礼	於○○○○	於○○○○	於○○○○	於○○○○
14 **匹**夫熒**侮**諸侯**者**	○○○○○○○○	○○○○○○○○	疋○○○○○○○	○○○惑○○×
15 罪**応**誅	○○○	○○○	○○○	○当○
16 請右司馬速**加**刑焉	○○○○○×○○	○○○○○×○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○
17 **于**是斬侏儒	於○○○○	於○○○○	於○○○○	於○○○○

18手足異処　○○○○　○○○○　○○○○　××××
19孔子使茲無**還**対曰　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○選○○
20吾**以**供命者　○○○○○　○○○○○　○所○○○○
21孔子**謂**梁丘挐曰　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○以○○○○
22是用粃**粺**　○○○○　○○○○　○○○糠
23用粃**粺**君辱　○○○○○　○○○○○　○○糠○○
24魯以君子×道輔其君　○○○○○×○○○○　○○○○○×○○○○　○○○○○之○○○○○
25而子独以夷狄×道　○○○○○○○×○　○○○○○○○×○　○○○○○○○之○
26**于**是乃帰所侵魯之四邑　於○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　於○○○○○○○○○○
27孔子言**于**定公曰　○○○於○○○　○○○於○○○　○○○於○○○
28叔孫不得意**于**季氏　○○○○○○於○○　○○○○○○於○○　○○○○○○於○○
29孔子命申句須楽**頎**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○
30**疆**公室　強○○　強○○　彊○○　○○○
31有慎潰氏×　○○○○×　○○○○×　○○○○×　○○○○者
32**賈羊**豚者不加飾　賣○○○○○○○　賣○○○○○○○　賣羔○○○○○○　賣羔○○○○○○
33四方客至**于**邑×　○○○○於○×　○○○○於○者　○○○○於○者　○○○○於○者
（始誅第二）
34**于**是朝政七日而誅　於○○○○○○○　於○○○○○○○　於○○○○○○○　於○○○○○○○
35尸**于**朝三日　○於○○○　○於○○○　○於○○○　○於○○○

36	魯之聞人也	○○○○○	○○○○○	○○○○×	○○○○○
37	今夫子為政而始誅之	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○×○○○
38	吾語汝以其故	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○×××
39	二曰行僻而堅	○○○○○○	○○○○○○	○○○辟○○	○○○○○○
40	三曰言偽而辯	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○辨
41	五曰順非而澤	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○飭
42	有一于人	○○於○	○○於○	○○於○	○○於○
43	其居処足以撮徒成党	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○椒○○○
44	其談説足以飾褒栄衆	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○飭襃○○	○○○○○飭○○○
45	其彊禦足以反是独立	○強○○○○○○○	○強○○○○○○○	○○○○○返○○○	○強○○○○○○○
46	此乃人之姦雄者也	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○姧○有×	○○○○奸○○○
47	是此七子皆異世	○○○○○○○	○○○○○○○	凡○○○○○○	凡○○○○○○
48	以七子異世而同悪故不可赦也	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	×××××××××××××
49	其父請止	○○○○	○○○正	○○○○	○○○正
50	孔子喟然歎曰	×○○○○○	×○○○○○	×○○○○○	×○○○嘆○
51	獄犴不治	○○○○	○○○○	○○○○	○行○○
52	而後以威憚之	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○	然○○○○○

（王言解第三）

53 孔子間居　曾○○○　○○○○　○○閑○　○○○○
54 曾参侍　○○侍　○○侍　惟○○○○○○○×○○　○子侍
55 唯士与大夫之言可聞也　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○

72 則本正**也**　○○○○　○○○○　○○○矣　○○○矣
73 民敦×俗璞　○○×○○　○○×○○　○○而○樸　○○×○樸
74 六者教之**至**也　○○○○致○　○○○○致○　○○○○○○　○○○○致○
75 布諸天下四方而不**窕**　○○○○○○○○怨　○○○○○○○○怨　○○○○○○○○怨　○○○○○○○○
76 **然**則賢者**悅**而不肖者懼　○○○○○○○○

91 則天下之×名譽興焉　○○○○民○○○○　○○○○民○○○○　○○○○明○○○○　○○○○×○○○○
92 能挙天下之至賢**者**也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○×○
93 此之謂還師**袵**席之上　○○○○○袵○○○　○○○○○袵○○○　○○○○○袵○○○　○○○○○○○○○
94 （大**晉**解第四）　○婚○○○　○婚○○○　○婚○○○　○婚○○○
95 公×曰　○問○　○問○　○問○　○×○
96 敢問人道**孰**為大　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○誰○○　○○○○誰○○
97 孔子**愀然作色而**対曰　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○×××××○○
98 君×及此言也　○×○○○○　○×○○○○　○×○○○○　○之○○○○
99 **固**臣敢無辞而対　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　×○○○○○○
100 君為**政**則百姓従而正矣(正)　○○正○○○○○○　○○正○○○○○○　○○正○○○○○○　○○正○○○○○○
101 君之所為百姓之所従君不為正百姓何所従乎　○○○○○○○○○

109 愛与敬其政之本**與**　○○○

127 冉**求**言於季孫曰　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○言○　○有○○○○○

128 **請**以重幣**迎**之　○○○○○○○　○○○○○○○　×××××××

129 其服以鄉×　○○○○○×　○○○○○×　○○○○○俗

130 則留×僕未可以対　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○更○○○○○　○○更○○○○○

131 孔子侍坐**曰**　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○×　○○○○○○

132 儒有衣冠中動作**慎**　○○○○○○○順　○○○○○○○順　○○○○○○○順　○○○○○○○

133 ×大讓如慢　其○○○○　其○○○○　其○○○○　×○○○○

134 難進而易退×　○○○○○○×　○○○○○○×　○○○○○○×　○○○○○○也

135 **行必忠**正　○○○○　○○中○　○○○○　○○中○

136 道**途**不争険易之利　○塗○○○○○○　○塗○○○○○○　○塗○○○○○○　○塗○○○○○○

137 其備**預**有如此**者**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○豫○○○也　○○○○○○○

138 不求多積×多文以為富　○○○○○×○○○○○　○○○○○×○○○○○　○○○○○×○○○○○　○○○○○而○○○○○

139 先労而後禄**不亦易禄**乎　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○×××○　○○○○○○○○○○

140 其近人情**有**如此者　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○×○○○

141 儒有委之以**財貨**而不貪　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○貨財○○○

142 **阻**之以兵　○○○○　○○○○　沮○○○　○○○○

143 而不**懾**　○○○　○○○　○○○　○○攝

144 鷙虫攫搏不程其勇引重鼎不程其力　×××××××××××××　×××××××××××××　×××××××××××××　○○○○○○○○○○○○○

145 過言不**再**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○○

146 其過失可微**辯**　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○辨

147 **戴**仁而行　○○○○　○○○○　○○○○　○○○○

148 抱**德**而処　○○○○　○○○○　○○○○　○義○○

149 其自**立**有如此者　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○守○○○○

150 其**為士**有如此者　○○○○○○○　○○○○○○○　○×仕○○○○　○○仕○○○○

151 儒有今人以居古人以**稽**　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○

152 若不逢世上所不**援**　○○○○○○○○受　○○○○○○○○受　○○○○○○○○受　○○○○○○○○○○

153 **詭**諂之民　○○○○　○○○○　○○○○　○○○○

154 有比党而危之**者**　○○○○○○○×　○○○○○○○×　○○○○○○○×　○○○○○○○○

155 雖危**起居**猶竟**信**其志　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○猶起居○身○○　○○○○○○○○○○

156 幽居而不淫上通而不困　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○

157 内称**不避親外挙**不**避**怨　○○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○○○○

158 儒**有**澡身浴徳　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

159 **静**言而正之　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○

160 **而**上**下**不知也　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

161 又不**急為**也　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

162 其特**行**独**立**有如此者　○○立○行○○○○　○○立○行○○○○　○○立○行○○○○　○○立○行○○○○

163 **底**厲**廉隅**　○○○○　○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

164 博学以知服×××　○○○○○○×××　○○○○○○×××　○○○○○○×××　○○○○○近文章

165 視之如錙銖　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○×○○○

166 義同而進不同而退　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○則○○○則○

167 其交×有如此者　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○友○○○○○

168 慎敬者人之地也　○○○仁○○○○　○○○仁○○○○　○○○仁○○○○　○○○仁○○○○

169 儒皆兼此而有之　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○×○○○○

170 不溷君王　○○○○　○○○○　○恩○○　○○○○

171 今人之名儒也妄　○○○○○○○忘　○○○○○○○○○　○○○○○○○忘　○○○○○○○○○

172 哀公既得聞此言也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○×○○○○○

（問礼第六）

173 子之言礼何其尊也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○×

174 不足以知大礼也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○×

175 事天地之神焉　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○×

176 非礼則無以辨　○○○○○○辯　○○○○○○辯　○○○○○○辯　○○○○○○○

177 婚姻親族　婚○○○　婚○○○　婚○○○　婚○○○

178 疏数之交　疎○○○　疎○○○　疎○○○　○○○

179 君子×此之為尊敬　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○×○為之○○　○○以○為之○○

180 ××不廃其会節　××○○○○○　××○○○○○　所能○○○○○　××○○○○○

181 而後治其××文章黼黻　○○○○××○○○○　○○○○××○○○○　○○○○××○○○○　然○○○彫鏤○○○○

182 以敬**其**祭祀　○○○○○　○○○○○　○○×○○　○○×○○

183 別其親**疏**　○○○疎　○○○疎　○○○○　○○○○

184 而後宗族会**讌**　○○○○○醼　○○○○○醼　○○○○○宴

185 車不**雕**璣　○○○○　○○○○　○○彫○　○○彫○

186 器不**彫**鏤　○○形○　○○形○　○○刻○　○○形○

187 以与**萬**民同利　○○○○○○　○○○○○○　○○×○○○　○○○○○○

188 荒怠慢**遊**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○游

189 **以**忤其衆　×○○○　×○○○　○○○○　○○○○

190 孔子言我欲観夏**道**　○○○○○○○×　○○○○○○○×　○○○○○○○○　○○○○○○○○

191 吾得**坤乾**焉**坤乾**之義(正)　○○乾坤○乾坤○○　○○乾坤○乾坤○○　○○乾坤○乾坤○○　○○乾坤○乾坤○○

192 ×燔黍擘豚　×○○○○　×○○○○　×○○○○　其○○○○

193 汙罇×**抔**飲　○○×杯○　○○×杯○　○○×○○　○○而杯○

194 **簀**桴×土鼓　蕢○×○○　蕢○×○○　×××××　蕢○而○○

195 猶可以致敬×鬼神　○○○○○×○○　○○○○○×○○　○○○○○○○○　○○○○○○於○○

196 升屋而号**告**曰高某復　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○

197 然後**飲**腥苴熟　○○○○○○○　○○○○○○○　○○飯○○○　○○○○○○○

198 是**謂**天望而地蔵也　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○為○○○○○○

199 夏則居**橧**巣　○○○橧○　○○○橧○　○○○○○　○○○○○

200 以為××宮室戸牖　○○××○○○○　○○××○○○○　○○××○○○○　○○臺榭○○○○

201 ××××以降×上神　×××××○○×○○　×××××○○×○○　×××××○○×○○　以其祝嘏○○其○○
202 是謂承天之**祜**　○○○○○祐　○○○○○祐　○○○○○祐　○○○○○○
203 **越**席以坐　○○○○　○○○○　○○○○　**趙**○○○
204 疏布以**羃**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○**罩**
205 衣其浣**帛**　○○○○　○○○○　○○○○　○○○布
206 以嘉魂魄×××× ○○○○××××　○○○○××××　○○○○××××　○○○○是謂合莫
207 是**謂**大祥　○為○○　○為○○　○為○○　○為○○

（五儀解第七）

208 然則章甫絇×履　○○○○○×○　○○○○○×○　○○○○○衝○　○○○○○×○
209 紳帶**縉**笏者　○○○○○　○○○○○　○○○○○　○○搢○○
210 **皆**賢人也　○○○○　○○○○　○○○○　×○○○
211 夫端衣玄裳冕而**乘**軒者　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○垂○○
212 則志不在**於**酒肉　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○×○○
213 敢問何如斯**可**謂之庸人　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○
214 不択賢以**託**其身　○○○○○○○○　○○○○托○○　○○○○○○○○　○○○○托○○
215 見小闇大**而**不知所務　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○×○○○○
216 ××××××××　××××××××　××××××××　××××××××　五鑿為正心從而懐
217 雖不能尽×道術之本　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○×○○○○　○○○○通○○○○
218 必審其所由**智**既知之　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○知○○○

219 則若性命之**形骸之**　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○於形骸　○○○○○○○○

220 **此則**君子也　○○○○○　○○○○○　××○○○　××○○○

221 道足**以**化於百姓　○○○○○○○　○○○○○○○　○○×○○○○　○○×○○○○

222 此**則**賢者也　○○○○○　○○○○○　○×○○○　○×○○○

223 所謂聖×者　○○○×○　○○○人○　○○○×○　○○○人○

224 敷其大道而遂成**性情**(正)　○○○○○○○情性　○○○○○○○情性　○○○○○○○情性　×××××××

225 未嘗**知**労　○○○○　○○○○　○○○○　○○×○

226 **則**丘亦無所聞焉　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　×○○○○○○

227 俯察**几**筵　○○机○　○○○○　○○○○　○○机○

228 日出聽政至**於**中冥　○○○○○于○○　○○○○○○○　○○○○○于○○　○○○○○于○○

229 諸侯子孫往来**為**賓　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○如○

230 則労**亦可**知矣　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○○×○○○

231 周章遠望**覩**亡国之墟　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○×○○○○

232 君**既**明此五者　○○○○○○　○○○○○○　○○○○○○　○能○○○

233 又**少**留意　○○○○　○○○○　○○○○　○×○○

234 則**於**政治何有失矣　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○×○○○○○○

235 哀公問於孔子**曰**　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○×

236 無取**啍啍**　○○啍啍　○○啍啍　○○啍啍　○○啍啍

237 **啍啍**誕也　啍啍○○　啍啍○○　啍啍○○　啍啍○○

238 士必慤而後求智能**者焉**　○○○

257	**居**下位而上干其君	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	吾○○○○○○○○	○○○○○○○○○
258	動不量力**者**兵共殺之	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○×○○○○	○○○○×○○○○
259	雖得寿焉不亦**可**乎	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○宜○	○○○○○○○宜○

表示した二五九項の異同の内、各本本書と一致するものは黄本が一八一項（此の内、本書が該本とのみ一致するのは二項）、永本が一八二項（同じく二項）、毛本が一一八項（同じく一項）、呉本が六四項（同じく一九項）である。此の数字から本書正文は、毛本・呉本よりは、はるかに、黄本或は永本に近接していることが明らかであろう。黄本と相違する七八項のうち3の邱丘、45の彊強、67 93の衽衽、86の饑飢、104 105 111 177の婚婚、136の途塗、176の辨辯、178 183の疏疎、227の几机は、本字、別体字、同字、通用字の関係にある所謂、異体字であり、また4 10 11 13 17 26 27 28 33 34 35 42 228 250の于於、74至致、94の昏婚、184の讌醼、194の簀蒉、251の太大は一般に通用され文義上乖異を生ずるものではなく、また両本の近接関係に於て必ずしも負の要因となるものではない。従って事実上本書が黄本と相違するのは、9 12 16 30 32 50 53 54 66 75 80 87 88 91 95 100 115 124 125 126 132 133 144 151 152 154 162 168 171 186 189 190 191 193 199 202 207 224 236 237 239 242 245 249 256の四五項に限られる。永本に即いてみても略同様の数字が示され（これは、本稿㈠に於て指摘した如く、永本が黄本を底本としているのであれば当然の結果である）るが、上述した如く、永本とは巻立篇次を異にすることから、黄本を本書の底本と認め得べき蓋然性が高い。一方で、黄本と相違を示す四五項のうち、12 75 80 91 95 125 132 133 144 152 154 202 245の一三項が呉本とのみ合致し、100 115 124 126 191 224 239の七項は前掲の姜氏正義本とのみに合致することから、呉本、正義本をはじめとする幾本かを参校した形跡も窺える。

黄本との近似性は、本稿㈠（229頁参照）に於て示した黄本の脱文錯簡の個処を本書について比較すればより明らかになる。本稿㈠該所に於て9～16の数字下に指摘した七十二弟子解第三十八の脱文は正文については本書も尽く脱している。また17 18の曲礼子夏問第四十三、曲礼公西赤問第四十四の間の黄本の錯簡も、ほぼそれを踏襲し、只、黄本では子夏問篇「季桓子死」章を中途断絶した錯入であったのを、本書は此の章は首尾完好

させ、次に公西赤問篇の「孔子有母之喪」「顔回死」「原思言於曾子曰」の三章を竄入し、黄本が錯入せる「孔子有母之喪」章に続く「孔子之母既喪」章の後半は、本書では公西赤問篇にもどしてそこで此章を完備させている。従って本書は、公西赤問篇の「孔子有母之喪」章から「原思言於曾子曰」章までを子夏問篇の「季桓子死」章と「子罕問於孔子曰」章の間に錯置したこととなり、黄本の錯簡の痕跡を留めるものと見做される。また、曲礼公西赤問篇「衛荘公之反国」章以下及び後序全文を脱していることも黄本と規を一にする。以上のことから、本書の底本は、黄本、もしくは黄本により近接せる一本と考えて過誤ないであろう。

本書編述の体例は、陳詩の序文に撰者陳士珂の言を引き、「予嘗据本書為綱、而互見于他書者、仍用大字書之、以附其後、与所輯韓詩外伝、体例相同、名之曰疏証」とある如く、まず、正文を章段に句切って掲出し（但し王言解第三・大昏解第四・儒行解第五・弟子行第十二・入官第二十一・五帝第二十四・郊問第二十九・五刑解第三十・刑政解第三十一・礼運第三十二・冠頌第三十三は一篇一章）、該文と同義同事の類文或は参照記載を群書の内に旁捜採摭し各篇末或は章末に一格を低して引載列挙し、末に出典名並にその篇名巻数等を小書附記してある。かかる編述の手法は同人撰の『韓詩外伝疏証』と共通する。韓詩外伝首には「互見諸書目録」が冠してあるが本書にはは無い。今それに倣って本書引載諸書を示しておく。経部（尚書大伝・詩・韓詩外伝・同佚文見緯略・儀礼・礼記・大戴礼・三礼義宗・春秋左氏伝・春秋公羊伝・春秋穀梁伝）、史部（史記・国語・戦国策・晏子春秋・世本〈詩商頌那正義引〉）、子部（荀子・孔叢子・賈宜新書・新序・説苑・韓非子・呂氏春秋・淮南子・白虎通・列子・文子・尸子〈太平御覧引・文選琴賦注引〉）。以上、『三礼義宗』を除けば全て、先秦秦漢成立の旧典である。『三礼義宗』は梁崔靈恩撰、佚書にして、『玉函山房輯佚書』に蒐めて四巻と成す。『玉函山房輯佚書』拠用の底本は乾隆中章宗源の集録した稿本とされ、従って、本書編述時既に、此の『三礼義宗』は亡佚していたと考えるのが妥当で、本書に於ける此の引用は、『礼記』檀弓上正義引くところに拠るものと見做されるが、字句に些少の違いがある。

叙上の撰述体例を以って、撰者の意が王肅の家語偽撰或は増加説の立証にあるとする見解、例ば「章ごとに広く引用原本と思われる各書の関係部分を抽出列挙している。証譌（即ち范家

相撰家語証譌―筆者補記）のように説明や批判を全く加えていないのが譌作立証の効果を反って強からしめている」（明徳出版社刊中国古典新書『孔子家語』巻頭解説）との如き見解は当を失した誤認であろう。本書撰述当時、家語偽撰説は既に殆ど通説であったが、なお疑義も存したのであって、陳士珂は寧ろその疑意を存して闕疑の立場を持し、安易な考証論義の回避を企り学者の諦思を促したものと看るのが妥当であろう。陳詩序に見える次の詩と士珂との問答が参考になる。「因挙以問先生曰、『是書也、子朱子于四書章句集註、嘗屢引之。而顔監注漢書芸文志、則以為非今所有家語、或者以為王肅増加。近之宗漢学者、遂置不道、其果然乎。』先生曰『子之意殆与予同。夫事必両証而後是非明。小顔既未見安国旧本、即安知今本之非是乎。且子観周末漢初諸子、其称述孔子之言、類多彼此互見、損益成文、甚至有問答之詞、主名各別、如南華重言之比、而溢美溢悪、時時有之。然其書並行、至于今不廃。何独于是編而疑之也。予嘗据本書為綱、而互見于他書者、仍用大字書之、以附其後。与所輯韓詩外伝、体例相同、名之曰疏証。将使学者参考而諦観之。他日吾子覧焉、当有実獲我心之歎』」と。即ち顔師古は漢書芸文志著録の家語は当時伝存した家語とは異なる本であると云うが孔安国が編撰したとされる古本家語は唐代既に失伝して、双方を比較検証する手段はなかったはずで、師古は伝存今本の一方を非として貶けているわけではない、更に、漢代以前に成立した諸子の旧籍には処々孔門の言行が称述されて同類の文辞が彼此互見し、往々相互に異同詳略参差矛盾を露呈しながらなお且つ並び存して今に通行している、従って家語のみを疑い偽書として排斥するのは公正ではない、というのが士珂の論旨の大筋であろう。士珂はまた家語偽撰説を否定するものでもない。両証を旨とする撰者の考証家としての慎重なる見識が、他書互見の同類文の列挙という本書撰述の体式を生んだのであり、上述の如く、同人撰述の『韓詩外伝疏証』も全く同様の手法が生かされている。「韓詩外伝疏証序」（嘉慶二十有三年季夏月撫楚使者海豊張映漢撰）の末に「他日依此例尽取諸書、互為主客、於以化専己守残之陋、与入主出奴之私、不亦善乎」と結ぶ。専己守残の陋と入主出奴の私から逸れること、すなわち固陋な己の偏見に固執せず、狭量な学派の成見より超脱することは考証家学人の遵守すべき鉄則である。士珂が用いた撰述の体例は、かかる見識を具現したものとして評価すべきであろう。

我国に於ては服部宇之吉が「家語ノ古書ヲ割裂シテ織成サレ

タルヲ疏証シタルモノハ、孫志祖ノ孔子家語疏証及ビ陳士珂ノ孔子家語疏証有リ、皆参考ニ資スベシ」（「孔子家語解題」、末に「大正三年十二月三十日」と記し自著あり、―『漢文大系』孔子家語巻首）と評して以来、武内義雄「読家語雑識」（全集第四巻儒教篇三）、林泰輔「孔子家語解題」（有朋堂文庫『漢文叢書』小学・孝経・孔子家語巻頭解題）、藤原正『孔子家語』（岩波文庫）緒言等、いずれも前轍を踏んで、本書を王肅偽作説を主張したものと解している。敢て其の旧謬を訂した所以である。

陳士珂、琢軒と号す。蘄水（湖北省黄州府）の宿儒という（張映漢「韓詩外伝疏証序」）。乾隆三七（一七七二）年の歳貢生、同四二（一七七七）年の挙人。子の光詔、孫の沆・澐或は族人の詩等に比し、彼の事績は詳らかでない。光詔・沆・澐の事績の若干については上述したとおりである。

家語疏証　六巻　清孫志祖撰　〔清嘉慶〕刊（〔仁和孫氏〕）

封面「家語疏証」と題す。首に海寧陳鱣及び銭唐梁玉繩の二序を冠す。本文巻頭「家語疏証巻之一／（低一三格）仁和孫志祖学／（低二格）相魯第一」と題し本文に入る。尾題は首題に同じ、但、巻二のみ書名巻数なく末行下方に「終」と刻さる。左右双辺（一八・四×一二・二糎）、有界十行行廿一字、案語疏証大字単行低一格、処々割注あり。版心白口単黒魚尾、「家語疏証　巻幾（丁付）」。最終尾題前四行低一二格に「男同元校録」と。

〈静嘉堂文庫蔵〉　二冊（1168）　陸心源十万巻楼旧蔵本

淡茶色表紙（二八・一×一七・九糎）、外題無し。「帰安陸／樹声蔵／書之記」（朱方）、「静嘉堂蔵書」（朱長方）の印記。第二冊は清孫同元撰『弟子職〔注〕』嘉慶六（一八〇一）年序刊本と合冊、尚此の両冊は、清孫志祖撰『読書脞録』七巻続編四巻清嘉慶四・七年刊本と一帙を成しており、その第四・五冊に配されている。

〈京都大学人文科学研究所蔵〉　二冊（子Ⅱ13）　呉翌鳳枚庵（清嘉慶二四〈一八一九〉年歿）旧蔵書

茶色表紙（二七・八×一七・三糎）、外題なし。「枚庵／流覧／所及」（朱方）、「平湖屈氏一巻／書塾所蔵」（朱長方）、「屈爕／之印」（白方）、「伯剛」（朱方）の印記あり。

〈大阪大学附属図書館蔵〉　二冊　3-02-01 孔子家語 KEGS 懐徳堂

茶色表紙（二七・二×一七・五糎）、外題なし。「碩園記念文庫」（朱長方）、「懐徳堂／図書記」（朱方）の印記あり。

『販書偶記』巻九子部儒家類議論経済之属に著録され「嘉慶間刊」と。『北京図書館古籍善本書目』著録の「清刻本」二本（一は李福蔵校）及び『北京大学図書館李氏書目』著録の「清嘉慶刻本」は同版であろう。また、『北京人文科学研究所蔵書簡目』に「乾隆間刊本　有清丁晏手跋並批」と著録される本も恐らくは同版本か。本版は伝本意外に稀なく、本書は次掲の式訓堂叢書本によって通行している。

本書首に冠せる陳・梁両序には撰序の年月を記さないが、陳序は「家語疏証叙」と題して『簡荘綴文』巻二及び『簡荘文鈔』巻二に収入され（本書首冠の文とは字句に異同あり）、末に「乾隆五十有八年冬十有一月書於杭州鼓楼彎之金声館」と記す。梁序は「跋孫侍御家語疏証」と題して『清白士集』巻二八蛻稾四に収められ（同じく、少しく文字に異同あり）、末に「癸丑（即ち乾隆五八年）七月識」とある。梁序に「今読孫頤谷侍御疏証六（清白士集作「四」字）巻、討本尋源、剗譌弁謬、発昔人未発之覆、凡向所搜出皆眉列無遺、亟毀前稿并慫慂付梓、以告世之読家語者」と、また陳序に「因校閲家語疏証、特（簡荘綴文・簡荘文鈔並作「遂」字）書此以諗広伯（即ち錢馥）且質諸侍御（即ち孫志祖）」と言うところから本書の成立は乾隆末同五八（一七九三）年を降らない。開雕刊行の時期に就いては、てそれを示す刊記刊語序跋の類が無く確定出来ない。只、静嘉堂文庫蔵の本書と共に一帙を成す『読書脞録』『同続編』『弟子職〔注〕』は版式をほぼ同じくし、それぞれ相前後して刊行されたものと認められる。此の三書の刊年は刊記序跋に従えば、嘉慶四（一七九九）年、同七年、同六年序刊であり、本書もまたその頃、嘉慶四年の前後両三年の間の刊成に繋るものと推定されよう。尚、『読書脞録』及び本書末尾に「男同元校録」とあり、刊行の主体は孫氏と看做され、所謂自家板であろう。

尚、『北京図書館古籍善本書目』には清刻本二本に続けて、陳鱣校清抄本一本が著録されている。この著録の順序からみれば刊本の転写と考えられようが、本書に序を寄せた陳鱣の校本であれば、あるいは刊本以前の稿本かとの期待も生まれる。今後の調査を期したい。

同　〔清光緒〕刊（会稽章氏）　式訓堂叢書二集所収

扉、「家語疏証／六巻」（篆文）と題す。首の両序、前掲本に同じ。末に海甯錢馥の跋あり。本文巻頭「家語疏証巻之一」、次行低一三格「仁和孫志祖学」、第三行低二格「相魯第一」と題す。尾題は首題に同じ。四周単辺（一六・四×一一・五糎）、

有界、十一行行廿一字、考証按語大字単行低一格行廿字、処々割注あり。版心小黒口双黒魚尾、中縫に「家語疏証巻幾（丁付）」と題さる。

前掲本に拠れる翻刻で、末に銭馥の跋文を加増。

〈東京大学東洋文化研究所蔵〉　六冊（子家儒2）　徐則恂旧蔵

茶色表紙（二九・二×一七・一糎）、外題無し。「青山／徐則／恂蔵」（白方）、「投戈／講藝／息馬／論道」（白方）の印記。

〈筑波大学附属中央図書館蔵〉　四冊（ロ880 268）

淡茶色表紙（二二・八×一四・九糎）、外題無し。「東京教育／大学附属／図書館印」（朱方）の印記あり。

〈静嘉堂文庫蔵〉　二冊（4918）　竹添井々旧蔵本　式訓堂叢書全二〇冊の内第一四・一五冊

後補艶出香色表紙（二三・八×一四・八糎）、「式訓堂叢書二集二(三)」、右肩に「家語疏証」と墨書。「松方／文庫」（朱方）、「井井／居士／珍蔵」（朱方）、「竹添／光鴻」（白方）、「静嘉堂蔵書」（朱長方）の印記。

〈京都大学人文科学研究所蔵〉　一冊（叢I 5 23）　繆筌孫・陶湘遞蔵　式訓堂叢書全三〇冊の内第一〇冊

茶色表紙（二三・八×一五・一糎）、外題無し。「東方文化学院京都研究所」（朱長方）の印記。

〈東洋文庫蔵〉　二冊（V 5-B 112）　式訓堂叢書全三二冊の内第一八・一九冊

淡茶色表紙（二四・二×一五・一糎）、外題無し。「東洋文庫」（朱長方）の印記。

以下掲出の諸帙は、叢書首の扉等に「江左書林／督造書籍」なる朱長方双郭の印記がみられ、該書肆による後印本である。

〈慶応義塾図書館蔵〉　一冊（1005 343 18）　田中萃一郎遺書　式訓堂叢書全一八冊の内第一四冊

淡茶色表紙（二四・二×一五・一糎）、外題無し。

次の三帙を収める『式訓堂叢書』は、一集所収の『弟子職集解』を『槐廬叢書』初編所収後修改版本（式訓堂叢書原刻本の覆刻）の書版を流用した改修後印本とみとめられ、従って『槐廬叢書』刊行以後の後印と看做される。朱紀栄編『槐廬叢書』五編五十四種は、光緒一二（一八八六）―一五（一八八九）年の刊行、清荘述祖撰『弟子職集解』は光緒一三年序刊である。

〈斯道文庫蔵〉　一冊（ヤ25 2/1 24）　安井息軒旧蔵書　式訓堂叢書全二四冊の内第一四冊

淡茶色表紙（二四×一五・二糎）、「家語疏証」と墨書、息軒

自筆か。「財団法／人斯道／文庫印」（朱方）の印記。

〈東洋文庫蔵〉　二冊（V B 5-113）　藤田剣峰旧蔵書　式訓堂叢書全三二冊の第一八・一九冊

淡茶色表紙（二四・三×一五・六糎）、外題なし。「藤田剣峰／蔵書之記」（朱長方）、「東洋文庫」（朱長方）の印記。

〈国立国会図書館蔵〉　二冊（193 15）　式訓堂叢書 全三二冊（合一六冊）の内第一八・一九冊（九・一〇冊）　明治三〇年八月二三日購求

淡茶色表紙、第一冊は『春秋夏正』二巻と、第二冊は『鍾山札記』首三巻と合綴され、黄色覆表紙（二二三・七×一五・二糎）を添える。「帝国／図書／館蔵」（朱方）の印記あり。

同　民国五七（一九六八）刊（台北　芸文印書館）

百部叢書集成式訓堂叢書所収　影印清光緒会稽章氏刊式訓堂叢書二集所収本

『式訓堂叢書』は清章寿康の編刊にかかり、清光緒三（一八七七）年以後、同十年代初めにかけほぼ十年を費して漸次刊行された。首の光緒三年李慈銘撰「式訓堂叢書序」に「今同邑章君碩卿、嗜古敏学、幼棄科挙、殫力讐校、所蓄亡慮数十万巻、多精槧旧鈔。随其尊人宦蜀中、即以刻書為事。今年入都待観、無日不閲市。茲将為令楚中、先匄集近儒輯述凡有稗経史及目録之学者為式訓堂叢書、次第刻之」と。伝存本の多くは『古易音訓』二巻をはじめとする十四種を収める一集、『春秋夏正』二巻に始まり『家語疏証』六巻を含む十二種を収録する二集の両集から成る。ただ京都大学人文科学研究所所蔵、繆荃孫旧蔵の早印本にはさらに三集があり、『字林考逸』八巻以下十三種が収載されていて、これは『叢書綜録』に著録するところと同様である。『続修四庫全書提要』の記載に拠れば、「是書随刻随印、故各本子目間有不同、其書共刻三集、其書第二集流伝極罕、坊間即取第三集、作為第二集刊行」と記し、一集以下の子目が列挙されているが、上記『春秋夏正』以下の二集を第三集となし、「第二集欠」としてその子目は全く記さない。『提要』に流伝極めて罕れという第二集が、『叢書綜録』或は人文科学研究所蔵本の第三集に当るのかどうか、今確認することは出来ないが、『提要』に従うならば、本書『家語疏証』六巻は、「式訓堂叢書第三集所収本」ということになろう。しかしながら、三集として収録する伝本が未だ管見に入らない現在、坊間印行の通行本に従って、「第二集所収本」と記しておく。

編者章寿康は、原名は貞、字は碩卿、会稽の人。光緒の初め、

張之洞の幕客となり、光緒一一(一八八五)年嘉魚(湖北武昌府)知県に任じたが、民の困苦を余所目に日々専ら刻書に耽ったとして劾を被け職を解かれた。或は上官に忤い落職したものともいう。書籍金石の蒐蓄、書画の鑒別で知られ、繆荃孫、銭葆唐等と交游があり、同治光緒の間に盛名があったが、失職の後は困窮し、所蔵の金石碑刻書版は悉く売却し鬱鬱の中に卒したと。『中国蔵書家考略』、『中国人名大辞典補遺』に簡伝を載せる。『式訓堂叢書』一集二集(或は三集)の書版は孫谿の朱記栄に帰し、後に述べるが、同人編の『校経山房叢書』は其の書版を襲用し、改編重印したものにすぎない。

又　清光緒三〇(一九〇四)印(孫谿朱記栄)　校経山房叢書所収

前掲、式訓堂叢書所収本の版木を襲用。

〈国立国会図書館蔵〉　二冊　(082.1 Ko544 S)　校経山房叢書全三二冊の内第四・五冊

茶色表紙(二四・七×一五・四糎)、原題簽「校経山房叢書秀水沈宣」。「自苞斎蔵本」(白長方)、「国立国／会図書／館蔵書」(朱方)の印記あり。

〈筑波大学附属中央図書館蔵〉　二冊(350イ34)　校経山房叢書全三二冊の第五・六冊

淡茶色木肌紋表紙(二三・八×一五・一糎)、外題無し。「東京高等／師範学校／図書之印」(大小二種、並に朱方)の印記。

〈東洋文庫蔵〉　二冊(V B 5-137)　校経山房叢書全三二冊の第四・五冊

茶色表紙(二四・三×一五・三糎)、外題無し。「東洋文庫」(朱長方)の印記。

〈静嘉堂文庫蔵〉　二冊(6121)　校経山房叢書全三二冊の第四・五冊

淡茶色表紙(二四・二×一五糎)、外題無し。「静嘉堂蔵書」(朱長方)の印記あり。

〈京都大学人文科学研究所蔵〉　二冊(叢I 5 57)　校経山房叢書全三二冊の内第四・五冊

紺色表紙(二九・五×一七・三糎)、外題無し。「東方文化学院京都研究所」(朱長方)の印記あり。

『校経山房叢書』は清朱記栄編。首の扉裏に「光緒三十(一九〇四)年春王月／孫谿槐廬家塾蔵板」の双行木記があり、同年の印刷頒行と見做される。「校経山房叢書総序」(「光緒癸卯〈二九年〉孟夏月呉県朱記栄」)に「僕昔日匡居竊嘗慕此、已

効綿薄、蒐集梓印孫谿槐廬叢書五集、風行海宇、見許芸林。邇年僑寓雲間、卜築槐廬、秦漢図書、色香俱古、汲古伝是、差足頡頏。暇輒黙坐期踵前修、仮手陳編、規随勘訂。凡経史地輿目録金石旁渉襍志、彙為校経山房全集、以続五編、摭拾旧蔵、蔚成巨麗」とあるが、『続修四庫全書提要』等が指摘する如く、『式訓堂叢書』一集二集（或は三集）両集の旧版を買収し、大半はそれを襲用重印した改編改題本。『提要』は「有攘善掠美之嫌、此非通人所宜為也」と厳しい裁断を下している。同人編刊の『槐廬叢書』五編を継ぐと言うが、実は『古易音訓』二巻、『弟子職集解』、『呂子校補』二巻、『誌銘広例』二巻、『金石例補』二巻等は両叢書にあって重複しており、『弟子職集解』に就いてみれば、槐廬叢書本（式訓堂叢書原刻本の覆刻、同叢書後印本は此の覆刻本を収める、上記参照）の板木を用い、首題下の「槐廬叢書」の四字を削去、本文末の刊記を刪除する等旧版重印の痕跡を湮滅する為の姑息な改修を加えてある。

本書は、家語正文は全載せず、各篇頭に篇名を二格を低して題記し、次に、篇内を章節に句切り、その頭の数句を例えば「孔子初任為中都宰節」の如く掲出、或は章節内の疑義を存する字句のみを掲出し、行を改め低一格に考証案語を挙述して、四十四篇及び後序を六巻に分つ。巻立篇次の次第は次の如し。

巻之一　相魯第一　始誅第二　王言解第三
　　大婚解第四　儒行解第五　問礼第六
　　五儀解第七　致思第八　三恕第九
　　好生第十

巻之二　観周第十一　弟子行第十二　賢君第十三
　　弁政第十四　六本第十五　弁物第十六
　　哀公問政第十七

巻之三　顔回第十八　子路初見第十九　在厄第二十
　　入官第二十一　困誓第二十二　五帝徳第二十三
　　五帝第二十四　執轡第二十五　本命解第二十六
　　論礼第二十七

巻之五　観郷射第二十八　郊問第二十九　五刑解第三十
　　刑政第三十一　礼運第三十二　冠頌第三十三
　　廟制第三十四　弁楽解第三十五　問玉第三十六
　　屈節解第三十七

巻之五　七十二弟子解第三十八　本姓解第三十九
　　終記解第四十　正論解第四十一

巻之六　曲礼子貢問第四十二　曲礼子夏問第四十三

以上、巻立は通行の家語諸本と相違するが、篇次は汲古閣刊本、翻南宋刊本、日本の古活字〔元和〕刊本等と、篇名は翻南宋刊本及び〔元和〕刊本等と一致する。第四十三・四十四の篇題の「曲礼」二字下に「毛本／脱」と、第四十三篇題「夏」字下に「毛本／譌貢」と夾注がある如く、汲古閣刊本の譌脱を訂して別本に従っており、主として依用されたテキストは汲古閣刊本で、その譌脱の個処を別本を参校して改正したものと推定される。次に、本書に掲出された家語正文及び孫氏考証案語中に引かれた王肅注文とに即き、家語王肅注諸本との異同を表示してみる。著者撰述当時参看可能であったと思われる汲古閣刊本（毛本）、翻南宋刊本（黄本、四部叢刊本に拠る）、永懐堂刊本（永本）、呉嘉謨集校本（呉本）の四本と比較する。四本との異同総数は二六七件、このうち、黄本には曲礼公西赤問第四十四に脱簡がある為四件が対校不能、呉本は、王肅注を省脱或は改変するところがあって八件が対校件数から除かれる。

孫氏家語疏証	**毛本**（汲古閣刊本）	**黄本**（翻南宋刊本）	**永本**（永懐堂刊本）	**呉本**（呉嘉謨集校本）
（相魯第一）				
1故西方諸侯皆**法則**（注）	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○○	○○○○○○○則之
2定公与斉侯会**于**夾谷	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○○○於○○
3**於**是乃帰所侵魯之四邑	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	于○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○
（始誅第二）				
4其談説足以**飭褒**衆	○○○○○○○○褒○○	○○○○○○飾○○○	○○○○○○飾○○○	○○○○○○○○○○
（王言解第三）				
5孔子**閒**居	○○閑○	○○○○	○○○○	○○○○
6布諸天下四方而不**怨**	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○○○○寃

（大婚解第四）

7 **傷其親**是傷本也　×××○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

（儒行解第五）

8 其過失可微**辯**　○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○辨

9 雖危**猶**起居×竟**身**其志　○○○○○○×○○○○　○○×○○猶○信○○　○○×○○猶○信○○　○○×○○猶○信○○

10 **而**上**下**不知也　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　×○×○○○

11 因事而**止之**則君不知（注）　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○正×○○○○

（問礼第六）

12 **以**忤其衆　○○○○　×○○○　×○○○　○○○○

13 乾天坤地（注）　○○○○　○○○○　○○○○　×××○

14 夏則居**橧**巢　○○○○○　○○○橧○　○○○橧○　○○○○○

（五儀解第七）

15 哀公問於孔子**曰**請問　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○×○○

16 大則**無**政　○○○○　○○×○　○○×○　○○×○

（致思第八）

17 孔子北遊於×農山　○○○○○○于○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○

18 季羔為衛×士師　○○○○○之○○　○○○○之○○　○○○○之○○　○○○○之○○

19 季孫之賜我粟千鍾**也**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○×

20 王者有似**于**春秋　○○○○○○○　○○○○乎○○　○○○○乎○○　○○○○乎○○

21曾子曰入**是**国也　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○其○○

22管仲之為人**如何**　○○○○○○○　○○○○○○○何如　○○○○○○○　○○○○○○○

23未成君×管仲未成臣　○○○×○○○○○　○○○×○○○○○　○○○×○○○○○　○○○而○○○○○

（三恕第九）

24孔子曰吾有所**恥**　○○○○○○○　○○○○○○○歯　○○○○○○○　○○○○○○○耻

25子貢**問於孔子**曰　○○○○○○○　○○○○○○○　○○×××××○　○○×××××○

26子従父命孝×　○○○○○○×　○○○○○○×　○○○○○○×　○○○○○○矣

（好生第十）

27孔子**嘗**自筮其卦　○○○○○○○　○○常○○○○　○○常○○○○　○○○○○○○

28以其**离**耶　○○○○　○○離○　○○離○　○○離○

29楚**恭**王出遊　○○○○○　○×○○○　○×○○○　○○○○○

30魯公索氏将祭而**忘**其性　○○○○○○○亡○○　○○○○○○○亡○○　○○○○○○○亡○○　○○○○○○○亡○○

31竊夫**其**有益与無益　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○×○○○○○

32嫗不**逮**門之女　○○○○○○　○○建○○○　○○建○○○　○○建○○○

33孔子曰小**辯**害義　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○辨○○

34豳詩曰**迨**天之未陰雨　○○○殆○○○○○　○○○殆○○○○○　○○○殆○○○○○　○○○殆○○○○○

35**鄙**詩曰執轡如組　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　邪○○○○○○

（観周第十一）

36馬二**匹堅子**侍御　○○○○○○○　○○疋堅其○○　○○疋竪○○○　○○疋○○○○

（弟子行第十二）

37 **匹**夫不怒　○○○○　疋○○○　○○○○　○○○○

38 而為下国駿**彪**　○○○○○○　○○○○○○龐　○○○○○○龐

39 是×宮縮之行也　○×○○○○○　○×○○○○○　○南○○○○○　○南○○○○○

40 問**於**二三子之**行**於賜　○×○○○○×○○　○×○○○○○×○○　○×○○○○○×○○　○×○○○○○○○

（賢君第十三）

41 又有士**曰**林国者　○○○○○○○　○○○×○○○　○○○×○○○　○○○×○○○

42 **故**夫不比於数而　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　×○○○○○○○

43 孔子読詩于正月六章　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　（以下正文一一字欠）

44 孔子閒処喟然**而嘆**　○○○○○○○○○**歎**　○○○○○○○○○**歎**　○○○○○○○○○×**歎**　○○○○○○○○○×○

45 首抜五**殺**　○○○○　○○○叛　○○○叛　○○○叛

46（**辯**政第十四）　○○○○○　○○○○○　辨○○○○　辨○○○○

47 昔者斉君問政**於夫子**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○×××　○○○○○○○○○×××

48 皆以兄事之而加愛敬×　○○○○○○○○○

53 大雀従黄口亦**不**得　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○可○　○○○○○○○可○

54 荆公子**行年**十五　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○×○○○○　○○○×季○○

55 而**摂荊**相事　○○○○○　○○○○○　○○×○○　○○×○○

56 其**廊**下有二十壯士　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○堂○○○○○○　○堂○○○○○○

57 或曰栄益**期**也（注）　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○啓○

58 **是**以自知終不及二子　×○○○○○○○○　×○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

59 君子必慎其所**與**処者焉　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○×○○○　○○○○○○○○○○

60 曾子従孔子**於**斉　○○○○○○○○　○○○○○○之○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

61 択方所以**脩**道　○○○○○○○　○○○○修○　○○○○○○○　○○○○○○○

62 孔子曰**以**富貴而下人　○○○○○○○○○○　○○○與○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○

（弁物第十六）

63 陳恵公賓之**於**上館　○○○○○○○○　○○○○○于○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○

64 通道**於**九夷百蛮　○○○○○○○○　○○于○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

65 郯隱公朝**于**魯　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○於○　○○○○○於○

66 陳侯就之燕×焉　○○○○○×○　○○○○○遊○　○○○○○遊○　○○○○○遊○

67 **子遊**行路之人云　○○○○○○○○　××○○○○○　××○○○○○　××○○○○○

68 事**于**上帝先王　○○○○○○○　○○○○○○○　○於○○○○○　○於○○○○○

69 **採**薪於大野　○○○○○○　○○○○○○　采○○○○○　采○○○○○

70 棄之**於**郭外　○○○○○○○　○○○○○○○　○○×○○○　○○×○○○

（哀公問政第十七）

71 **餼廩**称事　○○○○　既廩○○　既稟○○　既稟○○

72 祭欲見親**之**顔色者　○○○○○○○○○　○○○○×○○○　○○○○○○○○○　○○○○×○○○

（顔回第十八）

73 魯定公問**於**顔回曰　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○×○○○

74 馬**當**為車（注）　○非○○　○非○○　○非○○　（此注文無）

75 公**説**遂以告孔子　○悦○○○○○　○悦○○○○○　○悦○○○○○　○○○○○○○

76 若乃窮神知**禮**　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○化

77 好言兵**討**而挫鋭於邾　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○計○○○○○

78 顔回問×君子　○○○×○○　○○○於○○　○○○×○○　○○○×○○

79 恥××学而羞××不能　○××○○○××○○　○××○○○××○○　○××○○○××○○　○人之○○○人之○○

80 顔回**謂**子路曰　○○問○○○　○○問○○○　○○問○○○　○○○○○○○

81 為聞者蓋**曰**思也夫　○○○○○○○○○　○○○○日○○○　○○○○日○○○　○○○○日○○○

82 故君子**於**為義之上　○○○○○○○○○　○○○×○○○○　○○○×○○○○　○○○○○○○○○

83 攻其悪無攻人**之**悪　○○○○○○○○○　○○○○○○○×○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

（子路初見第十九）

84 子路**初**見孔子　○○×○○○　○○×○○○　○○×○○○　○○○○○○○

85 木受縄則**正**　○○○○直　○○○○直　○○○○直　○○○○○直

86 竜宜為襲（注）　○○○聾　○○○聾　○○○聾　○○○聾

87陳霊公**君臣**宣**淫**於朝　○○○××○婬○○　○○○××○婬○○　○○○××○婬○○　○○○××○嬌○○
88彼婦人之**請**　○○○○○　○○○○○　○○○○○謁　○○○○○謁
89優**哉游**哉聊以卒歳　○○遊○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○優○○○○○
90以**辭**取人則失之宰予　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○言○○○○○○○
91終日言無遺己×憂　○○○○○○○×○　○○○○○○○之○　○○○○○○○之○　○○○○○○○之○
92終日行不遺己×患　○○○○○○○○×○　○○○○○○○○×○　○○○○○○○○×○　○○○○○○○○之○
（在厄第二十）
93××使爾多財　吾亦○○○○　吾亦○○○○　吾亦○○○○　××○○○○
94曾子**弊**衣而耕於魯　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○敝○○○○○
（入官第二十一）
95夫臨之無抗民之**悪**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○忠　○○○○○○○○志
（困誓第二十二）
96作槃**操**以哀之　○○琴○○○　○○琴○○○　○○○○○○○　○○○○○○○○
97子路問**於**孔子曰有人　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○×○○○○○
98**汨**之×深則出泉汨渥　汨○×○○○○○汨○　○○之○○○○○○　汨○×○○○○○汨渥　汨○×○○○○○汨渥
99**纍**然如喪家之狗　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○
100主人**哀**荒不見**飲**食（注）　○○○○○○○○○　○○○○○○○飯○　○○○○○○○飯○　○○衰○○○飯○
101形状**未**也　○○○○　○○末○　○○末○　○○末○
102孔子適衛路出**于**蒲　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○於○

103	**又**伐樹於宋	○○○○○	○○○○○	○○○○○	○○○○○	×○○○○
104	見**蜚**鴈過而仰視之	○飛○○○○○○	○飛○○○○○○	○飛○○○○○○	○飛○○○○○○	○飛○○○○○○
	（五帝德第二十三）					
105	戰**于**阪泉之野	○○○○○○	○○○○○○	○於○○○○	○○○○○○	○○○○○○
106	喬極之子曰×辛	○○○○○○高○	○○○○○○高○	○○○○○○高○	○○○○○○高○	○○○○○○高○
107	瞽**瞍**之子×曰有虞**舜**	○○○○○也○○○○	○瞍○○也○○○○	○瞍○○也○○○○	○瞍○○×○○○×	○瞍○○×○○○×
	（五帝第二十四）					
108	天有五行**木**火金**水**土	○○○○○○○○○○	○○○○○水○○○木○	○○○○○水○○○木○	○○○○○水○○○木○	○○○○○水○○○木○
109	不**知**者以祭**社**為祭地（注）	○○○○○○礼○○○	○設○○○○○○○○	○識○○○○○○○○	○識○○○○○○○○	○識○○○○○○○○
110	**不亦**失之遠乎（注）	○○○○○○○	○○○○○○○	可謂○○○○○	××○○○○○	
111	以金德王**而**尚黑	○○○○○○○○○	○○○○○色○○	○○○○○色○○	○○○○○色○○	○○○○○色○○
	（執轡第二十五）					
112	以之義則国**義**	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○○乂	○○○○○○乂	○○○○○○乂
113	食穀者**智恵**而巧	○○○○○○○○○	○○○○○○○○○	○○○○○慧○○	○○○○○知慧○○	○○○○○知慧○○
	（本命解第二十六）					
114	**八**月×生歯然後能食	○○×○○○○○○○	○○×○○○○○○○	○○×○○○○○○○	○○×○○○○○○○	七○而○○○○○○○
115	××××××××	××××××××	××××××××	朞而生臏然後能行	朞而生臏然後能行	朞而生臏然後能行
116	八歳而齔××××	○○○○××××	○○○○××××	○○○○二八而化	○○○○二八而化	○○○○二八而化
117	**十有四**而化	○○○○○	○○○○○	二七×○○	二七×○○	二七×○○

118 男**子**窮天数**也**極也　○○○○○○○○

119 婚礼×**始**殺於此　○○而×○○○　○○而×○○○

120 喪父長子**者**　○○○○○　○○○○○

121 一也　二也　三也　○○　○○　○○　○○○○×　○○○○○○○○

133 **效**以降命　郊○○○　○○○○　○○○○

134 人所**則**非**則**人者也　○○○○○○○○　○○明○明○○○　○○明○明○○○

135 大夫死宗廟**謂**之変　○○○○○○○○　○○○○○○為○○　○○○○○○○○

136 茂而**不**間　○○○○　○○有○　○○有○　○○○○

137 冬合男女春**頒**爵位　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○頒○○

（冠頒第三十三）

138 成王年十**有**三而嗣立　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○

139 **辞**達而**弗多也**　×○○未幼×　×○○未幼×　○○○勿○○　○○○勿○○

140 其所以為賓主何**也**　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○如　○○○○○○○○○如

141 異朝服素韠　○○○○畢　○○○○畢　○○○○○○　○○○○韠

（廟制第三十四）

142 将立**先**×**君**之廟　○○○×○○○○　○○三×軍○○　○○三×軍○○　○○三将軍○○

143 至**於**周之所不変也　○于○○○○○○○　○于○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

（弁楽解第三十五）

144 子路鼓**瑟**　○○○琴　○○○琴　○○○琴　○○○琴

145 衆夾振**之**而四伐　○○○○○○○○　○○○焉○○○　○○○焉○○○　○○○焉○○○

146 庶民弛政×××× ×　○○○○×××× ×　○○○○庶士倍禄　○○○○庶士倍禄　○○○○庶士倍禄

147 命之×**建櫜**　○○×鞬櫜　○○曰鞬櫜　○○曰鞬櫜　○○曰鞬○

148 **建**以為諸侯（注）　鞬○○○○　使○○○○　使○○○○　○○○○

149 郊**配**后稷　○○○○　○祀○○　○祀○○　○祀○○

（問玉第三十六）

150 君子**貴玉**而**賤珉**　○○玉貴○珉賤　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

151 天有四時×　○○○○×　○○○○者　○○○○×　○○○○×

（屈節解第三十七）

152 屈節×求其**達**者也　○○×○○○○○　○○×○○○○○　○○以○○伸○○　○○以○○伸○○

153 越霸者賜之説×也　○○○○○○○×○　○○○○○○○之○　○○×○○○○×○　○○○○○○○×○

154 斉人攻魯道**由**単父　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

155 使巫馬期**往**観政焉　○○○○○○○○○　○○○○○遠○○○　○○○○遠○○○　○○○○遠○○○

156 鱐宜為鱷新序作鱏（注）　○○○○○○○○○　○○○鱣○○○○　○○○鱣○○○○　（此注文無）

157 由也昔者聞諸夫子×　○○○○○○○○○×　○○○○○○○○○曰　○○○○○○○○○曰　○○○○○○○○○曰

158 鯉首之**斑**然　○○○班○　○○○班○　○○○○○　○○○○○

159 夫子×屈節而極於此　○○×○○○○○○　○○×○○○○○○　○○之○○○○○○　○○之○○○○○○

160（七十二弟子解第**三十八**）　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○四○四　○○○○○○○○○四○四

161 或為誤（注）　○○○　×××　×××　○○○

162 自吾有回門人日益×　○○○○○○○○○×　○○○○○○○○○親　○○○○○○○○○親　○○○○○○○○○親

163 少孔子五十歳　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○　少孔子二十九歳

164 ×××××××　×××××××　×××××××　×××××××　少孔子二十九歳

165 与田常為乱夷其三族孔子**恥**之　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

○○○　×××　×××　○耻○　○耻○

166 常結駟連騎以造原憲　○○○○○○○○○　×××××××××　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

167 子貢好販与時転貨　○○○○○○○○○　×××××××××　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

168 自吾有由而悪言不入於耳　○○○○○○○○○○○　×××××××××××　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○

169 言偃魯人　○○○○　○○○○　○○呉○　○○呉○

170 能通其議子夏所叙詩義今之毛詩序是× ○○○○○○○○○○○

184 与孔璇年相比　○○○○○○　○○璇○○○　○○○○○○　○○○○○○

185 奚箴字子楷　○○○○○　○蔵○○偕　○蔵○○偕　○蔵○○偕

186 宰父黒字子索　○○○○○○　○○○○○黒　○○○○○黒　○○○○○黒

187 公西減字子尚　○○○○○○　○○減○○○　○○蔵○○○　○○蔵○○○

188 石処字子里　○○○○○○　○○○里之　○○○里之　○○○里之

189 狄黒字哲之　○○○○○　○○○○○　○○○哲○　○○○哲○

190 原抗字子藉　○○○○○　○桃○○○　○桃○○○　○桃○○○

191 公賓字子仲　○○○○○　○肩○○○　○肩○○○　○肩○○○

192 右作蜀　○○○　石子○　石子○　石子○

193 邦巽　○○　○選　○選　○選

194 申績字子周　○○○○○　○績○○○　○績○○○　○績○○○

195 孔忠字子蔑孔子兄之子　○○○○○○○○○××　○弗○○○○○○○弟×××　○弗○○○○○○○孟皮　○弗○○○○○○○孟皮

196 縣成字子横　縣○○○○　縣○○○○　縣○○○○　縣○○○○

197 右×夫子弟子七十二人×××　○×○○○○○○○○　○件○○×××○○○○　○件○○×××○○○○　○×○○×××○○五×

198 （本姓解第三十九）　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○四○二　○○○○四○二

199 微国名子爵　○○○○○　○○○○○　○○○○微国名子爵也　○○○○○微国名子爵

200 仲思名衍或名泄　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○或名泄　○○○○○○○

201 弗父何生送父周　○○○○○○○　○○○○宋○○　○○○○宋○○　○○○○宋○○

202 華氏之**禍**而奔魯　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

203 **伯**夏生叔梁紇　×○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○○○

204 雖有九女**是**無子　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

205 娶**於**宋之**亓**官氏　○○○○上○○　○于○○并○○　○○○○开○○

206 ×××生伯魚　×××○○○　一歳而○○○　一歳而○○○

207 天将欲×素王之乎　○○○與○○○○　○○○與○○○○　○○○與○○○○

208 （終記解第四十×）　○○○○○○○×　○○○○○○○×　○○○○○○○三

209 孔子**蚤**×作　○○○晨○　○○○晨○　○○×晨○

210 **則**吾将安杖　○○○○○　×○○○○　×○○○○

211 時**年**七十**二**矣　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○三○

212 門人**疑**所**以**服夫子者　○○○○○○○○○　○○×○○○○○○　○○○○×○○○○

213 公西**赤**掌殯葬焉　○○○○○○○○　○○×○○○○○　○○○○○○○○

214 （正論解第**四**十**一**）　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○三○八

215 招虞人以**弓**　○○○○○○　○○○○旌　○○○○旌

216 **旃**以招大夫　○○○○○○　旌○○○○　旌○○○○

217 斉国**書**伐魯　○○○○○○　○○師○○　○○○○○○

218 南**宮**説仲孫何忌既除喪　○容○○○○○○○○○　○容○○○○○○○○○　○容○○○○○○○○○

219 使子産献捷**于**晉　○○○○○○○○　○○○○○○○○　○○○○○○○○

220 **授**首**於**我　○○于○　校○○○　○○○○　○○于○

221 楚霊王**汰**侈　○○○○○　○○○○○　○○○忕○　○○○忕○

222 王是以獲没於文宮　○○○○○歿○○○　○○○○○歿○○○　○○○○○歿○○○

223 **長而字**（注）　○○○　○○○　言刑以　（此注文無）

224 **或**曰義　○○○　○○○　○○○　減○○

225 或左伝作**咸**也（注）　○○○○義○　○○○○○○○　○○○○○○○　（此注文無）

226 晉平公会諸侯**于**平丘　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○於○○　○○○○○○○於○○

227 鄭伯×南也　○○×○○　○○男○○　○○男○○　○○男○○

228 及其子**成**　○○○○　○○○○　○○○戍　○○○戍

229 賦晉国一**鼓鐘**　○○○○○○　○○○○○○○　○○○○○鐵　○○○○○鐵

230 今失**厥道**乱其紀綱　○○其行○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○

231 斉陳恒弑其**君**簡公　○○○○○○○○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○

232 出**稷**禾秉**芻**缶米××　○獲×○×○○芻藁　○獲○○×○○芻藁　○獲○○×○○××　○獲○○×○○×××

233 **定**公問於孔子曰　○○○○○○○○　哀○○○○○○○　哀○○○○○○○　哀○○○○○○○

234 哀公問×於孔子曰　○○○×○○○○○　○○○之○○○○○　○○○×○○○○○　○○○×○○○○○

235 寡人聞東益**宅**不祥　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○　○○○○○○×○○　○○○○○○○○○

236 君使**求**仮於**馬**　○○○○○田　○○○○○田　○○人○○○　○○人○○○

237 （曲礼子貢問第**四十二**）　○○○○○○○○○　○○○○○○○○○　○○○○○○○三○九　○○○○○○○三○九

238 君子**上**不僭**下下**不偪**上**　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○下○○上上○○下　○○下○○上上○○下

239 ×**臧**文仲知魯国之政　×○○○○○○○○　昔×○○○○○○○○　昔○○○○○○○○　昔○○○○○○○○

240 民**悦**其愛者弔可敵也
○○○

257 将以君之璵璠斂　○○○○○○○　○○○○○○○　○○○○璠璵○　○○○○璠璵○
258 琴張与宗魯友善　○○○○○×○×　○○○○○×○×　○○○○○○○×　○○○○○○○×
259 郕人子蒲卒　○○○○○　○○○革○　○○○○○　○○○○○
260 二三婦人之欲供先祀者　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○×
261 子羣問於孔子曰　○○○○○○○　○罕○○○○○　○罕○○○○○　○罕○○○○○
262（曲礼公西赤問第四十四）　××○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○　○○○○○○○○○○○一　○○○○○○○○○○○一
263 膝臏（注）　○鑌　○鑌　○蠙　（此注文無）
264 済済××者容也　○○漆漆○○○　（脱文）　○○××○○○　○○××○○○
265 漆漆者以自反也　○○○○○○○×　（同右）　○○○×○○×　○○○×○○×
266 衛荘公之反国×　○○○○○○×　（同右）　○○○○○○○也　○○○○○○○也
267 進俎而不受　○○○○○　（同右）　○○○○授　○○○○授

総異同件数二六七のうち、毛本との異同数は七一、黄本は一五二、永本は一八四、呉本は一九七件を数える。逆に各本につき異同のない件数を対校総数毛本・永本二六七、黄本二六二、呉本二五八で除すれば、毛本約七割三分、黄本四割四分、永本三割一分、呉本二割四分の割合となり、毛本が他の三本に比し圧倒的な近似率を示す。毛本の異同数七一のうち、例えば5の例のように「毛本譌閑」と、17に「毛本衍于字」と、50に「毛本有於字」との毛本衍脱譌誤訂正に就いての校語がある処が5 17 50 80 84 86 87 93 96 109 119 127 132 133 139 144 147 175 177 203 205 207 209 230 235 236 242 244 252 254 255 256 264の三三個所に亘る。残りの四〇件不足の異同は、説悦、遊游、于於、歎嘆等の通用字の相違によるもの、別本或は家語本文が襲用していると見做される別書所見の同類文の字句に従うもの、更に校記を附す可くして等閑に付された個処、また本書刊行に当っての校正上の誤りに依るもの等が考えられよう。

単純な数字の上での比較ではあるが、孫氏が主として依拠したテキストが汲古閣刊本であったことは顕らかであろう。

しかしながら、本書考証案語には此の毛本の訂譌以外にも、諸本との校合作業を経た校勘注記が多見する。その対校テキストは凡そ次の三類が考えられよう。一は、家語別本であり、一は諸旧籍に引用された家語正文及び王肅注文であり（これは通行版本以前の古態を存す）、一は諸古典籍に散見する、家語正文と類事内容の異文或は類文である。

まず家語別本に就いて検討しておきたい。孫氏は書中「宋本」「宋本家語」「一本」「一本家語」「別本」「今本」「今家語」「今本家語」等と標記して字句の異同を論じている。このうち「今本」「今家語」「今本家語」は、文選注等に引かれた家語刊本成立以前の旧本、或は「宋本」・「宋本家語」に対して所拠の底本並に、「一本」「別本」を含む通行諸本を対応させた標記であり、従って今此処での検討の対象からは除外出来る。

本書中の、「宋本」との校勘注記を全て抄出すれば、次の十八条が挙げられる。以下条挙するに当っては全て孫氏の記述に従い、ただ私に句点を付した。先ず校勘対象の正文の字句を掲し、次に孫氏案語を示す。正文字句下の（　）には該字句の所在する篇節を付記する。その下の数字は前掲対校表の項頭の通し番号に符合する。また孫氏案語の次へ下に、該宋本と日本の〔元和〕古活字版等を含めた諸本との同異関係を付述した。

1為聞者盍曰思也夫（顔回十八顔回謂子路曰節81）

此語不甚可解、「曰」宋本作「日」、注同。

〈宋本、黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

2彼婦人之請（子路初見十九孔子相魯節88）

盧〔文弨〕云、「請」当従史記作「謁」、方叶韻、宋本家語「謁」。

〈永本・呉本・古活字版と符合、太平御覧五七一引家語は「請」に作る。

3天有五行木火金水土（五帝二十四108）

宋本作「水火金木土」、是以相剋言。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合、御覧一七引家語「木金水火土」、同七六引「木金水火及土」に作る。

4一也二也三也（本命解第二十六孔子遂言曰女有五不取節121）

此六字宋本倶属注。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

5子路鼓瑟（弁楽解第三十五子路鼓瑟節144）

「鼓瑟」毛本作「鼓琴」誤、説苑作「瑟」、論語由之瑟集注引家語亦作「瑟」、御覧五百七十七同、可證宋本不誤。毛氏自謂得北宋板王肅注本、細校之非也。

〈黄本・永本・呉本並に「琴」に作り、古活字版両本、元泰定二年崇文書塾刊本ともに「琴」、「瑟」に作るのは何孟春本及び明末坊刻俗本の類である。尚太平御覧巻五七七は楽部琴の項であり当然琴に作る。孫氏の誤述である。

6 庶民弛政（同、周賓牟賈侍坐於孔子節146）

宋本此下有「庶士倍禄」句、与礼記合。

〈黄本・永本・呉本・古活字版並に此句有り。

7 自吾有回門人日益（七十二弟子解三十八顔回162）

宋本益下有「親」字、是。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

8 曾参字子輿（同、曾参）

宋本作「子輿」、白水蒼頡廟碑陰同。

〈毛本・黄本・永本・呉本・古活字版並に初学記巻一七引家語は「輿」、覆宋刊本・太平御覧巻四一二は「與」に作る。毛本・覆宋刊本の底本は同一宋刊本であるが、かかる異同が生じている。

9 原憲清浄守節（同、原憲173）

文選運命論・後漢書張霸子楷伝注引並作「清約」、是也。（略）礼記絜静精微作「静」字。宋本家語亦作「清浄」。

〈毛本・黄本と合う。永本・呉本・古活字版は「清静」に作る。

10 孔子始教於闕里（同、顔由177）

四書釈地又続云、向従王氏句解家語本孔子始教於闕里、証此書出於王肅、以其有闕里字面。及近読北宋板、是「閭」字非「闕」字、不覚自失。愚謂闕里以近観闕得名、猶闕党也。閭氏謂孔子時無闕里之名、本属臆説。乃因毛本家語「闕里」作「閭里」、遂信為北宋善本。不知史記索隠引家語是「闕里」、其述賛云「教興闕里道在陬郷」、正用其語。是毛本「閭里」譌、而句解本「闕里」不譌也。盧抱経先生所見宋本亦作「闕里」。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

11 顔幸字子柳（同、顔幸180）

宋本作「顔辛」、即顔柳也。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

12 陳亢字子元（同、陳亢183）

「子元」、宋本作「子亢」。

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

13石処字子里（同、石処188）

索隠「后処字里」、宋本「字里之」。

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

14右夫子弟子七十二人（同、197）

〔右字下割注〕宋本有「件」字。

〈黄本・永本・古活字版と符合、但し、三本とも以下「夫子七十二人弟子」に作る。

15則吾将安杖（終記解四十孔子蚤作節210）

〔則字下割注〕宋本無

〈黄本・永本・呉本・古活字版に符合。

16招虞人以弓　旃以招大夫（正論解四十一孔子在斉斉侯出田節215 216）

宋本作「招虞人以旌」「旌以招大夫」、〔盧文弨〕云弓旃二字、後人以左氏之文、易此文。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

17今失厥道乱其紀綱乃滅而亡（同、楚昭王有疾節230）

〔道字下割注〕毛本「其行」、此拠宋本。

〈黄本・永本・呉本・古活字版と符合。

18出穫禾秉芻缶米（同、季康子欲以一井田出法賦焉節232）

宋本与国語〔魯語〕同。今本家語作「穫秉缶米芻藁」譌。

〈此の宋本と一致するテキスト、未だ管見に入らず。呉本、「出穫禾秉缶米」に作り、最も近い。尚、毛本は「出獲秉缶米芻藁」、黄本・古活字版「出獲禾秉缶米芻藁」、永本「出獲禾秉缶米」に作り、孫氏言うところの今本家語とはいずれも異なる。

以上、わずか十八例の校合注記から、孫氏が言う「宋本家語」のテキスト上の特徴を云云するには危険を伴う。敢ていささか陳べることが出来るとすれば、一つには、十八例のうち1 3 4 6 7 10 11 12 13 15 16 17の十二例が、黄本・永本・呉本と一致し、2の一例が永本・呉本と一致している如く、黄本・永本・呉本と共通する点が多いこと、即ち、此の宋本が、黄本以下明版三本の性格を含み込んでいるということが指摘出来よう。これは、翻宋刊本である黄本はもとより、諸本が宋本に淵源するという伝本系統上の一般的な了解に立てば当然の帰結と言える。また一つには、全て所拠の底本即ち毛本との対校注記であり、孫氏は毛本を、宋本を直接継承するものとは看做していないという

点が注目されよう。このことは5の案語に「毛氏自謂得北宋板王肅注本、細校之非也」と汲古閣刊本末に附された毛晋識語に対する批判の言辞からも明らかである。さらに今一点は、58 18の如き、現今披見できる王肅注本のいずれとも合致しない例を考慮に入れれば、此の宋本に対応する更なる宋刊一本が存在したことを容認しなければならない点である。もし、そうであるとすれば、家語の伝本研究上、相応の意義を持つことになる。

しかしながら、聊か疑念が残る。乾隆嘉慶の当時、汲古閣旧蔵の宋刊本とは別に宋刊本が伝存していた事実を伝える資料は知られていない。また、10の案語末に「盧抱経先生所見宋本亦作闕里」とあり、少くとも此一条は、孫氏が親しく宋本と対して記した校語では無く、他の条も或は盧文弨の校記に従ったに過ぎないのではあるまいか。いずれも、孫氏の謂う宋本の存在を否定する要件となる訳ではないが、模糊然たる別一宋本の実体が更に曖昧となる憾を深める。盧文弨（清康熙五六〈一七一七〉年生、乾隆六〇〈一七九五〉年歿）は『群書捨補』の如き四部の諸書に亘っての校勘考証の著述を遺し『抱経堂叢書』に収められ流布しているが、未だ孔子家語考証の専著あって、その伝存するを聞かない。恐らく未定稿のまま刊行されるに至らなかったのであろう。盧氏に親かった孫氏はその未定写本を参照し得たのではなかろうか。ちなみに孫氏は『抱経堂文集』三四巻の校訂に預かり、また「与盧抱経書」（『申鄭軒遺文』巻一、未見、『清代文集篇目分類索引』に依る）が遺る。尚、既に本稿㈠何孟春注本の項に於て触れたことではあるが、盧文弨に「重刻何註孔子家語序」の一文がある。乾隆三一（一七六七）年の撰述に繋けられる此の序文には、未だ別一宋刊本に言及するところは無く、ただ「明末虞山毛氏汲古閣本、為猶見王肅之旧。考之唐人註書所引、合者為多。然譌舛亦復不少」と毛本の瑕瑜に就き一顧するに止る。

「一本」「別本」との校勘注記を上の「宋本」の例に倣って抄出すれば、次の十八条が挙げられる。

1（致思八楚昭王渡江節）

家語一本、此条入弁物篇。

〈一本、不明。尚、何孟春注本等弁政篇に入れる。

2世之博学者謂周公便履天子之位失之遠矣（観周十一孔子観乎明堂節王肅注）

〔博字下割注〕一作「傳」。

〈一本、不明、諸本「博」に作る。

3（弁政十四斉有一足之鳥節）

家語一本、此条亦入弁物篇。

〈一本、不明。何孟春注本は此条を同篇内末尾に置き、諸本の章次と異なる。

4陳侯就之燕焉子游行路之人云（弁物十六孔子在陳節66 67）

文選蘇子卿古詩及褚淵碑文注、並作「子游見行路之人」。

毛本脱一「見」字。別本改作「就之燕遊焉行路之人云」、益謬。

〈此の別本、黄本・永本・呉本と符合。

5（顔回十八仲孫何忌問於顔回曰節）

一本、此条在下顔回問朋友之際節後。如此則顔回問君子、而因及小人、以類相従。

〈此の一本、呉本と符合。

6（在厄二十孔子厄於陳蔡節）

一本、此節在子路問於孔子曰節之前。

〈呉本と符合。

7汨之深則出泉汨握（困誓二十二子貢問於孔子曰賜既為人下矣節98）

一本、以「汨握」二字為正文、非。汨、荀子作「扫」、注「扫掘」也。此注「握」字、亦当作「掘」。

〈一本、永本・呉本に符合、尚、此両本、「汨之」は「扫之」に作る。孫氏は荀子のみを引いて此の一本に言及しない。

8姦邪不勝曰不義不義則飭司寇（執轡二十五閔子騫為費宰節）

別本家語、作「不乂」、亦非。

〈此の別本不明。

9八歳而齔（本命解二十六魯哀公問於孔子曰節116）

一本、此下有「二八而化」四字。

〈永本・呉本と符合。

10十有四而化（同、同節117）

一本「十有四」作「二七」。

〈永本・呉本と符合。

11故聖人因時以合偶男子窮天数也極也（同、同節118）

〔数字下割注〕一本衍「之極」二字。

〈此一本、呉本と近い。呉本、「男女窮天数之極」に作る。

「男子」を「男女」と作るのは詩東門之楊正義引家語も同じ。

12（問玉三十六子張問聖人之所以教節）

此襲礼記仲尼燕居、亦応在前論礼篇「行之其在人也」下。

不知王肅何意、将礼記両篇之文、割裂如此。一本家語、於論礼篇全載仲尼燕居、於問玉篇全載孔子間居、所以補救其失、而前後倒置亦非王肅之旧。

〈此一本もまた呉本と符合、呉校は此一条を論礼篇末に置き、諸本論礼篇に収める「子夏侍坐於孔子曰敢問詩云」以下の一節を問玉篇末に配す。

13子貢好販与時転貨（七十二弟子解三十八端木賜167）

索隠引云「子貢好廃挙与時転化」（中略）今本多誤。一本「好廃著」、漢書貨殖伝作「発貯」、古廃発・著貯並通。

〈此一本、不明。

14伯夏生叔梁紇曰雖有九女是無子（本姓解三十九孔子之先宋之後也節204）

〔是字下割注〕一本「而」。

〈永本・呉本と符合。

15斉太史子與適魯（同、齊太史子與適魯節）

「子與」一作「子輿」。困学紀聞引作「子餘」。

〈一本不明。但、何孟春注本は「子輿」に作る。

16孔子蚤作（終記解四十孔子蚤作節209）

〔蚤字下割注〕毛本衍「晨」字、一本「晨作」、無「蚤」字。

〈永本・呉本に符号。

17定公問於孔子曰二三大夫皆勧寡人（正論解四十一定公問於孔子二三大夫皆勧寡人節233）

〔定公下割注〕一本「哀公」。

〈黄本・永本・呉本に符合。

18君子上不僭下下不偪上（曲礼子貢問四十二子貢問曰管仲失於奢節238）

一本作「下不僭上上偪下」。礼記「君子上不僭上下不偪下」。

〈一本、永本・呉本に符合。

以上の十八条のうち、4 5 6 7 9 10 11 12 14 16 17 18の十二条が呉本と合致して、この「一本」或は「別本」は呉嘉謨集校本と最も近縁な関係にあると考えて良かろう。「一本」或は「別本」が単数であるか、毛本以外の複数のテキストを含めて用いられた標記であるか詳らかになし難いが、後者であるとすれば、この「一本」の内に呉本が含まれると看做すのがまず妥当なところであろう。しかしながら、7の案語にみられる如く「汨之深則出泉」の汨を「拘」に作る永本・呉本に依らずして、「荀子作拘」と荀子堯問篇の同文との校語示すのみである。かかる事例は他にもあり、今、そのいくつかを挙げてみる。

六本第十五の「大雀従黄口亦不得」句下の案語に「不得、当従説苑作可得」との校勘記があるが、永本・呉本ともに「可得」に作ることに触れていない。（前掲対校表53参照）

顔回第十八の「好言兵討而挫鋭於邾是智不足名也」句下「御覧四百四十五討作計」とあり、呉本が「計」に作ることに言及しない。（77）

困誓第二十二の「形状未也」句下「未、史記作末」とのみあるが、黄本・永本・呉本並に「末」に作る。（101）

礼運第三十二「君者人所則非則人者也」句下、「礼記〔礼運篇〕両則字俱作明字云云」の校語があるが、黄本・永本・呉本並に両「則」字ともに「明」に作ることに触れない。（134）

同じく「茂而不間」句下「礼記〔礼運篇〕作茂而有間、此注言有理也。亦当是有字」との校語があるが、黄本・永本とも「茂而有間」であることに一言もない。（136）

七十二弟子解第三十八「公西減字子尚」句下「史記、公西蔵字子上、減乃蔵之譌、上尚通」と注記があるが、永本・呉本ともに「蔵」に作ることには触れていない。（187）

同じく「申續字子周」句下には、「史記作申党（索隠本作堂）字周、即論語之申棖也。索隠引家語作繚。論語邢疏引作續。困学記聞又引作績。續績本通。今本作續者譌。」との考証があるが、黄本・永本・呉本並に「績」に作り、孫氏称する今本には此の三本は入っていない。（194）

本姓解第三十九「娶於宋之亓官氏」の句に就き「亓古其字。左桓六年伝正義引作幵官譌。幵音堅。毛本家語作上官、更譌。其実乃幷官也。銭氏大昕跋元至順二年加封孔子父母及夫人幷官氏詔云、攷韓勑礼器碑本作幷官、宋祥符追封及此詔亦皆作幷官。文字明白、可証家語伝写之誤。広韻引魯先賢伝孔子妻幷官氏。今本亦誤為亓。蓋流俗相伝失其本真。惟石刻出於千載以前者、信而有徴也。」との長文の考証があるが、黄本が「并」に作り、永本・呉本が「幵」に作ることには全く触れていない（205）。

かかる事例はまだまだ挙げられるが、叙上の挙例から、呉本はもとより、永本・黄本とも本書対校テキストの範囲には入っていないことは明らかである。王肅注家語の校勘注釈に当って、此の三本を対象から外すことは、校勘上の不備を露呈することになろう。この点に於て本書の限界と瑕瑾を認識しておかねばならない。とともに、孫氏依用の一本に就いて、別テキトを想定する必要がある。今、考えられる王肅注本としては、銭受益校〔明末〕刊本（本稿㈠241頁）及び、陸治校明隆慶刊本（本稿㈠

236頁）であるが、前者は呉本の翻版であり蓋然性は薄い。後者は、本邦には伝本は無いようで、現在のところ対査する機縁がない。或は両本に限らず、現今失伝せるか、未だ知られていない別のテキストの存在も考慮に入れておく必要があろう。疑を存して後考を俟たねばならない。

次に、経伝注疏類或は類書等に引載されている所謂旧本家語との校勘注記が要所に見られ、考証旁捜博覧の程が窺える。いうまでもないことではあるが、宋刊本出現以前の旧家語本文の一斑を窺うには、かかる旧籍に引かれた家語の辞句文章を細心かつ綿密に検証することが必須である。唐宋に遡り得る古抄本が発見されない限り、宋刊本すら現存しない今日、家語の原初形態に逼る最も有効な方法であろう。以下、ほぼ引載撰述された年代の古い順に書名等を列記し、本書に於ける該当個処を（　）内に付記して参考とする。書名等は著者孫氏の標記に準じ、簡省略記されているところは適宜〔　〕内に補記しておく。

〔史記孔子世家〕集解引王肅曰（困誓二二孔子適衛路出于蒲節）
水経注済水篇引家語（致思八子路為蒲宰節）
玉篇上引（困誓二二孔子適鄭節）
世説新語方正篇〔梁劉孝標〕注（困誓二二孔子之宋節）
同汰侈篇注（七十二弟子解三八顔回）
大戴礼〔記〕衛将軍文子篇周盧弁注云（弟子行一二）
周易同人正義引家語（好生一〇楚恭王出遊節）
書舜典正義引（五帝二四）
詩〔国風〕摽有梅及東門之楊（本命解二六魯哀公問於孔子曰節）
礼記檀弓正義引（本姓解三九）
〔春秋〕左桓六年伝正義引（本姓解三九）
同宣九年伝正義（子路初見一九子貢曰陳霊公君臣宣淫於朝節）
同襄二十三年伝正義引家語（好生一〇孔子問漆雕憑節）
同昭七年伝正義引（本姓解三九）
同昭二十六年伝正義引（入官二一）
〔春秋〕公羊〔哀十二年伝〕疏引（正論解四一季康子欲以一井田出法賦焉節）
史記〔孔子世家〕索隠曰（弁物第一六季桓子穿井節）
同引（困誓二二孔子之宋節）
同引（同、孔子適鄭節）
同引（同、孔子適衛路出于蒲節）
同〔仲尼弟子列伝〕索隠引（七十二弟子解三八顔回）

後漢書郅惲伝注（七十二弟子解三八曾参）
同張霸子楷伝注引（同、原憲）
荀子宥坐篇〔楊倞〕注引家語（三恕九子貢観於魯廟之北堂節）
同法行篇注引家語（賢君一三顔淵将西遊於宋節）
文選呉都賦〔李善〕注（困誓二二孔子適衛路出于蒲節）
同上林賦注引家語（弟子行一二）
同寡婦賦注引（困誓二二孔子適鄭節）
同文賦注引（正論解四一公父文伯之母節）
同廬陵王墓下詩注引（執轡二五閔子騫為費宰節）
同荅盧諶詩注引（入官二一）
同蘇子卿古詩注（弁物一六孔子在陳節）
同〔楽府〕陸士衡予章行注（顔回一八孔子在衛節）
同沈休文冬節後詩注（儒行解五）
同七発注引家語（六本一五孔子曰無体之礼節）
同王元長曲水詩序注（致思八魯国之法節）
同運命論注引（七十二弟子解三八原憲）（正論解四一斉国書伐魯節）
同広絶交論注引（弟子行一二）
同演連珠注引（弁政一四子路治蒲三年節）
同褚淵碑文注（弁物一六孔子在陳節）
同弔魏武帝文注（曲礼子夏問第四三子貢問居父母之喪節）
説文繫伝邑部鄂字引家語（賢君一三子路問於孔子曰賢君治国節）
同〔人部儽字〕引（困誓二二孔子適鄭節）
爾雅釈魚鯛小魚〔邢昺〕疏引（屈節解三七三年孔子使巫馬期往観政焉節）
論語〔公冶長〕邢〔昺〕疏引（七十二弟子解三八申續）
同疏引（好生一〇孔子問漆雕馮節）
同由之瑟集注引家語（弁楽解三五子路鼓瑟節）
〔欧陽士秀〕孔子世家補引家語（困誓二二孔子適衛路出于蒲節）
〔王応麟〕困学紀聞引（本姓解三九斉太史子與適魯節）
陸佃鶡冠子環流篇注引（好生一〇鄙詩曰執轡如組節）
太平御覧巻一七引（五帝二四）
同三六本書「三十二」に誤る引（執轡二五子夏問於孔子曰節）
同七六引（五帝二四）
同一八一（在厄二〇孔子厄於陳蔡節）
同一八三一八二に誤る（好生一〇孔子謂子路曰見長者而不尽其辞節）

同二六六（致思八子路治蒲節）
同三〇八引（正論解四一斉国書伐魯節）
同三四二（好生一〇子路戎服見於孔子節）
同三九〇引（致思八孔子北遊於農山節）
同四四五（顔回一八顔回問於孔子曰臧文仲武仲孰賢節）
同四六三引（致思八孔子北遊於農山節）
同四九九引（弁政一四子貢為信陽宰節）
同五一三（屈節解三七孔子之旧曰原壌節）
同五四一引（本姓解三九）
同五七一引（子路初見一九孔子相魯節）
同五七七（弁楽解三五子路鼓瑟節）
同六〇七（子路初見一九子路初見孔子節）
同六四一（五刑解三〇冉有問於孔子曰先王制法節）
同七二八（好生一〇孔子嘗自筮其卦節）
元張存中四書通証引（弟子行一二）
文献通考六八引（郊問二九）

因に、宋欧陽士秀撰孔子世家補一二巻は四庫存目伝記類に著録されているが罕伝、今容易に睹るを得ない。

そのほか、校勘考証に当っては、唐余知古諸宮旧事、宋盧陵劉美中〔才邵〕、王応鱗詩攷、欧陽士秀孔子世家補、清余姚盧氏文弨校、銭氏大昕考異、海寧陳氏鱣等の校記注説が引証され、また、日本の山井鼎七経攷文の「家語亦作櫓巣、句解本音魯」なる一条が引載されていること（問礼第六言偃問曰節）には注目してよかろう。

以上の校合注記は、本文校定を企図して考証された注釈ではなく、家語の本文の記述内容或は措辞上の矛盾を解析する過程での派生的成果であって、本考証の目指すところは別にある。従って先に触れた校勘学上の不備は諒としなければならない。

孫氏考証の主眼とするところは、王肅家語偽撰の事実を暴露することにあった。後年、自ら「予嘗悪王肅之作偽、著家語疏証六巻」（『読書脞録』巻四家語攷）と述べていることからも、この孫氏の企図は明らかであろう。孫氏は家語各篇を小節に分け、その小節毎に王肅が依用勦襲する旧籍の書名篇名を明示し、立異加増、妄改牽合、敷演縁飾に依る造文改変の手法を克明に指摘する。これを范家相の『証偽』に比すればより峻厳且つ精緻である。次に、その要を摘録して本書の大旨を示しておきたい。先ず、著者掲するところの各節頭の数句を挙げ、次行一字を低して王肅が襲用したとする旧典の書名篇名を示す。次に二

字を低して、王肅偽撰に就き孫氏論ずる所の要を録す。節頭句下の（　）内は篇次数並に、篇内小節の順序数、句点並に〔　〕内の辞句は適宜私に付加したものである。

相魯第一

孔子初仕為中都宰節（一1）

凡〔王〕肅所云、皆敷衍無実拠。

定公以為司空節（一2）

此亦鑿空臆説。（略）肅意不過欲孔子所歴之職、皆有事蹟。如後世人譔年譜所為、而又別無証拠。摭拾空談殊可不必。

定公与斉侯会于夾谷節（一3）

左氏穀梁定十年伝・史記〔孔子〕世家

孔子言於定公曰家不蔵甲節（一4）

初魯之販羊有沈猶氏者節（一5）

呂氏春秋楽成篇・荀子儒効篇・新序雑事第一篇及第五篇・淮南泰族訓

始誅第二

孔子為魯司寇摂行相事節（二1）

孔子為魯大司寇有父子訟者節（二2）

荀子宥坐篇・説苑政理篇・韓詩外伝三

王言解第三

孔子間居至篇末（三1）

大戴礼主言篇

大婚解第四

孔子侍坐於哀公至篇末（四1）

礼記哀公問篇・大戴礼哀公問於孔子篇

篇首尚有哀公問於孔子曰大礼何如一段。王肅割入後問礼篇、以一篇之辞、分作両篇。家語多此類。

儒行解第五

孔子在衛至篇末（五1）

礼記儒行篇

篇首孔子在衛一段、則王肅以史記孔子世家敷演、又参用礼記檀弓、申之以冉有語也。

問礼第六

哀公問於孔子曰節（六1）

礼記哀公問篇・大戴礼哀公問於孔子篇

案此当入前大婚解。王肅移置於此非也。

言偃問曰節（六2）

〔礼記〕礼運篇

此下乃礼運篇之文。王肅又移置於此、合為問礼篇、其実各還其旧可也。紊乱篇第、而上下文義俱不聯貫。

五儀解第七

哀公問於孔子曰寡人欲論魯国之士節（七1）

大戴〔礼〕哀公問五義篇・荀子哀公篇・韓詩外伝一・同四・新序雑事第四篇

哀公問於孔子曰請問取人之法節（七2）

荀子哀公篇・説苑尊賢篇・韓詩外伝四

哀公問於孔子曰寡人欲吾国節（七3）

説苑指武篇

哀公問於孔子曰吾聞君子不博節（七4）

説苑君道篇

哀公問於孔子曰夫国家之存亡禍福節（七5）

説苑敬慎篇

説苑敬慎篇非対哀公語。王肅仮為問答、而類入於此。

哀公問於孔子曰智者寿乎節（七6）

説苑雑言篇・韓詩外伝一・文子符言篇

致思第八

孔子北遊於農山節（八1）

説苑指武篇・韓詩外伝七・同九

魯有倹嗇者節（八2）

説苑反質篇

孔子之楚節（八3）

説苑貴徳篇

季羔為衛士師節（八4）

説苑至公篇・韓非子外儲説左下

孔子曰季孫之賜我粟千鍾也節（八5）

説苑雑言篇

孔子曰王者有似于春秋節（八6）

説苑君道篇

曾子曰入是国也節（八7）

説苑談叢篇

子路為蒲宰節（八8）

説苑臣術篇・韓非子外儲説右上

子路問於孔子曰管仲之為人如何節（八9）

説苑善説篇

孔子適斉節（八10）

説苑敬慎篇・韓詩外伝九
孔子謂伯魚曰節（八11）
説苑建本篇
説苑建本篇分両段。（略）此合為一、参取尚書大伝・大戴礼勧学篇・韓詩外伝六。
子路見於孔子曰節（八12）
説苑建本篇・韓詩外伝一
孔子曰由他事親三語、則王肅所増。
孔子之郯節（八13）
説苑尊賢篇・韓詩外伝二
孔子自衛反魯節（八14）
説苑雑言篇・列子説符篇
列子説呂梁事有二、一見黄帝篇、与荘子達生篇同。一見説符篇、与説苑雑言篇・家語同。大旨亦無甚懸殊也。
孔子将行節（八15）
説苑雑言篇
楚昭王渡江節（八16）
説苑弁物篇
子貢問於孔子曰死者有知乎節（八17）
説苑弁物篇
子貢問治民於孔子節（八18）
説苑政理篇
魯国之法節（八19）
呂氏春秋〔先識覧〕察微篇・説苑政理篇・淮南子道応訓
子路治蒲節（八20）
史記仲尼弟子列伝・説苑政理篇

三恕第九

孔子曰君子有三恕節（九1）
荀子法行篇
孔子曰君子有三思節（九2）
荀子法行篇
伯常騫問於孔子曰節（九3）
晏子春秋問下篇作柏常騫。伯与柏通。是問晏子、非孔子也。
孔子観於魯桓公之廟節（九4）
荀子宥坐篇・淮南子道応訓、説苑敬慎篇・韓詩外伝三作周廟
孔子観於東流之水節（九5）
大戴礼観学篇・荀子宥坐篇・説苑雑言篇
子貢観於魯廟之北堂節（九6）

荀子宥坐篇

孔子曰吾有所恥節（九7）

荀子宥坐篇

子路見於孔子節（九8）

荀子子道篇

子貢問於孔子曰子従父命孝節（九9）

荀子子道篇

荀子子道篇魯哀公問於孔子曰子従父命孝乎。（略）今家語刪去前一段、直従子貢問起、改奚対為奚疑、語便無根。

子路盛服見於孔子節（九10）

荀子子道篇・説苑雑言篇・韓詩外伝三

子路問於孔子曰節（九11）

老子下篇有知我者希、則我者貴、是以聖人被褐懐玉語、疑因此影撰。

好生第十

魯哀公問於孔子曰昔者舜冠何冠乎節（一〇1）

荀子哀公篇

孔子読史至楚復陳節（一〇2）

孔子嘗自筮其卦節（一〇3）

呂氏春秋〔慎行論〕壱行篇・説苑反質篇

孔子曰吾於甘棠節（一〇4）

説苑貴徳篇

子路戎服見於孔子節（一〇5）

説苑貴徳篇

楚恭王出遊節（一〇6）

説苑至公篇

孔子為魯司寇節（一〇7）

説苑至公篇

孔子問漆雕憑節（一〇8）

説苑権謀篇

魯公索氏将祭而忘其牲節（一〇9）

説苑権謀篇

虞芮争田而訟節（一〇10）

詩〔大雅緜〕虞芮質厥成毛伝

虞芮争田事尚書大伝・史記周本紀・説苑君道篇・詩虞芮質厥成毛伝並載之、而毛伝尤詳。王肅注詩、多従毛伝、而違鄭箋。故其撰家語亦往往竊取之如此。及後魯人学柳下恵事、並襲毛伝成文。

曾子曰狎甚則相簡節（一〇11）

説苑談叢篇

「孔子聞斯言也」以下、則王肅所増。

哀公問曰紳委章甫節（一〇12）

荀子哀公篇

孔子謂子路曰見長者而不尽其辞節（一〇13）

孔子謂子路曰君子以心導耳目節（一〇14）

「君子以心導耳目、小人以耳目導心」、子思子（見意林）及説苑談叢篇俱有此二語（説苑君子作聖人）。「其立義以為勇、不慈以為勇」則又参用論語也。

孔子曰君子有三患節（一〇15）

礼記雑記

魯人有独処室者節（一〇16）

詩〔小雅〕巷伯毛伝

「刪去顔叔子事、雑引不倫。吾不知肅意何属。

孔子曰小弁害義節（一〇17）

大戴礼小弁篇・淮南子泰族訓

孔子謂子路曰君子而強気節（一〇18）

此襲論語〔陽貨篇〕「君子有勇而無義則乱、小人有勇而無義則盗」語意。

翢詩曰迨天之未陰雨節（一〇19）

此襲孟子「周自后稷以下即能治其国家、孰敢侮予」二句、而敷衍之耳。

鄘詩曰執轡如組節（一〇20）

呂氏春秋〔季春紀〕先己篇・淮南子繆称訓・詩〔国風邶〕簡兮毛伝・同干旄毛伝

「竿旄之忠告至矣哉」、兼采左定九年伝「竿旄何以告之、取其忠也」語。

観周第十一

孔子謂南宮敬叔曰節（一一1）

「孔子聖人之後也云云」、襲〔春秋〕左昭七年伝。「車一乗馬二匹竪子侍御」、襲史記孔子世家。「吾乃今知周公之聖与周之所以王也」、襲〔春秋〕左昭二年伝韓宣子語。

及去周老子送之節（一一2）

史記〔孔子〕世家

孔子観乎朋堂節（一一3）

淮南主術訓云「文王周観得失遍覧是非、堯舜所以昌、桀紂所以亡者、皆著於明堂」、王肅遂影撰為孔子事。又周公負

成王図見漢書霍光伝、故并以為孔子適周而見之也。

「其明鏡所以察形云云」、襲大戴礼保傅篇・賈誼新書胎教篇・説苑尊賢篇・韓詩外伝五・同七

孔子観周節（一一4）

説苑敬慎篇

孔子見老聃而問焉節（一一5）

説苑反質篇

弟子行第十二

衛将軍文子問於子貢曰至篇末（一二1）

大戴礼衛将軍文子篇

賢君第十三

哀公問於孔子曰当今之君孰為最賢節（一三1）

説苑尊賢篇

子貢問於孔子曰今之人臣孰為賢節（一三2）

説苑臣術篇・韓詩外伝七

哀公問於孔子曰寡人聞忘之甚者節（一三3）

尸子君治・説苑敬慎篇

顔淵将西遊於宋節（一三4）

説苑敬慎篇

孔子読詩于正月六章節（一三5）

説苑敬慎篇

子路問於孔子曰賢君治国節（一三6）

説苑尊賢篇

孔子間処喟然而嘆節（一三7）

説苑尊賢篇

斉景公来適魯節（一三8）

史記孔子世家・説苑政理篇・同尊賢篇

哀公問政於孔子節（一三9）

説苑政理篇

衛霊公問於孔子節（一三10）

説苑政理篇

呂氏春秋〔季春紀〕先己篇作「魯哀公問」。

孔子見宋君節（一三11）

案説苑政理篇宋君作梁君。王肅以孔子時無梁君故改之也。

弁政第十四

子貢問於孔子曰昔者斉君問政於夫子節（一四1）

尚書大伝略説・史記孔子世家・韓非子難三・説苑政理篇

孔子曰忠臣之諫君節（一四2）

説苑正諫篇・白虎通諫諍篇

子曰夫道不可不貴也節（一四3）

案此撮合説苑権謀篇二事為一。

楚王将遊荆台節（一四4）

説苑正諫篇

〔子貢問於孔子曰夫子之於子産晏子可為至矣節〕（一四5）

斉有一足之鳥節（一四6）

説苑弁物篇

孔子謂宓子賤曰節（一四7）

説苑政理篇・韓詩外伝八・史記仲尼弟子列伝

子貢為信陽宰節（一四8）

説苑政理篇

子路治蒲三年節（一四9）

韓詩外伝六

六本第十五

孔子曰行己有六本焉節（一五1）

墨子脩身節・説苑建本篇

孔子曰良薬苦口而利於病節（一五2）

説苑正諫篇

孔子見斉景公節（一五3）

呂氏春秋〔離俗覧〕高義篇・説苑立節篇

孔子在斉舎於外館節（一五4）

説苑権謀篇但云「孔子与斉景公坐」、家語「孔子在斉舎於外館景公造焉賓主之辞既接」、亦王肅縁飾之詞。

子夏三年之喪畢節（一五5）

詩〔国風檜〕素冠毛伝・説苑脩文篇

孔子曰無体之礼節（一五6）

説苑脩文篇

孔子見羅雀者節（一五7）

説苑敬慎篇

「孔子顧謂弟子曰」以下、則拠説苑之文而暢論之也。

孔子読易節（一五8）

説苑敬慎篇

子路問於孔子曰請釈古之道而行由之意節（一五9）

説苑建本篇

曾子耘瓜誤斬其根節（一五10）

説苑建本篇・韓詩外伝八

荆公子行年十五而摂荆相事節（一五11）

説苑尊賢篇

子夏問於孔子曰顔回之為人奚若節（一五12）

列子仲尼篇・説苑雑言篇・淮南子人間訓

孔子游於泰山節（一五13）

列子天瑞篇・説苑雑言篇・淮南子主術訓・同斉俗訓

孔子曰回有君子之道四焉節（一五14）

此撮説苑雑言篇二段為一。王肅（略）牽合之痕迹顕然。

孔子曰吾死之後節（一五15）

此亦撮説苑雑言篇二段為一。

「故曰与善人居云云」又見大戴礼曾子疾病篇。

曾子従孔子於斉節（一五16）

此亦撮説苑雑言篇二段為一。「依賢固不困云云」乃説苑別一条引孔子語、王肅強綴於此、以為聞晏子之言而発、非也。

孔子曰以富貴而而下人節（一五17）

此亦合説苑雑言篇二段為一。

孔子曰中人之情也節（一五18）

此亦合説苑雑言篇二段為一。

孔子曰巧而好度必攻節（一五19）

案説苑雑言篇「愚者反是」下接以「夫処重擅寵云云」、而「非其地而樹之、不生也」又別一条、今撮合為一、増「是以」二字。（略）是之謂勦説。

孔子曰舟非水不行節（一五20）

説苑雑言篇

斉高庭問於孔子曰節（一五21）

此又撮説苑雑言篇二段為一。（略）不知何故牽合之也。

弁物第十六

季桓子穿井節（一六1）

国語魯語・史記孔子世家・説苑弁物篇

〔呉伐越隳会稽節〕（一六2）

〔国語魯語〕・〔史記孔子世家〕・〔説苑弁物篇〕

〔孔子在陳陳恵公賓之於上館節〕（一六3）

〔国語魯語〕・〔史記孔子世家〕・〔説苑弁物篇〕

郯子朝魯節（一六4）

〔春秋〕左昭十七年伝

邾隠公朝于魯節（一六5）

〔春秋〕左定十五年伝

孔子在陳節（一六6）

〔春秋〕左哀三年伝・史記孔子世家

「礼祖有功而宗有徳故不毀其廟焉」此二語王肅所造、以証七廟不数文武之説。

陽虎既奔斉節（一六7）

因〔春秋〕左定九年伝有『孔子曰趙氏其世有乱乎』一語、仮為子路問答之辞、以敷演之、「親富不親仁」又襲左伝鮑文子語也。

季康子問於孔子曰節（一六8）

〔春秋〕左哀十二年伝

「季康子曰所失者幾月也」以下、則王肅所増。

呉王夫差将与哀公見晋侯節（一六9）

〔春秋〕左哀十三年伝

「子貢聞之」以下、則王肅所増。

叔孫氏之車士曰子鉏商節（一六10）

〔春秋〕左哀十四年伝・同公羊同伝・史記孔子世家

哀公問政第十七

哀公問政於孔子節（一七1）

礼記中庸

「公曰子之言美矣至矣寡人実固不足以成之也」、中庸無此数語、蓋王肅所増。

「公曰政其尽此而已乎孔子曰」「公曰為之奈何孔子曰」、此俱王肅所増、中庸無之。

「公曰子之教寡人備矣敢問行之所始」、此二語亦王肅所増。

孔子曰立愛自親始節（一七2）

礼記祭義篇

「公曰寡人既得聞此言也懼不能果行而獲罪咎」、此亦王肅所増。刪中庸之文、而以祭義足成之、又撰為哀公語、以聯属其文。

宰我問於孔子曰吾聞鬼神之名節（一七3）

礼記祭義篇

因上襲祭義、而復牽連及之。

顔回第十八

魯定公問於顔回曰節（一八1）

荀子哀公篇・新序雑事第五・韓詩外伝二

荘子達生篇・呂氏春秋〔離俗覧〕適威篇、以此為荘公顔闔事。

「公説遂以告孔子」、此下並王肅所増。

孔子在衛節（一八2）

説苑弁物篇

顔回問於孔子曰成人之行若何節（一八3）

説苑弁物篇

顔回問於孔子曰**咸**文仲武仲孰賢節（一八4）

（〔春秋〕左文二年伝及び同襄二十三年伝の両文を雑取仮託して此段を作る、家語の是非の論述多く謬れりと、やや長文の論証あり）

顔回問君子節（一八5）

仲孫何忌問於顔回曰節（一八6）

〔顔回問小人節〕（一八7）

「毀人之善以為弁狡訐懐詐以為智」、此本論語〔陽貨〕「悪徼以為智者」「悪訐以為直者」。

顔回謂子路曰節（一八8）

論語〔衛霊公篇〕「子曰由知徳者鮮矣」、及〔先進篇〕「若由也不得其死然」語。

〔孔子謂顔回曰節〕（一八9）

〔顔回問於孔子曰小人之言有同乎節〕（一八10）

〔顔回問朋友之際節〕（一八11）

〔叔孫武叔見未仕於顔回節〕（一八12）

此篇所引顔回語、多不詳其来歴。蓋王肅所拠先秦諸子書、今已亡佚也。

「故君子攻其悪無攻人之悪」、此襲論語〔顔淵篇〕。

〔顔回謂子貢曰節〕（一八13）

子路初見第十九

子路初見孔子節（一九1）

説苑建本篇

子路将行辞於孔子節（一九2）

説苑雑言篇本分両段、王肅増「汝所問苞在五者中矣」句、牽合為一。

孔子為魯司寇節（一九3）

説苑政理篇

孔子謂宰予曰節（一九4）

孔子兄子有孔篋者節（一九5）

説苑政理篇

孔子侍坐於哀公節（一九6）

韓非子外儲説左下

子貢曰陳霊公君臣宣淫於朝節（一九7）

此因左伝載「孔子曰、詩云、民之多辟、無自立辟、其洩冶之謂乎」数語、而傅会之。

孔子相魯節（一九8）

史記孔子世家

澹台子羽有君子之容節（一九9）

韓非子顕学篇

「以容取人則失之子羽以辞取人則失之宰予」、此語亦見史記・

韓非子・大戴礼五帝徳・論衡骨相篇、本書亦屢引之。

〔孔子曰君子以其所不能畏人節〕（一九10）

〔孔蔑問行己之道節〕（一九11）

「終日言無遺己憂終日行不遺己患」、此二語見説苑雑言篇、前

六本篇已襲之。

在厄第二十

楚昭王聘孔子節（二〇1）

史記孔子世家・荀子宥坐篇・説苑雑言篇・韓詩外伝七

子路問於孔子曰君子亦有憂乎節（二〇2）

荀子子道篇・説苑雑言篇

曾子弊衣而耕於魯節（二〇3）

説苑立節篇

孔子厄於陳蔡節（二〇4）

呂氏春秋〔審分覧〕任数篇、与此小異。

入官第二十一

子張問入官於孔子至篇末（二一1）

大戴礼子張問入官篇

困誓第二十二

子貢問於孔子曰賜倦於学節（二二1）

列子天瑞篇・荀子大略篇・韓詩外伝八

孔子自衛将入晋節（二二2）

史記孔子世家

子路問於孔子曰有人於此節（二二3）

荀子子道篇・韓詩外伝九

孔子遭厄於陳蔡之間節（二二4）

説苑雑言篇

又荘子譲王篇・呂氏春秋〔孝行覧〕慎人篇、語意略同。

孔子之宋節（二二5）

説苑雑言篇・韓詩外伝六

孔子曰不観高崖節（二二6）

説苑雑言篇

子貢問於孔子曰賜既為人下矣節（二二7）

荀子堯問篇・説苑臣術篇・韓詩外伝七

孔子適鄭節（二二8）

史記孔子世家・白虎通寿命篇・論衡骨相篇

与韓詩外伝九文異。

孔子適衛路出于蒲節（二二9）

史記孔子世家

衛蘧伯玉賢而霊公不用節（二二10）

韓詩外伝七・賈誼新書胎教篇・新序雑事第一篇

「孔子聞之曰」以下、王肅所増。

五帝徳第二十三

宰我問於孔子曰至篇末（二三1）

大戴礼五帝徳篇

五帝第二十四

季康子問於孔子曰至篇末（二四1）

案此篇王肅所造。雑采礼記・左伝、仮為季康子問答、以駁鄭康成六天之説。

「昔少皞氏之子有四叔」、此襲〔春秋〕左昭二十九年伝。

「夏后氏以金徳王而尚黒至此三代之所以不同」、此段襲礼記檀弓。

執轡第二十五

閔子騫為費宰節（二五1）

大戴礼盛徳篇

仮為閔子騫問荅之辞。

子夏問於孔子曰節（二五2）

大戴礼易本命篇・淮南子地形訓

「孔子曰然吾昔聞諸老聃亦如汝之言子夏曰商聞山書曰」、大戴無此数語。蓋王肅所増。

「子夏言終而出至各其所能」、此俱王肅所増。

本命解二十六

魯哀公問於孔子曰節（二六1）

大戴礼本命篇・韓詩外伝一・説苑弁物篇・白虎通姓名篇

仮為哀公孔子問荅之辞。

「男子二十而冠有為人父之端女子十五許嫁有適人之道於此而往則自婚矣」、此数語乃王肅所造。

孔子遂言曰女有五不取節（二六2）

大戴礼本命篇・白虎通嫁娶篇・趙岐孟子注・何休公羊荘廿七年伝注

孔子曰礼之所以象五行也節（二六3）

大戴礼本命篇・礼記喪服四制

論礼第二十七

孔子間居子張子貢言游侍節（二七1）

礼記仲尼燕居

「給奪慈仁」、礼記此句下尚有「子曰師爾過而商也不及子産猶衆人之母能食之不能教也」。故子貢問将何以為此中者也。中字承上過不及来。今王肅刪去上数語。

「言游退子張進曰敢問礼何謂也」、礼記無此三句。王肅以後文子張問政一段、割入問玉篇(三六4)。故於此増子張問語耳。

子夏侍坐於孔子曰節（二七2）

礼記孔子閒居

「是湯之徳也」、礼記此下尚有「天有四時」一段、家語亦割入問玉篇（三六3）。

観郷射第二十八

孔子観於郷射節（二八1）

礼記射義

「射既闋子路進曰由与二三子者之為司馬何如孔子曰能用命矣」、此数語王肅所増。

孔子曰吾観於郷而知王道之易易也節（二八2）

礼記郷飲酒義・荀子楽論篇

子貢観於蜡節（二八3）

礼記雑記

郊問第二十九

定公問於孔子曰至篇末（二九1）

此篇王肅所造。雑采礼記諸文、以駮鄭康成、而仮為定公孔子問対之詞。

五刑解第三十

冉有問於孔子曰古者三皇五帝不用五刑節（三〇1）

大戴礼盛徳篇

仮為冉有孔子問荅之辞。大戴盛徳後半篇、前執轡篇（二五1）已襲之矣。此復襲其前半篇、蓋亦以一篇之文分為両篇也。

孔子曰大罪有五節（三〇2）

大戴礼本命篇

冉有問於孔子曰先王制法節（三〇3）

礼記曲礼・漢書賈誼伝・賈誼新書階級篇

仮為冉有孔子問荅之辞。

刑政第三十一

仲弓問於孔子曰雍聞至刑無所用政節（三一1）

此本論語、而参以尚書大伝・孔叢子刑論。

「顓五刑必即天倫」、此下襲礼記王制。

礼運第三十二

孔子為魯司寇至篇末（三二1）

礼記礼運篇

「則天下国家可得以礼正矣」、礼記此下有「言偃復問曰夫子之極言礼也」一段。家語割入前問礼篇（六2）、而於此増「言偃曰今之在位莫知由礼何也」数語。

「冬合男女春頒爵位」、冬春二字、王肅所増。

冠頌第三十三

邾隠公既即位節（三三1）

礼記郊特牲・同冠義・儀礼士冠礼・〔春秋〕左襄九年伝

仮為邾隠公即位将冠問礼孔子之辞。

懿子曰天子未冠即位節（三三2）

此段即倣〔礼記郊特牲〕文為之。（梁玉繩説に倣う）

「諸侯之有冠礼也夏之末造也」、此二句襲礼記郊特牲。

「周公命祝雍作頌曰」、此襲大戴礼公冠篇・説苑脩文篇。

「其頌曰令月吉日」、祝雍頌止五句、所謂辞達而弗多也。此復雑采儀礼士冠礼始加祝辞・大戴礼孝昭冠辞為頌語、竟成贅設。

懿子曰諸侯之冠其所以為賓主何也節（三三3）

大戴礼〔公冠篇〕・説苑〔脩文篇〕

懿子曰始冠必加緇布之冠何也節（三三4）

儀礼士冠礼・礼記郊特牲・同玉藻

廟制第三十四

衛将軍文子将立先君之廟於其家節（三四1）

案此篇王肅所造。以駮鄭康成廟制、而撰為衛将軍文子将立先君之廟於其家事。

「公廟設於私家非礼也」、則襲礼記郊特牲語。

子羔曰敢問尊卑上下立廟之制節（三四2）

礼記王制・同祭法

子羔問曰祭典云節（三四3）

「周人之於邵公也云云」、亦見漢書韋元成伝。

弁楽解第三十五

孔子学琴於師襄子節（三五1）

史記孔子世家・韓詩外伝五

「吾雖以擊磬為官」、此語王肅所増。

「其伝曰文王操」、此語王肅所増。

子路鼓瑟節（三五2）

説苑脩文篇

周賓牟賈侍坐於孔子節（三五3）。

礼記楽記・史記楽書

正義云「姓賓牟名賈」、不云周人也。此周字、王肅所増。

「郊配后稷而民知尊父焉」、礼記無此句。（略）王肅因駮康成帝嚳配祭圜丘之説、故増此句。

問玉第三六

子貢問於孔子曰敢問君子貴玉而賤珉節（三六1）

礼記聘義・荀子法行篇

孔子曰入其国其教可知也節（三六2）

礼記経解

天有四時節（三六3）

礼記孔子閒居・韓詩外伝五

此応在前論礼篇「是湯之徳也」（二七2）下、誤綴於此。

子張問聖人之所以教節（三六4）

礼記仲尼燕居

応在前論礼篇「行之其在人也」（二七1）下、不知王肅何意將礼記両篇之文割裂如此。

屈節解三十七

子路問於孔子曰由聞丈夫居世節（三七1）

荀子仲尼篇有時屈則屈時伸則伸語、此襲之。

孔子在衛聞斉国田常将欲為乱節（三七2）

史記仲尼弟子列伝・呉越春秋夫差内伝・越絶書陳恒伝

「此聖人所謂屈節求其達者也」、此句王肅所増。

「遂自発国内之兵以伐斉」、史記云発九郡兵伐斉。此時不得有九郡之名、故王肅改之。

孔子弟子有宓子賤者仕於魯節（三七3）

呂氏春秋〔審応覧〕具備篇・新序雑事第二篇

「屈節治単父将以自試也」、此二句王肅所増。

斉人攻魯道由単父節（三七4）

賈誼新書審微篇

三年孔子使巫馬期往観政焉節（三七5）

呂氏春秋〔審応覧〕具備篇・淮南子道応訓、又見水経泗水注

孔子之旧曰原壌節（三七6）

礼記檀弓

「子路曰由也昔聞諸夫子無友不如己者過則勿憚改夫子憚矣姑已若何」、此襲論語〔学而・子罕篇〕、而仮為子路問辞。

「子路曰夫子屈節而極於此失其与矣豈未可以已乎」、此数語亦王肅所増。

七十二弟子解第三十八

「自吾有回門人日益」（顔回）　是語襲尚書大伝。
「宰予与田常為乱夷其三族孔子恥之」（宰予）　此襲史記〔仲尼弟子列伝〕而誤者。
「端木賜常結駟連騎以造原憲」（端木賜）　此襲荘子讓王篇・韓詩外伝一・新序節士篇。
「自吾有由而悪言不入於耳」（仲由）　此語亦襲史記〔仲尼弟子列伝〕・尚書大伝。
「見読史志者云」（卜商）　此襲呂氏春秋〔真行論〕察伝篇。
「顓孫師孔子門人友之而弗敬」（顓孫師）　此因論語子游曾子之語、而影撰者。
「使孔子為次乗」（顔刻）　此襲史記孔子世家。
「小成則若性也習慣若自然也」（叔仲会）　二語見大戴礼保傅篇・賈誼新書保傅篇・漢書賈誼伝

本姓解三十九

〔孔子之先宋之後也節〕（三九1）
斉太史子与適魯節（三九2）

終記解第四十

孔子蚤作節（四〇1）
礼記檀弓
哀公誄曰節（四〇2）
礼記〔檀弓〕・〔春秋〕左〔哀十六年〕伝・史記〔孔子世家〕・漢書五行志中並載孔子誄詞、而詞句小異。家語所載誄詞与左伝史記同
既卒門人疑所以服夫子者節（四〇3）
礼記檀弓
孔子之喪公西赤掌殯葬焉節（四〇4）
〔礼記〕檀弓、参取史記〔孔子〕世家。
「冠章甫之冠」、此句王肅所増。
「珮象環径五寸而綦組綬」、此襲礼記玉藻。
既葬有自燕来観者節（四〇5）
〔礼記〕檀弓
二三子三年喪畢節（四〇6）
孟子・史記〔孔子世家〕

正論解第四十一

孔子在斉斉侯出田節（四一1）
孟子・〔春秋〕左昭二十年伝
斉国書伐魯節（四一2）
〔春秋〕左哀十一年伝
「既戦季孫謂冉有曰」、此襲史記孔子世家。

南宮説仲孫何忌既除喪節（四一3）
〔春秋〕左昭七年伝
衛孫文子得罪於献公節（四一4）
〔春秋〕左襄廿九年伝
「孔子聞之曰」、此下王肅所増。
孔子覧晉志節（四一5）
〔春秋〕左宣二年伝
鄭伐陳入之使子産献捷于晉節（四一6）
〔春秋〕左襄廿五年伝
楚霊王汰侈節（四一7）
〔春秋〕左昭十二年伝
叔孫穆子避難奔斉節（四一8）
〔春秋〕左昭五年伝
晉邢侯与雍子争田節（四一9）
〔春秋〕左昭十四年伝・国語晉語
鄭有郷校節（四一10）
〔春秋〕左襄三十一年伝・新序雑事第四篇
晉平公会諸侯于平丘節（四一11）
〔春秋〕左昭十三年伝

鄭子産有疾節（四一12）
〔春秋〕左昭二十年伝
孔子適斉節（四一13）
礼記檀弓
晉魏献子為政節（四一14）
〔春秋〕左昭廿八年伝
趙簡子賦晉国一鼓鐘節（四一15）
〔春秋〕左昭廿九年伝
楚昭王有疾節（四一16）
〔春秋〕左哀六年伝・説苑君道篇・韓詩外伝三
衛孔文子使太叔疾出其妻節（四一17）
〔春秋〕左哀十一年伝・史記孔子世家
斉陳恒弑其君簡公節（四一18）
論語〔憲問篇〕・〔春秋〕左哀十四年伝
子張問曰書云高宗三年不言節（四一19）
論語〔憲問篇〕・礼記檀弓・同坊記・同喪服四制・尚書大伝・
春秋繁露竹林篇
衛孫桓子侵斉節（四一20）
〔春秋〕左成二年伝・賈誼新書審微篇

公父文伯之母節（四一21）
国語魯語
樊遲問於孔子曰鮑牽事斉君節（四一22）
因〔春秋〕左成十七年伝載「孔子曰鮑荘子之智不如葵」二語、
而仮為樊遲問荅之辞。
李康子欲以一井田出法賦焉節（四一23）
〔春秋〕左哀十一年伝・国語魯語
子游問於孔子曰夫子之極言子産之恵也節（四一24）
孟子・礼記仲尼燕居
定公問於孔子曰二三大夫皆勧寡人節（四一25）
礼記祭義
仮為定公孔子問対之辞。
哀公問於孔子曰寡人聞東益宅不祥節（四一26）
淮南子人間訓・新序雑事第五篇・論衡四諱篇
孔子適季孫節（四一27）
韓詩外伝五・新序雑事第五篇
曲礼子貢問第四十二
子貢問於孔子曰晋文公実召天子節（四二1）
〔春秋〕左僖廿八年伝
仮為子貢問辞。
孔子在宋見桓魋自為石椁節（四二2）
礼記檀弓
「冉子僕」以下、則王肅所増。
「予凶事非礼也」、襲〔春秋〕左隠元年伝。
南宮敬叔以富得罪於定公節（四二3）
〔礼記〕檀弓
「得罪於定公犇衛衛侯請復之」及「子游侍」以下、則王肅
所増也。
孔子在斉節（四二4）
礼記曲礼云「歳凶馳道不除祭事不県」、雑記「孔子曰凶年
則乗駑馬祀以下牲」、此撮合為一、而造為斉大旱春饑事・
景公孔子問対之辞。
孔子適季氏節（四二5）
礼記檀弓
造一季康子昼居内寝孔子問疾事。
孔子為大司寇節（四二6）
論語〔郷党篇〕・礼記雑記
子貢問曰管仲失於奢節（四二7）

礼記礼器・同雑記

仮為子貢問辞。

晏子一狐裘三十年之文、則又襲〔礼記〕檀弓。

冉求曰臧文仲知魯国之政節（四二8）

礼記礼器

仮為冉求問辞。

臧文仲立言垂法、則襲〔春秋〕左襄廿四年伝穆叔語。

子路問於孔子臧武仲率師節（四二9）

礼記檀弓

晉将伐宋節（四二10）

礼記檀弓

「是以周任有言曰民悦其愛者弗可敵也」此三句、王肅所増。

楚伐呉工尹商陽与陳弃疾追呉師節（四二11）

礼記檀弓

「子路怫然進曰」、此下王肅所増。

孔子在衛司徒敬子卒節（四二12）

礼記檀弓「衛司徒敬子死子夏弔焉」、此小変之。

「掘中霤而浴云云」、亦檀弓語也。

「君子行礼不求変俗」二句、則兼襲曲礼語。

宣公八年六月辛巳節（四二13）

礼記檀弓

仮為子游問辞。

季桓子喪康子練而無衰節（四二14）

邾人以同母異父之昆弟死節（四二15）

此条似駁檀弓鄭注、（略）其為王肅偽造無疑。

斉師侵魯節（四二16）

礼記檀弓・〔春秋〕左哀十一年伝

注亦全襲〔鄭〕康成語。

魯昭公夫人呉孟子卒節（四二17）

〔春秋〕左哀十二年伝

仮為子游問荅之辞。

公父穆伯之喪節（四二18）

礼記檀弓・国語魯語

南宮縚之妻節（四二19）

礼記檀弓

子張有父之喪節（四二20）

〔礼記檀弓〕

孔子在衛衛之人有送葬者節（四二21）

礼記檀弓

「此情之至者也」、此句王肅所増。

卞人有母死而孺子之泣者節（四二22）

礼記檀弓

「而変除有期」、此句王肅所増。

孟献子禫節（四二23）

礼記檀弓、無子游問語

魯人有朝祥而暮歌者節（四二24）

礼記檀弓

子路問於孔子曰傷哉貧也節（四二25）

礼記檀弓

増「貧何傷乎」一語。

呉延陵季子聘于上国節（四二26）

礼記檀弓

子游問喪之具節（四二27）

礼記檀弓「喪礼与其哀不足而礼有余」四句、是子路述聞諸夫子語、此撮合為一。

伯高死於衛節（四二28）

礼記檀弓云「孔氏之使者未至」、此即造一使子張往弔事。

子路有姉之喪節（四二29）

礼記檀弓

伯魚之喪母也節（四二30）

〔礼記檀弓〕

衛公使其大夫求婚於季氏節（四二31）

礼記大伝

撰為衛公求婚季氏事。

有若問於孔子曰国君之於同姓節（四二32）

「雖国君之尊猶百世不廃其親所以崇愛也」、孔叢子雑訓篇亦有此三句。二書皆偽書也。

「雖於族人之親而不敢戚君」、襲礼記大伝「君有合族之道族人不得以其戚戚君位也」語。

曲礼子夏問第四十三

子夏問於孔子曰居父母之仇如之何節（四三1）〔此の本「夏」を「貢」字に誤る。誤刻であろう〕

礼記檀弓

子夏問三年之喪節（四三2）

礼記曾子問

「周人既卒哭而致事」、此襲鄭注。

子夏問於孔子曰記云周公相成王節（四三3）

礼記文王世子

王肅蓋因礼記曾子問後、即継以文王世子、遂撰為子夏問語、而牽連及之。

子夏問於孔子曰居君之母与妻之喪節（四三4）〔此の本又「夏」を「貢」に誤る〕

撮合礼記檀弓・雑記二条為一。

子夏問於夫子曰凡喪小功已上節（四三5）

礼記雑記

仮為子夏問辞。

子夏問於孔子曰客至無所舎節（四三6）

論語・礼記檀弓

兼采礼器之文。

「夫仁者制礼者也」、此下皆与殯朋友之義無渉、蓋雑湊成篇耳。

孔子食於季氏節（四三7）

此撮合礼記玉藻・雑記二条為一。

子夏問曰官於大夫節（四三8）〔此の本「夏」又「貢」に誤る〕

礼記雑記

仮為子夏問辞。

子貢問居父母之喪節（四三9）

礼記雑記

子貢問於孔子曰殷人既窆而弔於壙節（四三10）

礼記檀弓・同坊記

仮為子貢問辞。

「周以戚吾従殷」、檀弓但云、「孔子善殷」、王肅合両条為一。

以此對上文「殷以慤吾従周」耳。

子貢問曰聞諸晏子節（四三11）

礼記雑記有孔子称少連大連善居喪語。此仮為子貢問。

子游問曰諸侯之世子節（四三12）

礼記曾子問

孔子適衛遇旧館人之喪節（四三13）

礼記檀弓・論衡問孔篇

子路問於孔子曰魯大夫練而杖節（四三14）

荀子子道篇

叔孫武叔之母死節（四三15）

礼記檀弓但載「子游曰知礼」一語。鄭注嗤之、此乃撰為子路孔子問荅之辞。

斉晏桓子卒節（四三16）

〔春秋〕左襄十七年伝・晏子春秋雑上

季平子卒将以君之璵璠斂節（四三17）

此事見呂氏春秋〔孟冬紀〕安死篇。不云孔子爲中都宰。

孔子之弟子琴張与宗魯友善節（四三18）

〔春秋〕左昭二十年伝

「孔子之弟子五字」、則王肅所増也。

郕人子蒲卒節（四三19）

此誤合礼記檀弓両事為一。

公父文伯卒節（四三20）

国語魯語

子路与子羔仕於衛節（四三21）

〔春秋〕左哀十五年伝

「夫子哭之於中庭云云」、則襲礼記檀弓。

季桓子死魯大夫朝服而弔節（四三22）

礼記檀弓有「夫子曰始死羔裘元冠者易之而已羔裘元冠夫子不以弔」語。王肅遂造一季桓子死魯大夫朝服、以弔事、而仮爲子游問荅、以正之。

子畢問於孔子曰始死之設重也何為節（四三23）

礼記檀弓

記設重喪朝殷周之異、而仮為子畢問荅也。

孔子之守狗死節（四三24）

礼記檀弓

曲礼公西赤問第四十四

公西赤問於孔子曰大夫以罪免節（四四1）

礼記王制正義引論語注云「大夫退死葬以士礼致仕以大夫礼葬」、蓋康成語、而王肅襲之、仮為公西赤問荅之辞。

公義仲子嫡子死而立其弟節（四四2）

礼記檀弓

孔子之母既喪節（四四3）

礼記檀弓

孔子有母之喪節（四四4）

顔回死魯定公弔焉節（四四5）

原思言於曾子曰節（四四6）

礼記檀弓

子游問於孔子曰葬者塗車芻靈節（四四7）

礼記檀弓「塗車芻靈自古有之」二句、亦孔子之語。此仮為子游問辞。

顔淵之喪既祥節（四四8）

礼記檀弓

孔子嘗奉薦而進節（四四9）

礼記祭義

子路為季氏宰節（四四10）

礼記礼器

衛荘公之反国節（四四11）

因礼記郊特牲有「孔子曰繹之於庫門内祊之於東方朝市之於西方失之矣」語、而撰為荘公事。

季桓子将祭節（四四12）

公父文伯之母節（四四13）

国語魯語

季康子朝服以縞節（四四14）

礼記玉藻「朝服之以縞也自季康子始也」、此乃撰為曾子問荅之辞。

孫氏が検証するところに拠れば、王肅が勦竊襲用する経史子旧籍は、尚書大伝・詩毛伝・韓詩外伝・儀礼・礼記・大戴礼・春秋左氏伝・公羊伝・何休公羊伝注・穀梁伝・春秋繁露・論語・孟子・趙岐孟子注・史記・漢書・国語・呉越春秋・越絶書・荀子・賈誼新書・新序・説苑・韓非子・墨子・尸子・呂氏春秋・淮南子・白虎通・論衡・荘子・列子であり、就中、礼記・大戴礼・春秋左伝・史記・荀子・新序・説苑からの勦襲がはなはだ多い。更に当今伝存する古籍に照らしてもなお其の来歴が詳らかでない辞句文章、例えば、顔回篇諸節の如きに就いても、「蓋王肅所拠先秦諸子書、今已亡佚矣」と、尚、亦現存諸古籍とは別に勦襲依拠せる諸子書の存在したことを推量している。要するに、現行家語は全て王肅が偽撰私定した偽書として漢書芸文志著録の所謂古家語の片鱗をも認めないのが、孫氏の見解であり、本考証は、その立証を企図して撰述されたものである。

孫氏は王肅家語偽撰の痕跡を完膚無きまでに顕然たらしめ、また鄭玄経説と乖反する文辞の多くに就いては有心立異の捏造改竄と看做し、誣聖背経の驕行として指斥する。しかし、一方で、例えば観周篇孔子観乎明堂節（一一3）「有周公相成王、抱之負斧扆、南面以朝諸侯之図焉」句下の「世之博学者謂、周公便履天子之位。失之遠矣」との王肅注に就いて「此駮鄭康成礼記明堂位注。明堂位云、天子負斧依南郷而立。天子本指成王。鄭注乃云天子周公也。其説固謬。世之為鄭学者乃并周公摂王位及郊祭六天之説而信之。嗚呼、何其蔽也。予謂、王肅偽撰家語、以駮康成、固不足信。然其糾正此二事、実為古今篤論。非馬昭

之徒所及」と論ずるが如き、鄭説を却け、王説称揚の考論が見えること、また看過されてはならないところであろう。

本考証に於いて参考引用される諸書並に諸家注説を載げておく。書名等の下（　）に、引用箇所を篇・節の順次数で示した。

易〈鄭〔玄〕詩箋引〉（一二）、王弼周易同人注（一〇6）

商書〈呂氏春秋諭大覧引〉（三四2）、書序（七5）、尚書〔周書〕無逸篇（四一19）、偽古文尚書〔夏書〕五子之歌（八18、四一16）、同〔商書〕太甲中（四四3）、同〔商書〕咸有一徳（三四2）、同〔商書〕説命（一九1、四一19）、同〔周書〕旅獒（一六3）、異義古尚書説〈公羊隠元年伝疏引〉（三三2）、偽古文尚書〔商書〕咸有一徳伝（三四2）、同〔周書〕旅獒伝（八14）、同〔周書〕洛誥伝（三二、三三2）、鄭〔玄〕〔尚書金縢〕注〈礼記文王世子正義引〉（三三2）

尚書大伝（三、七5、一〇10、四一19）、近刻大伝（三八子貢）

詩〔国風召南〕摽有梅（二六1）、同〔小雅四月〕（一四1）、同〔大雅下武〕（一二）、詩〈淮南子繆稱訓引〉（一二）、〔詩〕定本（一二）、詩〈左襄二十一年伝叔向引〉（一九8）、鄭康成〔玄〕詩譜〈〔経典〕釈文引〉（三八卜商）、鄭〔玄〕詩箋（一四1、二七2）、詩譜序（三九2）

韓詩外伝〈漢書王吉伝注引〉（三八曾参）、同〈陽湖趙翼陔余叢考引〉（二二5）、同（七5、九9、一三4、二二8、三五3）

周礼〔地官〕媒氏（二六1）、同〔春官〕司服（二九）

儀礼士虞礼（四四3）、鄭〔玄〕儀礼士喪礼注（四〇4）

礼記檀弓（一1、一二、一五5、二三、三八高柴・顔幸、四一19、四二9 12 28、四三18 22、四四3）、同王制（三四2、四一6）、同曾子問（一一1）、同礼運（六2）、同礼器（三四2、三九2）、同郊特牲（二九、四四5 11 12）、同玉藻（三三2）、同明堂位（一一3）、同喪服小記（三四2）、同雑記（二〇4、四三2 11 16、四四5）、同坊記（四一19）、礼記〈文選謝宣遠張子房詩注引〉（四一13）、同〈文選潘元茂冊魏公九錫文注引〉（四一13）、同〈後漢書馬融伝注〉（三五3）、礼記古本（六2）、唐石経礼記（四一13）、鄭康成〔玄〕礼記檀弓注（四二9 11 15、四三15、四四6）、同王制注（三一1、三四2）、同曾子問注（四三12）、同礼運注（三二）、同郊特牲注（二九、四四11）、同玉藻注（三三2）、同明堂位注（一一3）、同喪服小記注（三四2）、同楽記注（三五23）、同祭義注（一七3、四一25）、同孔子間居注（二七2）、同坊記注（四一19）、同中庸注（一七1）、同儒行注（五）、同射義注（二八1）、同聘義注（三六1）

夏小正（二六1）、大戴礼保傅篇（三八叔仲会）、同帝繫篇（二三）、盧弁大戴礼記衛将軍文子注（一二）、同公冠篇注（三三3）
〔春秋〕左文二年伝（一八4）、同宣九年伝（一九7）、同成十七年伝（四一22）、同襄二十三年伝（一八4）、同左昭四年伝（四一11）、同左昭八年伝（二三）、同定元年伝（一2）、同定十二年伝（一4）、同哀十一年伝（三八樊須）、同哀十四年伝（三九2）、同哀十五年伝（三七2）、同哀十六年伝（四〇1）、同僖二十五年伝〈国語晋語韋昭注引〉（二三）、唐石経左伝（一六4）、杜預〔春秋〕左桓六年伝注（三九1）、同僖五年伝注（二二5）、同宣十二年伝注（一四1）、同襄十七年伝注（四三16）、同襄二十一年伝注（一九8）、同昭七年伝注（三九1）、同昭十二年伝注（四一7）、同定十年伝注（一3）、同哀十二年伝注（一六8）、同哀十四年伝注（一六10）、同哀十六年伝注（四〇1）、杜預左伝序（三九2）、賈逵・鄭衆注左伝（三八琴牢）
〔春秋〕公羊宣八年伝（一八4）、同定十二年伝（一4）、何休〔春秋〕公羊宣八年伝注（一八4）、同定十年伝注（一3）
〔春秋〕穀梁伝（三四2）
孝経聖治章（三五3）、同諫諍章（九9）、孝経諫諍章孔注（九9）、近刻日本国古文孝経首章孔伝（三九1）、孝経諫諍章鄭〔玄〕注（九9）、緯書鉤命決（三四2）
論語〔為政篇〕（三九2）、同〔公冶長篇〕（三八公冶長）、同〔雍也篇〕（二五1）、同〔子罕篇〕（三八琴牢）、同〔郷党篇〕（一七1）、同〔子路篇〕（三九2）、同〔陽貨篇〕（一八7）、同〔郷党篇〕〈説文引〉（171）、鄭〔玄〕論語〔子罕篇〕注（三八琴牢）、同〔郷党篇〕注〈論語集解引〉（四二6）、包咸論語〔子張篇〕注（八14）、王弼論語〔郷党篇〕〔注〕（四二6）、皇侃論語疏（二二5）、論語注〈檀弓正義引〉（二二5）、同注〈王制正義引〉（四四1）
孟子〔滕文公下〕（三七4）、同〔萬章下〕（四一6）、同〔尽心下〕（三八琴牢）、趙岐孟子〔尽心下〕注（三八琴牢）、同〔尽心下〕注（八14）
爾雅釈天（三二）、同〔釈虫〕（一七1）、同釈魚（三七5）、監本爾雅（三二）、小爾雅（八14）、広雅釈室（三四2）
倉頡篇〈文選注引〉（二五2）、説文（一七1、二五2、三七5）、玉篇（二五2）
史記五帝本紀（二三）、同殷本紀（七5、三九2）、同周本紀（一〇10、三五3）、同〔十二諸侯〕年表（一三8）、同高祖功臣表（後序）、同魯世家（四一19）、同宋世家（三九1）、同孔子世家（一1、二1、一一1、二二5、四〇12、四三17、四四4、

後序)、同仲尼弟子列伝(一四5、一九9、三八)、李斯上秦二世書(三八宰予)
漢書人表(一五13、三五1、三九1、四二11)、同五行志(七5、一六3、四〇2)、同芸文志(後序)、同賈誼伝(三八叔仲会)、同梅福伝(三八顔由)、同霍光伝(一一3)、同韋元成伝(三四3)、同孔光伝(後序)、同貨殖伝(三八子貢)
後漢書章帝紀(三八顔由)、同樊準伝(三八顔由)、同儒林伝〔衛宏〕(三八卜商)、続漢書郡国志(三八顔由)
蜀志譙周伝(四〇1)
宋書〔王淮之伝〕(四四3)
南史王淮之伝(四四3)、同祖沖之伝(九4)
北史李崇伝(二六2)
隋書経籍志(三八卜商、後序)
漢記尹敏伝〈顔師古漢書芸文志注引〉(後序)
荀悦漢紀(後序)
国語周語(四一11)、同晉語(二三)、鄭司農〔衆〕同注(四一11)、韋昭魯語注(四三20)
国策宋策(七5)
逸周書史記解(二三)
世本〈檀弓疏引〉(三四1)
晏子春秋問下篇(九3)、同雑上篇(一五16)
魯先賢伝〈広韻引〉(三九1)
列女伝(四三12)
水経注汶水篇云郡国志曰(一1)
集語(七5)
子思子〈意林〉(一〇14)
荀子仲尼篇(三七1)、同性悪篇(一五15)、同大略篇(一五16、二六1)、同宥坐篇(二1)、同子道篇(九9)、同法行篇(九1、一三4)、同哀公篇(三)
孔叢子雑訓篇(四二32)、同記問篇(一六10、二二2)
賈誼新書保傅篇(三八叔仲会)
塩鉄論刑徳篇(四二6)
新序雑事第四(七5)
説苑君道篇(七5、一〇10)、同政理篇(一三11、一九4)、同正諫篇(一四4、三八宰予)、同敬慎篇(七5)、同権謀篇(一五4、二二2)、同指武篇(二1)、同談叢篇(一〇14)
徐幹中論覈弁篇(一八7)、同慎所従篇(一八6)
韓非子難言篇(三八宰予)、同説林下(一四3)

司馬法（一〇5）、同〈周官司右鄭〔玄〕注引〉（一〇5）
尹文子〈孔子集語引〉（二1）
近刻尸子仁意篇（三五2）
呂氏春秋〔季春紀〕先己篇（一三10）、同〔季夏紀〕制楽篇（七5）、同〔孟冬紀〕安死篇（四三17）、同〔審分覧〕慎勢篇（三八宰予）、同〔離俗覧〕適威篇（一八1）、高誘呂氏春秋慎大覧注（三五3）
淮南子主術訓（一一3、三五1）、同氾論訓（二1、一五9、四三12）、同説林訓（八18）、同人間訓（三八宰予）、高誘淮南子精神訓注（三八顔回）、同主術訓注（三五1）
顔氏家訓後娶篇（三八曾参）、同書証篇（三八宓不斉）
白虎通誅伐篇（二1）、同諫諍篇（三八曾参）、同喪服篇（四四3）
論衡超奇篇（三九2）、同明雩篇（三八巫馬期）、同遭虎篇（四一13）、同定賢篇（三九2）
〔劉孝標〕世説〔新語〕汰侈篇注（三八顔回）
列子黄帝篇（八14）、同説符篇（八14）
荘子天道篇（三九2）、同天運篇（一一1）、同秋水篇（二二5）、同達生篇（八14、一八1）、同則陽篇（三八琴牢）、同釈文引司馬彪云（二二5、三八琴牢）
王逸〔楚辞〕大招注（八14）
昭明文選（三八卜商）
鄭発墨守〈礼記正義引〉（一一3）、鄭康成〔玄〕云〈史記集解引〉（三八公孫竜）
服虔説〈〔春秋〕左昭十四年伝正義引〉（四一9）、同云〈左昭廿九年伝正義引〉（四一15）、同云〈左哀十四年伝正義引〉（一六10）
熊氏〔安生〕云〈礼記礼運正義引〉（六2）
王肅聖証論〈偽古文尚書旅獒正義曰〉（八14）、同〈礼記王制正義引〉（三四2）、同〈礼記礼運正義引〉（三二）、同〈礼記郊特牲正義引〉（二四、二九）、王肅云〈書舜典釈文引〉（二四）、同〈史記集解引〉（二二9）
馬昭申鄭〈礼記祭義正義引〉（一七3）、同〈礼記楽記正義引〉（三五3）、馬昭曰〈周礼〔地官〕媒氏疏引〉（二六1）、同云〈礼記楽記正義引〉（三五2）
張融云〈礼記祭義正義引〉（一七3）
王劭云〈史記〔仲尼弟子列伝〕索隠引〉（三七2）
〔孔穎達〕周易同人正義（一〇6）
〔孔穎達〕書〔商書〕微子正義（三九1）、同〔周書〕洛誥正義（三三2）、梅鷟論偽古文尚書（一七1）

陸徳明詩釈文（三八卜商）、〔孔穎達〕詩〔大雅〕綿正義（四四11）、同〔大雅下武〕正義（一二）、朱子〔詩経〕集注（一二）
朱子詩伝（一四1）、王応麟詩攷（一〇20、一二）
賈公彦周礼〔地官〕媒氏疏（二六1）
賈公彦儀礼目録疏（三三3）、同士冠礼疏（三九1）、同士喪礼疏（四〇4）
陸徳明礼記王制釈文（三一1）、同明堂位釈文（一一3）、同〔哀公問〕釈文（六1）、〔孔穎達〕礼記檀弓正義（四〇1、四二25、四四3）、同王制正義（三四2）、同曾子問正義（四三2 12）、同文王世子正義（三三2）、同礼運正義（六2、三二）、同郊特牲正義（二四、二九、三三2）、同明堂位正義（三三2）、同楽記正義（三五2 3）、同祭義正義（一七3、四四9）、同坊記正義（四一19）、同儒行正義（五）、同郷飲酒義正義（二八2）、陳澔〔雲荘礼記〕集説（五、三二、三六2、四二9）、陳祥道礼書（二四）
〔陸徳明〕〔春秋左氏〕釈文（一九8、四一14）、〔孔穎達〕〔春秋〕左桓六年伝正義（三九1）、同襄十七年伝正義（四三16）、同襄廿九年伝正義（三九2）、同昭十三年伝正義（四一11）、同昭十四年伝正義（四一9）、同昭廿九年伝正義（四一15）、同定元年伝正義（一2）、同哀六年伝正義（四一16）、同哀十二年伝正義（一六8）、同哀十三年伝正義（一六9）、同哀十四年伝正義（一六10、四一18）、〔程公説〕春秋分記（三三1）
〔邢昺〕孝経疏（九9、三九1）
朱子中庸〔章句〕（一七1）
〔陸徳明〕論論〔郷党篇〕釈文（四二6）、邢〔昺〕同〔憲問篇〕疏（三八宓不斉、四一19）、〔朱子論語雍也篇〕集注（三八冉雍）、王若虚論語弁惑（二1、一九9）
朱子孟子集注（二二9）
広韻（二八1、三八宰父・穰駟赤・左郢・歩叔乗・右作蜀）
司馬貞史記〔孔子世家〕索隠（一1、一六3 10、二二5、四四4）、同〔仲尼弟子列伝〕索隠（三七2、三八）、〔張守節〕史記〔仲尼弟子列伝〕正義（三八公孫龍）
顔師古漢書〔古今〕人表注（三九1）、同芸文志注（後序）、同梅福伝注（三八顔由）
〔李賢〕後漢書郅惲伝注（三八曽参）、同樊準伝注（三八顔由）、同馬融伝注（三五3）
五代史馮道伝（四〇1）
宋史咸淳詔（三八奚箴）

古史（三七2、三九1）、同注（三九1）
路史発揮（四〇2）、羅苹路史後紀注（二三）
呉師道戦国策宋策注（七5）
余知古渚宮旧事（一四4）
欧陽士秀孔子世家補（一一4、四一15、四二11）
史通疑古篇（二三）、同申左篇（四二10）
白水蒼頡廟碑陰（三八曽参）
楊倞荀子大略篇注（一五16、二六1）、同哀公篇注（三、一〇12）
朱子語録（二〇1）
洪邁容斎随筆（三八巫馬期）、同三筆（一五10）
葉大慶攷古質義（一五16、二四）
劉美中〔才邵〕（四〇1）
王応麟困学紀聞（五、九4、一〇1、三〇3、三五1、三八申續）、
沈括（一七1）
章如愚山堂考索（一4）
意林（一〇14）
〔陸徳明〕荘子釈文（一八1）
文選弁命論注（三八顔回）
陸粲曰〈朱鶴齢読左日抄引〉（三九1）
楊慎曰（一九4）
陳幾亭曰〈閻若璩四書釈地又続引〉（二1）
閻若璩尚書古文疏証（後序）
万斯大学礼質疑（二四）
朱鶴齢読左日抄（三九1）
毛奇齢論語稽求篇（三八顔回）、同四書賸言（後序）、閻若璩四書釈地続（二二9、三九1）、同又続（二1、三五1、三八顔由）、同三続（三八漆雕開）、翟氏灝四書攷異（三八顔回）
邵泰衢史記疑問（三八顔刻）
銭大昕〔漢書人表〕考異（一五3）
孔継汾闕里文献考（後序）
顧炎武日知録（一七3、三七2）
朱彝尊〔孔子弟子〕考（三八叔仲会・歩叔乗）
全祖望経史問答（一〇2、二〇1、三八顔回）
銭氏大昕跋元至順二年加封孔子父母及夫人幷官氏詔（三九1）
馮氏景解春集（三九1）
仁和杭氏世駿曰（二四）
余姚盧氏文弨曰（校・云・読）（三、五1、八118、一〇513

14 15、一五16、一九8、三一1、四〇1、四一17）

帰安丁氏杰曰（二六2、三八漆雕開）

海寧陳氏鱣云（六1、二五2）

仁和梁氏玉繩曰（一三8、二〇4、二九、三三2、三八顔刻、三九1）

蕭山徐氏鯤曰（三二、三七2、四四5、後序）

引拠該博、実に清朝考証家の面目躍如たる論証である。就中、著者との交遊が認められる抗世駿・盧文弨・丁杰・陳鱣・梁玉繩・徐鯤諸氏の校語並に注説は、他書には見えぬもので注目を要しよう。

尚、著者は所謂『偽古文向書』及び『孔伝』を『家語』と同じく王肅の偽撰と看做し、本書に於て其証四点を指摘する。『偽書』『孔伝』王肅偽撰説は後年、丁晏『尚書余論』によって詳細に論証されるが、乾隆嘉慶年間既に、恵棟『古文尚書考』、戴震『経考』、李惇『群経識小録』、劉端臨『漢学拾遺』、王鳴盛『尚書後案』、江声『尚書集注音疏』等が主張称道したこころである（蔣善国『尚書綜述』一九八八年　上海古籍出版社、山本証道「尚書孔伝の研究」支那学第九巻二号参照）。此れら乾嘉間の諸儒の中にあって、孫志祖もまた王肅偽撰説を持していた事実が、本書に拠って明らかである。此処に孫氏が挙げる四証を記し孫氏所説を顕彰しておくことは、学史の一端を追認する所為として無益ではないであろう。

一は、致思第八孔子自衛反魯節、「有懸水三十仞」句下の案語、

〔王肅〕注「八尺曰仞」。偽古文尚書旅獒「為山九仞」伝亦然。正義曰「王肅聖証論及注家語皆云八尺曰仞、与孔義同、鄭元云七尺曰仞、与孔義異」。愚疑偽孔伝与家語竝出王肅之手、此亦其一証。趙岐孟子注作八尺。包咸論語注、王逸大招注並作七尺。小爾雅云四尺謂之仞。

一は、冠頌第三十三懿子曰天子未冠即位節、「武王崩成王年十有三而嗣立」句下の案語、

案書洛誥「朕復子明辟」偽孔伝云「成王年二十成人、故必帰政而退老」、正義曰「武王崩時成王年已十三、周公摂政七年、成王適満二十、孔於此言成王年二十、則其義如王肅也」。志祖案此亦偽孔伝与家語竝出王肅之一証。

一は、廟制第三十四子羔曰敢問尊卑上下立廟之制節、「是故天子立七廟」句下の案語、

案呂氏春秋諭大覧引商書曰「五世之廟可以観怪、万夫之長可以生謀」、拠緯書鉤命決云「殷五廟、至子孫六」。此引逸書、

蓋在湯時、故云「五世之廟」。偽古文咸有一徳乃改為「七世之廟可以観徳」、伝云「天子立七廟、有徳之王、則為宗祖、其廟不毀、故可観徳」、与粛所言無不脗合。予故疑二書之出於一手也。広雅釈室云「廟天子五」。

一は、曲礼公西赤問第四十四孔子之母既喪節、「十日過禫而成笙歌」句下の案語、

案三年之喪、鄭康成主二十七月、王粛主二十五月。蓋鄭以祥禫間月、王以祥禫同月也。（略）王粛既創為短喪之説、竟於家語襲礼記「孔子既祥五日、弾琴而不成声、十日而成笙歌」語、復増「過禫」二字、以曲証其祥禫同月之説、何其妄也。書偽古文太甲中孔伝、亦主二十五月之説。疑粛一人所作。

以上が、『偽孔伝』王粛偽撰説に就いて孫氏挙げるところの四証である。また『偽古文尚書』説命篇の「木受繩則正人受諫則聖」の句及び同じく旅獒篇の「昔武王克商通道於九夷百蛮」の句両句は、それぞれ『家語』の子路初見第十九子路初見孔子節、弁物第十六季桓子穿井節の同句より出たものであるとの指摘がみえ、上述の第三証と合せ考えれば、『偽古文尚書』もまた王粛偽撰と看做す孫氏の立場が明らかであろう。

なおまた、『孔叢子』に就いて、弁物第十六叔孫氏之車士曰子鉏商節「棄之於郭外」句下に「孔叢子云棄之五父之衢、与家語合」と言い、また、困誓第二十二孔子自衛将入晉節「作槃操以哀之」句下に於て「記問篇載操辞、亦後人偽撰也」との語がみえるが、本書に於ては未だ、王粛偽撰とする明確な言辞は見出せない。しかしながら、後の撰著である『読書脞録』巻四「孔叢子与家語合」に於て「志祖向疑孔伝家語孔叢子並出粛一人」と述べていることを参考すれば、『孔叢子』もまた王粛偽撰と疑っていた事実が判明する。且、考証立説するには至っていない。因に、『読書脞録』巻四には「家語攷」「家語逸文」と題して小論二篇を収めている。

更に、敢て指摘しておきたいことは、本姓解第三十九孔子之先宋之後也節「孟皮一字伯尼」句下に於ける次の考論である。

案近刻日本国古文孝経孔伝亦偽書也。首章伝云「仲尼之兄伯尼」、即剽竊家語為之。其文穴猥、蓋彼国人所偽造、又出王粛下矣。

「近刻日本国古文孝経孔伝」とは太宰春台の音校本をさすことと言うまでもない。「近刻」とは乾隆四一（一七七六）年刊行の『知不足斎叢書』第一集所収本であろう。当時の清儒の識見の一斑を示す所論としていささか留意を要しよう。

宋王柏の『家語考』にはじまる家語偽撰説は、本書に至って一応の収束をみ、ほぼ通説となったと言えよう。本書の学術上の意義は此の点に認められる。只、本考証に於て、必ずしも充全に先学攷究の成果が取り入れられているとは言えない。孫氏は後に『七修類稾』によって王柏説の概略を知ることになるが（『読書脞録』巻四「家語攷」）、本書撰述時には、未だ関知也ざるところであった。また、陳士珂の『疏証』、或は、殆んど同趣旨の著述である范家相の『証偽』を目睹した形跡も窺えない。書中、杭世駿、梁玉繩の所論に触れる一方で、姚際恒、恵棟、戴震の偽撰説を知悉していたか否か明瞭でない（歴代の偽撰説に就いては、蔣善国『尚書綜述』〈上海古籍出版社　一九八八〉第五編第二第三章弐八3丁参照）。昔時の学術界に於ける狭隘な一面も覗える。

本書への反論も逸早く同じ漢学派の中から生まれている。式訓堂叢書本に附刻された銭馥跋文は、恐らく叢書収入再刊時に参考補入されたもので、孫氏論法への反駁を内容とする正論である。以下、その全文を掲しておきたい。私に句点を附賛した。

今所有家語四十四篇、世儒頗疑出於王肅、並非漢志二十七卷之旧。馥案、肅伝是書時、其二十七卷具在也。若判然不同、則肅之書必不能行、即行矣、二十七卷者、必不至於泯没也。惟増多十七篇、而二十七篇即在其中、故此伝而古本則逸耳。例之以古文尚書、当不謬也。況有馬昭之言足拠乎。仁和孫侍御旁捜博攷、作疏証六巻、断為王肅偽撰。然諸子伝説毎多雷同、其見之荀子・呂覧者、復見之韓氏外伝・大戴礼記・劉氏説苑等比比也。則百家之書於詞、豈必已出哉。今凡家語之文之見於他説者、輒断為王肅剽竊、其不為直不疑之、金文鐳饒之牛也幾何矣。馥非朋於王也。欲持其論之平耳。更願与為鄭学者訂之。

武内義雄は、「読家語雑識」（全集第四巻所収）に於て此の跋文の前半の一部を引き、「その持論最も平正なるを覚ゆ。」と評言し、今の家語と古家語の関繋を次の如く論じて、後考究明すべき課題を提言している。

はたしてしからば、今の家語の中に王肅の増加する部分は大体荀子と一致する部分および礼説に関する部分なるべく、そのいはゆる礼説も後序に小戴を非難せると、鄭玄が小戴を注して王氏が鄭説に乖反する多きとより推せば、王肅がよれる礼説は小戴記にあらずして大戴礼記なるべし。従って今の家語の中より、荀子および礼説の文と思しきものを刪去すれば、

その余は大体、古家語の文を材料として篇次を改め、私定を加へしものなるべし。孫志祖諸人は、独り荀子および礼説のみならず、説苑・史記等の諸書に符合する部分も王肅の撰ならんとするも、これらの部分は、説苑等がかへつて古家語の文を襲ふものなるべく、家語の文は、大略説苑等と合して、小異同あるところは王肅が古家語を点定せるか、あるひは説苑等の作者が損益せるかなるべく、これら類似の文を比較して考究すれば、古家語の一部は想見せらるべきに似たり。碩学の卓見として、爾後の家語研究の指針となろう。拳拳服膺すべき課題である。

孫志祖、字は詒穀(或は頤谷に作る)、約斉と号す。仁和(浙江杭州府)の人。五世の祖隆の代に余姚(浙江紹興府)より仁和に居を遷した。隆の子紹武に光祚、昶(雲南安寧州知州)の二子が知られ、昶の子庭蘭(湖南岳常澧道)に七子があり、志祖はその次子として、乾隆元(一七三六)年に生まれている。十八才で附生となり(学政雷鉉)、乾隆二一(一七五六)年丙子科の挙人(考官礼部侍郎荘存與)、同三一年丙戌科の進士出身、邢部山東主事に補せらる。同員外郎、雲南司郎中、欽差通州坐糧庁を歴て、江南道監察御史に到る。四一年養帰を乞い、以後再び出仕することなく、里にあって専ら研学著述に従事した。嘉慶六(一八〇一)年、阮元の聘に応じて紫陽書院の主講を勤めたが、同年二月二十九日疾を得て里第に卒した。銭林『文献徴存録』巻四は嘉慶七年を卒年とする。享年六十五。妻は汪恭人。子無く長兄景曽の子同元を嗣子とした。同元は志祖の教導を受け、遺著を編刊して克く家学を伝え、『弟子職注』の著述が知られる。

志祖は弱年、毛奇齢(明天啓三〈一六二二〉年生 清康熙五五〈一七一六〉年歿)に私淑し、また全祖望(清康熙四四〈一七〇五〉年生 乾隆二〇〈一七五五〉年歿)、厲鶚(康熙三一〈一六九二〉年生 乾隆一七〈一七五二〉年歿)、杭世駿(康熙三五〈一六九六〉年生 乾隆三八〈一七七三〉年歿)、張燈(康熙四四〈一七〇五〉年生 乾隆一五〈一七五〇〉年歿)等浙中の宿学と往復質難して研鑽を積む。後年の著述にみられる考証家の面目は此の早年勉励の時期に形成されたものであろう。盧文弨(康熙五六〈一七一七〉年生 乾隆六〇〈一七九五〉年歿)とは同郷であり親交篤く、文弨歿後は遺文を輯め、徐鯤等と『抱経堂文集』の編訂校刊を主導している。梁玉繩との交誼も『清白士集』に寄せた嘉慶五年十二月の序文に拠って明らかである。

著述の伝わるものは多くは無いが、管見に入れるものを掲しておく。

文選理学権輿八巻補一巻　清汪師韓撰　孫志祖注並補　清嘉

慶四(一七九九)序刊(石門顧氏)　読画斎叢書甲集所収

乾隆三十三年歳在旃蒙作詻月在則如銭塘九曜山人汪師韓自序、文選理学権輿叙(嘉慶戊午〈三〉年季夏後学孫志祖)

文選考異四巻　清孫志祖輯　徐鯤校　清嘉慶四(一七九九)刊(石門顧氏)　読画斎叢書甲集所収

文選考異序(仁和孫志祖識)

文選李注補正四巻　清孫志祖輯　徐鯤校　清嘉慶四(一七九九)刊(石門顧氏)　読画斎叢書甲集所収

文選李注補正序(嘉慶戊午〈三年〉臘月二十日仁和孫志祖撰)

読書脞録七巻続編四巻　清孫志祖撰　孫同元校(続)孫同元編　清嘉慶四(一七九九)年・同七(一八〇二)年刊同一二(一八〇七)年印(仁和孫氏)

清故江南道監察御史孫君志祖伝(陽湖孫星衍譔)、孫頤谷侍御史伝(揚州阮元譔)、嘉慶十二年歳在丁卯春三月呉郡潘世恩序、〔自序〕(嘉慶己未〈四年〉六月朔日仁和孫志祖識於梅東書屋)、〔跋〕(壬戌〈嘉慶七年〉四月朔日男同元泣識)

同七巻　清光緒一三(一八八七)刊(酔六堂)　覆清嘉慶四年刊本

同二巻続編二巻(皇清経解巻四九一―四)〔清道光〕刊(〔広東〕学海堂)

又　咸豊一〇(一八六〇)年修(〔広東〕学海堂)

ほかに『申鄭軒遺文』一巻があるが未見(張舜徽『清人文集別録』巻八著録、「光緒十九年刻本」と)。なお、逸文を輯録増補した『謝氏後漢書補逸』五巻(清姚之駰輯・孫志祖増訂、丁氏善本書室鈔本、民国二〇年盆山精舎影印本あり。また清孫峻補訂の六巻清嘉慶一三年寿松堂孫氏刊本あり)、『風俗通逸文』一巻(盧文弨『群書拾補』に刊入)、及び子同元に属した『六韜逸文』一巻(孫星衍『平津館叢書』に刊入)がある。また、嘉慶四(一七九九)年序刊顧修編『読画斎叢書』の刊行に参画し、徐鯤とともに校勘の任を努めた。

伝は孫星衍撰「清故江南道監察御史孫君志祖伝」(『読書脞録』清嘉慶一二年印本首・『平津館文稿』巻下・『碑伝集』巻五七・『国朝耆献類徴初編』巻一三七補録に収載)及び阮元撰「孫頤谷御史伝」(『読書脞録』清嘉慶一二年印本首・『揅経室二集』巻五・『碑伝集』巻五七・『国朝耆献類徴初編』巻一三七に収載)を参照。ほかに『清史列伝』巻六八、『清史稿』巻四八一儒林

伝二、『国朝先正事略』巻三五（盧抱経先生事略に附伝）、『文献徴存録』巻四等に略伝が見える。

清人の撰述にかかる注釈書は、勿論以上縷述してきた四種に止るものではない。管見の限りでは、『述記』所収の任兆麟選輯の『家語』がある。王肅注本の抽刻で、毎半葉九行十七字、全て十五丁足らず、僅少の任氏の双注案語を含む。

孫志祖の「家語攷」（『読書脞録』巻四所収）末の双注等に拠れば、陳厚耀（順治五〈一六四八〉年生康熙六一〈一七二二〉年歿）の注釈があると伝えるがその存否を詳らかにしない。

『叢書綜録』は清姜国伊撰『守中正斎叢書』（同治光緒間刊本）中に、姜国伊正本併補注『孔子家語』一〇巻（光緒二一〈一八九四〉年刊）を著録しているが、本邦に於てはその所在が知られず未だ実査する機会を得ない。

更に、台湾の国立中央図書館架蔵の、清張鈇撰『家語集註』存巻一至四〇、光緒一五年著者手定底稿本一二冊が知られているが、これまた調査に及べず遺憾に思う。

猶、近年、孫詒譲撰「孔子家語校記」（『籀廎遺著輯存』〈斉魯書社　一九八七〉所収）が公刊されたことに留目しておきたい。沈文倬氏の前言に拠れば、杭州大学図書館所蔵孫氏遺書中の批校書汲古閣刊本家語二冊への孫氏校合書入（自筆及び令写の符箋を交える）を同大学語言文学研究室の孔鏡清氏が整理翻字された由である。書入の内容は、毛晋汲古閣旧蔵、肅穆蔵の所謂宋蜀刊大字本（本稿㈠199頁参照）及び『史記集解』『同索隠』所引の王注等との校勘である。斯かる所謂名家の批校本は、家語に限ってみても中国本土には相当数伝存しているようで、その充全且つ綿密な整理が順調に進められていることを慶ぶとともに、其の尋常でない尽力に対して敬意を表し、今後の成果を翹望する。

結　語

本稿は『孔子家語』現在伝本の博捜とその著録解題を企望したものであるが、当然のこととして、諸伝本を網羅出来たわけではない。本邦伝来の中国・朝鮮刊本及び近世諸儒撰述の未刊写本に限れば、叢書所収本を除いてはまず遺漏は尠いものと自負している。各所に散在する和刻本に就いては、往々先覚の書入を遺すが故に猶継続して調査する必要を感じる。中国大陸・台湾所在本の調査は今後の懸案である。

擱筆するにあたり、一二提言付贅して結びに替えたい。

一は、テキスト整定の必要性に関してである。現行の王肅注本は、宋本系統の善本と目される〔元和〕古活字版、汲古閣刊本、所謂宋蜀刊大字本ですら偽脱を免れず、刊行に際して有意の臆改の個所が散在すること先学の縷々指摘する如くであり、諸テキスト間の異同は夥しい。王肅注本の原初の形に逼る為には、まず其の同異につき仔細な検討校勘の手続きを履むことが必須であること論を俟たない。此の校勘に当っては、宋刊本出現以前の形態を窺うテキストとしては敦煌写本の零巻及び『群書治要』所収の節略本以外に伝存しない現在、唐以前に成立した諸注釈に引かれた家語本文並に王肅注の条々を博捜集輯して対校に備える用意を欠かせない。本稿各処に於て言及した如く、先学も既に『五経正義』『史記集解』『同索隠』『文選注』『太平御覽』等所引の家語に着目し、部分的には校勘に依用してはいるが、体系的にテキスト整定を企図した業績は未だ皆無と言える。種々工具書が整備され、諸伝本の蒐集が従来になく容易である今日、此の校定の作業を進めるべき機は熟していると思われる。

いま一つには、先学の研鑽の足跡を辿り、その遺された注釈論考を会萃考覈し組織的に系統立てる必要性を感じる。その為にはまず未刊写本の校刊、諸書入本の整理公刊の作業が、等閑に付すべからざる後学としての責務でもあろう。また、文集・雑記随筆類に散見する関連論文の集成も為されなければならない。此の事を通して、現時点での研究の蓄積とその水準を見極めることは爾後の研究に多大の示唆を与えるはずである。

以上の基礎的研究を抜きにしては、家語研究の宿案である古家語今家語の問題或は王肅偽撰説、更には一字一句の解釈に就き、種々細々に論じ挙げても砂上の楼台を築く徒労に終るを危懼するものである。

本調査に際して、御所蔵本の閲覧・複写に就き格別の御配慮を賜った諸図書館文庫及び関係者各位の御厚情に対して謹しんで感謝の意を表する。また、本研究は、昭和五三～五五年度トヨタ財団の助成による故阿部隆一を代表とする共同研究「国書並漢籍総目録の編纂―その緒業としての部門別目録」の調査の一部であり、昭和五七年度及び平成元年度の両度に亘り、慶応義塾学事振興資金の研究費補助を受けたことを附記する。